

経済学専攻

開設科目	理論経済学研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 ミクロ経済学及びマクロ経済学

授業の一般目標 ミクロ経済学及びマクロ経済学を復習し、その問題点を検討する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ミクロ経済学及びマクロ経済学を理解する

授業の計画（全体） ミクロ経済学及びマクロ経済学の理論について出席者が順番に発表し、その問題点について議論し理解を深めます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 消費関数 1
- 第 2 回 項目 消費関数 2
- 第 3 回 項目 消費関数 3
- 第 4 回 項目 労働市場
- 第 5 回 項目 投資関数 1
- 第 6 回 項目 投資関数 2
- 第 7 回 項目 費用関数
- 第 8 回 項目 総供給関数
- 第 9 回 項目 総需要関数
- 第 10 回 項目 在庫投資
- 第 11 回 項目 預金市場
- 第 12 回 項目 貸付市場
- 第 13 回 項目 国債市場
- 第 14 回 項目 マクロ経済モデル 1
- 第 15 回 項目 マクロ経済モデル 2

成績評価方法（総合） 参加姿勢、レポート、出席により評価します。

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	制度の経済学研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	植村高久				

授業の概要 現代の制度論の基本的な文献を渉猟し、経済学における制度の扱い方についての概括的理解を得る。

授業の一般目標 制度論経済学の基本的な概念を理解する。制度論的思考法と新古典派的思考法の違いを識別する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：制度や慣習、行動類型など制度論の基本概念を操作できる。 思考・判断の観点：制度論的思考法による問題設定ができる。

授業の計画（全体） 制度論に関する基本的文献を輪読する。

成績評価方法（総合） 輪読における理解度、議論への参加度で評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは授業内で指定する（相談して決める）。

開設科目	金融経済と貨幣理論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 この講義では、基礎的な金融経済理論および貨幣理論の考察を通じて、今後のわが国の金融システムがどのように変化すべきなのかを理論的・実証的に検証していくことを目的とする。 / 検索キーワード 金融理論、貨幣理論、マネー、Money、金融機関、金融制度、金融システム

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 金融の歴史：明治期から戦後復興期まで
- 第 3 回 項目 高度成長期の金融システム
- 第 4 回 項目 金融自由化
- 第 5 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (1)
- 第 6 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (2)
- 第 7 回 項目 公的金融と財政投融资制度
- 第 8 回 項目 公的金融と郵便貯金
- 第 9 回 項目 金融の現状
- 第 10 回 項目 貨幣の役割：貨幣理論の基礎
- 第 11 回 項目 貨幣需要
- 第 12 回 項目 利率の期間構造
- 第 13 回 項目 金融仲介機関と情報の非対称性
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備

開設科目	金融システムとファイナンス研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 この講義では、金融工学(ファイナンス)理論や情報の経済学など、よりアドバンスド(発展的)な金融理論を理論的・実証的に検証していくことを目的とする。/検索キーワード 金融工学 ファイナンス 投資決定理論

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 1
- 第 3 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 2
- 第 4 回 項目 統計学の基礎 1
- 第 5 回 項目 統計学の基礎 2
- 第 6 回 項目 平均・分散アプローチ 1
- 第 7 回 項目 平均・分散アプローチ 2
- 第 8 回 項目 CAPM 理論 1
- 第 9 回 項目 CAPM 理論 2
- 第 10 回 項目 APT(価格裁定理論)
- 第 11 回 項目 行動ファイナンス理論
- 第 12 回 項目 デリバティブの概要
- 第 13 回 項目 オプション価格決定理論 1
- 第 14 回 項目 オプション価格決定理論 2
- 第 15 回 項目 予備

メッセージ 統計学や基礎的な数学ツールは各自で補ってください。

開設科目	公共経済研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤井大司郎				

授業の概要 公共経済研究 B とともに、公共部門の経済理論に属する緒テーマを幅広く学ぶことを目的とする。この科目は、ミクロ経済学、マクロ経済学、及び厚生経済学に関する理解を前提としており、ある程度の経済数学的知識（微積分、線形数学の初歩程度）にも p 通じていることが望ましい。また、必要に応じて関連する学術論文（英文）を参照することもあるので、英語読解力も求められる。

授業の一般目標 財政学の理論的基礎を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ミクロ経済学、マクロ経済学、及び厚生経済学に関する基礎知識
 技能・表現の観点：図式、数学の操作力を駆使できること。

教科書・参考書 教科書：lectures on Public Economics, A.B. Atkinson and J.E. Stiglitz, M c G r a w - H i l l, 1980 年

開設科目	公共経済研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤井大司郎				

授業の概要 公共経済研究 A とともに、公共部門の経済理論に属する緒テーマを幅広く学ぶことを目的とする。この科目は、ミクロ経済学、マクロ経済学、及び厚生経済学に関する理解を前提としており、ある程度の経済数学的知識（微積分、線形数学の初歩程度）にも p 通じていることが望ましい。また、必要に応じて関連する学術論文（英文）を参照することもあるので、英語読解力も求められる。

授業の一般目標 財政学理論の基礎を学ぶ。

教科書・参考書 教科書：lectures on Public Economics, A.B. Atkinson and J.E. Stiglitz, M c G r a w - H i l l, 1980 年

開設科目	計量経済学研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 経済理論を現実の経済および社会データを用いて、検証できるために必要な基本となる分析ツールを取り扱う授業である。特に、重回帰モデルの理論とその応用方法について、テキストを用いて輪読し、その後パソコンを用いた実習形式の授業とする。目的とする分析テーマに合わせて、統計データを収集し、実際に推計を行い、推定結果についての評価までをレポートとして作成する。

授業の一般目標 重回帰分析の基礎的な理論を理解する。経済理論を現実のデータを用いて検証する。計量経済学的手法を用いた研究を分析結果をみて、理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な計量経済学の理論を理解している。データ制約が存在する場合、どのような対処方法で分析可能であるかを理解している。思考・判断の観点：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。計量経済学的手法を正しく適用し、結果を判断できる。態度の観点：輪読のレジメのとりまとめ、そして実習講義として、自らが学ぶことが極めて重要であることから、積極的に粘り強く課題に取り組むことができる。技能・表現の観点：レポートを効果的に作成できる。短時間にPCの扱い方をマスターしながら、統計データを正しく処理することができる。内容、形式ともに十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画(全体) データを用いた統計的手法をいくつか解説した後に、重回帰分析の様々な事例を課題に出しながら講義を進める。重回帰モデルについては係数についての解釈、さらに誤差の分散が等しくないとき、系列相関がある時の問題を扱う。次に多重共線性の問題、ダミー変数の利用方法、同時方程式モデルと計量経済学での識別問題への導入を行う。時間が許せば、分布ラグモデルや期待のモデルについても取り扱う予定である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 経済データにおける様々な統計的利用
- 第 2 回 項目 レポート作成上の分析事例の解説
- 第 3 回 項目 最小 2 乗法
- 第 4 回 項目 重回帰モデル(1) 内容 統計量の利用 残差プロット、決定係数(自由度修正済み) 回帰係数の解釈
- 第 5 回 項目 重回帰モデル(2) 内容 安定性の検定、
- 第 6 回 項目 分散不均一性 内容 分散不均一性の検出 分散不均一性の影響 問題解決方法 1
- 第 7 回 項目 分散不均一性 内容 問題解決方法 2
- 第 8 回 項目 系列相関 内容 DW 検定、自己相関のある誤差項での推定方法
- 第 9 回 項目 系列相関 内容 AR(1) の誤差が OLS 推定量に与える影響、ラグつき変数を含むモデルのケース、その他の検定と対処方法
- 第 10 回 項目 多重共線性 内容 尺度、解決方法
- 第 11 回 項目 ダミー変数 内容 活用方法
- 第 12 回 項目 同時方程式モデル 内容 識別問題、識別の必要十分条件、推定法(1)
- 第 13 回 項目 同時方程式モデル 内容 推定法(2)
- 第 14 回 項目 期待のモデル 内容 期待のナイーブモデル、対応型モデル、合理的期待モデル
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 講義中にて輪読するレジメと報告(授業参加度、態度を含む:評価比率 80%)と講義中に課題とするレポート(評価比率 20%)によって評価する。

教科書・参考書 教科書: 入手する必要のあるテキストを第 1 回授業の時に正式に指示をする。 / 参考書: 入手が望ましい参考文献は講義中に別途紹介する。

メッセージ レポート作成に必要なマイクロソフト word や Excel の知識を持っていること(同様な機能を持つアプリケーションも可)を前提とします。また、計量分析のためのアプリケーションは講義中に指示し、指導します。様々な課題に粘り強く取り組んでいただきたいと思います。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経済応用数学 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 受講生の数学的予備知識に配慮しながら，ミクロ経済学の数学的理解に必要な不可欠な多変数関数の微分や行列式や凹関数の最大値問題などについて概説する。応用として，国家公務員試験及び地方公務員試験上級の一部の問題の解説も行う。尚，他に希望があれば相談にのる。

授業の一般目標 ミクロ経済学で使う数学を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 偏導関数の計算ができる。 2. 行列式の計算ができる。 3. 無差別曲線，限界代替率などの概念を理解できている。 思考・判断の観点： 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 変数関数の微分の計算 その 1
- 第 2 回 項目 1 変数関数の微分の計算 その 2
- 第 3 回 項目 1 変数関数の最大・最小問題
- 第 4 回 項目 偏微分 その 1
- 第 5 回 項目 偏微分 その 2
- 第 6 回 項目 高階偏微分
- 第 7 回 項目 全微分
- 第 8 回 項目 接平面
- 第 9 回 項目 合成関数の微分 その 1
- 第 10 回 項目 合成関数の微分 その 2
- 第 11 回 項目 行列式の計算 その 1
- 第 12 回 項目 行列式の計算 その 2
- 第 13 回 項目 行列式の計算 その 3
- 第 14 回 項目 陰関数定理と無差別曲線 その 1
- 第 15 回 項目 陰関数定理と無差別曲線 その 2

成績評価方法（総合） 毎回演習問題を出す。その結果を見て成績を付ける。

教科書・参考書 教科書： 授業開始時点に指示する。

メッセージ 毎回演習問題を出すので必ず次回までに解いてくること。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp，電話:933-5595，研究室:C213。 オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	経済応用数学 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 経済応用数学 A に引き続き，ミクロ経済学の理解に必要な数学の概説を行う。応用として，国家公務員試験及び地方公務員試験上級の一部の問題の解説も行う。

授業の一般目標 ミクロ経済学で使う数学を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 条件付き極値問題の意味を理解し，具体的な問題が解ける。 2. 効用最大化問題・支出最小化問題の意味を理解し，具体的な問題が解ける。 3. スルツキー方程式が扱える。 4. 所得項・代替項の意味を理解し，その基本的な性質が扱える。 思考・判断の観点： 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 条件付極値問題 その 1
- 第 2 回 項目 条件付極値問題 その 2
- 第 3 回 項目 凸集合
- 第 4 回 項目 凸関数，凹関数 その 1
- 第 5 回 項目 凸関数，凹関数 その 2
- 第 6 回 項目 準凹関数
- 第 7 回 項目 効用最大化問題 その 1
- 第 8 回 項目 効用最大化問題 その 2
- 第 9 回 項目 支出最小化問題 その 1
- 第 10 回 項目 支出最小化問題 その 2
- 第 11 回 項目 双対性
- 第 12 回 項目 スルツキー方程式 その 1
- 第 13 回 項目 スルツキー方程式 その 2
- 第 14 回 項目 代替項の性質
- 第 15 回 項目 ギッフェン財，代替財，補完財

成績評価方法（総合） 毎回演習問題を出す。その結果を見て成績を付ける。

教科書・参考書 教科書： 授業開始時点に指示する。

メッセージ 毎回演習問題を出すので必ず次回までに解いてくること。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp，電話:933-5595，研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	政府と政策	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 この講義では主として日本のマクロ経済政策，ミクロ経済政策に携わっている日本の政策立案者（政策当局者）が執筆した英文論文を読む。そして政策立案者が日本経済や財政，そして財政金融，並びに財政金融政策をどのように評価しているかを考察する。読む論文は英文の論文である。注意してほしいことは，英文和訳の講義ではないこと。論文を読み，受講生に内容を発表してもらい。そして論文の中で扱っているテーマについて議論することがメインである。

授業の一般目標 政府の政策理論を学ぶ。

授業の計画（全体） 発表者に論文の内容を報告してもらい、その後他の受講者・教員からの質疑応答を受けつける。適宜・教員からの補足説明も加える。最後に論文のテーマについて、報告者も含めてディスカッションをする。

成績評価方法（総合） 発表と議論の参加度合いから評価する。

メッセージ 扱うテキストや論文は初回講義時にお知らせします。またミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学の基礎知識を前提とします。

連絡先・オフィスアワー nakama73@yamaguchi-u.ac.jp ご不明な点がありましたら、メールで問い合わせてください。

開設科目	海運論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 国際海運経済学の諸理論について学習します。

授業の一般目標 国際海運経済学の諸理論の理解を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際海運経済学の諸理論を理解する。

授業の計画（全体） 講義は、下記のテキストに沿って講読と報告の形式で進めます。

成績評価方法（総合） 成績評価は、学期末のレポート（10,000 字以上）によって行います。

教科書・参考書 教科書： 海運国際経済学, 澤喜司郎, 海文堂出版, 2004 年

開設科目	海運論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 海運論研究 A に続けて、国際海運経済学の諸理論について学習します。この講義は海運論研究 A の単位を修得していることが受講の条件になります。

授業の一般目標 国際海運経済学の諸理論の習得を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際海運経済学の諸理論を習得する。

授業の計画（全体） 講義は、下記のテキスト沿って講読と報告の形式で進めます。

成績評価方法（総合） 成績評価は、学期末のレポート（10,000 字以上）によって行います。

教科書・参考書 教科書： 国際海運経済学, 澤喜司郎, 海文堂出版, 2004 年

開設科目	交通論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 交通現象や人々の交通行動を研究するための基礎としての交通計量経済学について学習します。

授業の一般目標 交通計量経済学の諸手法の習得を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：交通計量経済学の諸手法を習得する。

授業の計画（全体） 講義は、下記のテキストに沿って講読と報告の形式で進めます。

成績評価方法（総合） 成績評価は、学期末のレポート（10,000 字以上）によって行います。

教科書・参考書 教科書：交通計量経済学（改訂版），澤喜司郎，成山堂書店，2000 年

開設科目	交通論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 交通論研究Aに続き、交通現象や人々の交通行動を研究するための基礎としての交通計量経済学について学習します。なお、本講義の履修には、交通論研究Aを履修してあることが前提条件となります。

授業の一般目標 交通計量経済学の諸手法の習得を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：交通計量経済学の諸手法を習得する。

授業の計画（全体） 講義は、下記のテキストに沿って講読と報告の形式で進めます。

成績評価方法（総合） 成績評価は、学期末のレポート（10,000字以上）によって行います。

教科書・参考書 教科書：交通計量経済学（改訂版），澤喜司郎，成山堂書店，2000年

開設科目	観光経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河村誠治				

授業の概要 観光に関連する経済原理を学び、観光の現代的課題について検討する。とりわけ、1997年の外客誘致法の制定から2007年スタートの「観光立国推進基本法」までのわが国のインバウンド・ツーリズムを振り返るとともに、真に「住んでよし、訪れてよし」の観光地作りのあり方を探る。/ 検索キーワード 観光経済

授業の一般目標 社会学的視点とともに経済学的視点からも観光を語れるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：観光経済の原理を踏まえた議論ができる。 思考・判断の観点：観光を取り巻く現状を理解し、観光のあるべき姿に対する意見を述べるができる。 関心・意欲の観点：自らの疑問点を分析し、報告・討論することができる。

授業の計画(全体) 観光に関する経済理論の文献を輪読する。毎回分担報告者がレジュメを作成し報告する。また、報告者は予めその日の報告に関連するトピックを準備し、自ら考察を加えたものを準備する。その日の報告に基づき、全員が参加して討論する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 計画
- 第 2 回 項目 観光経済理論(1) 内容 観光経済理論の報告・討論
- 第 3 回 項目 観光経済理論(2) 内容
- 第 4 回 項目 観光経済理論(3) 内容
- 第 5 回 項目 観光経済理論(4) 内容
- 第 6 回 項目 観光経済理論(5) 内容
- 第 7 回 項目 観光経済理論(6) 内容
- 第 8 回 項目 観光経済政策(1) 内容 ウェルカムプラン 21
- 第 9 回 項目 観光経済政策(2) 内容
- 第 10 回 項目 観光経済政策(3) 内容
- 第 11 回 項目 観光経済政策(4) 内容
- 第 12 回 項目 観光経済政策(5) 内容
- 第 13 回 項目 観光経済政策(6) 内容
- 第 14 回 項目 観光経済政策(7) 内容
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 出席(30%)、報告(50%)、参加姿勢・発言内容など(20%)により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：観光経済学の原理と応用〔第二版〕、河村誠治、九州大学出版会、2008年 / 参考書：その都度指示する。

メッセージ 報告者が提供するトピックでは、資料の収集やデータ分析などを各自で行ってもらおう。ワード、エクセルなどのソフトを利用し、分析できることが望まれる。

開設科目	日本経済史研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 テーマ：日本経済近代化と企業家の役割 明治・大正・昭和にかけての近代日本経済史について、「企業家 (entrepreneur)」の活動およびその役割に焦点を絞って取り扱う。19世紀半ば、黒船の来航による西洋文明の衝撃によって近代国家への道を歩み始めた日本が、西洋の先進技術を貪欲に吸収し、種々の産業を興し、工業化を推進し、ついには産業革命を達成するなど、驚異的経済発展を遂げた事実は広く知られている。その発展の要因には様々なものが考えられるが、近年特に注目されているのが「企業家」の果たした役割である。「企業家」活動が経済発展に与える役割の大きさは、シュンペーターによって理論的に指摘されて以来、経済史学・経営史学に多大な影響を与え、多くの研究蓄積をもたらしている。本授業では、こうした研究成果を踏まえつつ、日本の「企業家」群像の諸活動を通じて、近代日本の経済発展について多面的に考察していきたい。 / 検索キーワード 日本経済史、日本近代史、経営史、企業家、企業史

授業の一般目標 ・近代日本の経済史について理解を深める。 ・「企業家」の諸活動が日本の産業革命、近代化に及ぼした影響を多面的に考察する。

授業の計画 (全体) 当面は下記のテキスト『企業家たちの挑戦』を輪読する。受講者には順次報告を課し、それについての討論および補足を行いながら進めていく。また、関係する基本的文献・資料を把握し、また、それらを用いた資料講読も適宜行う。

成績評価方法 (総合) 課題の報告 (45 %) およびレポート (30 %) による。この他、授業への取組み (15 %)、出席 (10 %)。

教科書・参考書 教科書：企業家たちの挑戦, 宮本又郎, 中央公論新社, 1999年; テキストは各自購入すること。 / 参考書：その他の必要な参考文献は、講義の中で適宜紹介する。

メッセージ ・講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合がある。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	文化心理学研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	TIMOTHYROLAND SCOTT TAKEMOTO				

授業の概要 人間は自分の個人的な価値観に基づいて、自分の個人的な利便性を追及するために、合理的な経済活動を行っており、社会的な圧力がなければ誰もこのような合理的な個人主義者になるという欧米的な考え方が、全ての文化経済に当てはまると思われてきた。社員はできるだけ自分の能力を発揮できる職場を求めたながら、自分の能力を雇用者に売っているというのが雇用関係の基本だとも主調される。一方では、日本・中国などアジア諸国では、先述した欧米合理個人主義に当てはまらない経済的システムが形成されてきた。近年の文化心理学という実験・社会心理学は、個々人間の独立性・価値観の独立性・合理性を欧米諸国の文化思想（神話）に過ぎないということを実証的に論じ始めた。本授業では、皆さんの経済学的研究との関係を考えながら、このような新しい社会心理学的な実験研究を紹介する。 / 検索キーワード 心理学・文化・集団主義・個人主義・欧米化

授業の一般目標 文化心理学の最新の実験的研究や下記の理論を理解すること 1) 集団主義と個人主義がどのように定義されてきたか 2) 相互依存主義の新しい見解がどのような問題を呈しているか 3) 自己高揚の普遍性についての論争 4) アジア諸国における道徳（あるいはそのなさ） 5) 全体的・分析的思考の理論 これらの研究が経済学的研究にどのように影響するかを考えることにある。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化心理学の理論を理解する 思考・判断の観点：文化心理学の理論を自らの経済学的研究に応用する 技能・表現の観点：どのようにして自分の研究の心理的な前提の検証法

授業の計画（全体）文化心理学では特に欧米と東洋（特に中国・韓国・日本）との間にある考え方の違いをいくつかの理論的観点から説明してきました。この授業では、各理論を考察してから、主張された違いがどのように他の心理学の分野に及ぶか、また経済学にどのような影響を与えているかについて考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文化心理学の紹介 内容 Richard Shwederなどを参照して文化心理学がなんぞや紹介します。 授業記録 PPT
- 第 2 回 項目 集団主義と個人主義（1/3） 内容 Geert Hofstedeの個人主義対集団主義の理論を紹介する 授業記録 PPT
- 第 3 回 項目 集団主義と個人主義（2/3） 内容 Hazel Markusと北山忍の理論を紹介する 授業記録 PPT
- 第 4 回 項目 集団主義と個人主義（3/3） 内容 結城正樹の理論を紹介する 授業記録 PPT
- 第 5 回 項目 ナレーション（物語）の心理学 内容 言葉を使うことは思考にどのような影響を与えているか 授業記録 PPT
- 第 6 回 項目 自己高揚（自惚れ）の心理学 内容 欧米人は自惚れやであるのに対して、日本人はある種の劣等感をもつことで、反省し自己改善する 授業記録 PPT
- 第 7 回 項目 文化心理学と認知 内容 全体的思想と分析的思想という Richard Nisbettの理論 授業記録 PPT
- 第 8 回 項目 思考の媒体と心理学 内容 自己意識の主要媒体（チャンネル）が欧米と日本では異なっているという私設 授業記録 PPT
- 第 9 回 項目 ホラーの文化心理学 内容 ホラーやタブーについての諸理論を紹介する 授業記録 PPT
- 第 10 回 項目 ホラーと文化心理 内容 実際に昔話を読んで映画を見て 社会におけるタブー対象の影響 授業記録 PPT
- 第 11 回 項目 文化心理学の応用 内容 精神療法と文化心理学 授業記録 PPT
- 第 12 回 項目 履修生の研究への応用 内容 文化心理学的な観点から、履修生の研究テーマについて考える 授業記録 PPT

- 第 13 回 項目 履修生の研究への応用 内容 文化心理学的な観点から、履修生の研究テーマについて考える 授業記録 PPT
- 第 14 回 項目 履修生の研究への応用 内容 文化心理学的な観点から、履修生の研究テーマについて考える 授業記録 PPT
- 第 15 回 項目 履修生の研究への応用 内容 文化心理学的な観点から、履修生の研究テーマについて考える 授業記録 PPT

成績評価方法 (総合) 出席・授業参加も重視しながら、文化心理学が自分の研究への影響を考察するレポートを課す。

教科書・参考書 教科書：パワーポイントスライドをインターネットで配布する / 参考書：社会心理学：アジア的視点から、山口勸編著、放送大学教材、1998 年；木を見る西洋人 森を見る東洋人、ニスベツト, R. E., ダイヤモンド社, 2004 年；(3) 日本人らしさ」の発達社会心理学 自己・社会的比較・文化, 高田 利武, ナカニシヤ出版, 2004 年；文化行動の社会心理学 文化を生きる人間のこころと行動, 金児 暁嗣, 結城 雅樹, 北大路書房, 2005 年；参考書を購入する必要はありませんが、文化心理学をもっと詳しく勉強したい学生にお貸しします。

メッセージ 話し合いながら、欧米文化普遍主義を考え直しましょう。

連絡先・オフィスアワー 083-933-5555 にお電話いただければいつでもどうぞ A 棟の 4 階まで

開設科目	国際メディア研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 国際比較に基づいて新聞の歴史的発展、新聞市場の現状や将来性について理論的に分析。

授業の一般目標 媒体論的アプローチによって新聞の特質を分析する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：新聞の歴史的発展とメディア的構造を理解する。 思考・判断の観点：新聞の媒体としての役割について判断ができる。 関心・意欲の観点：新聞に包括的に関心を持つ。 態度の観点：自分の研究分野に新聞を活かす。 技能・表現の観点：専門的なレベルで新聞に関して議論ができる。

授業の計画（全体） 1. 欧米と日本の新聞の歴史的発展。 2. 欧米と日本の新聞市場の現状。 3. 新聞紙面とジャーナリズム。 4. ニュースとニュースデザイン。 5. 新聞の将来。

成績評価方法（総合） 授業の参加度（40％）+レポート（60％）

メッセージ 毎回の授業の具体的な内容は、受講者の関心と専門知識レベルを参考にして調整する。

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際経済学研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田淵太一				

授業の概要 テキストを輪読しつつ貿易理論の形成史と現実の世界経済の諸力との関連を理解する。

授業の一般目標 抽象的に理解されがちな貿易理論を，歴史，政治，通貨等の多面的な視角から捉え直す。

授業の計画（全体） テキストを輪読しつつ関連文献を紹介してゆきます。

成績評価方法（総合） 報告・討論等，日常的な活動により評価します。授業への参加度 50 %，受講者の発表 50 %。

教科書・参考書 教科書： China Trade and Empire(1827-1843), Pichon, British Academy, 2006 年

メッセージ 大学院レベルの英語読解力と経済理論・経済史の知識を要求します。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは前期開始後に発表します。

開設科目	多国籍企業と世界経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河野真治				

授業の概要 多国籍企業が世界経済にどのような変化をもたらしているか検討する。具体的には次の諸点を問題とする。(1) 企業内国際分業が貿易に与える影響、(2) 直接投資が途上国の経済発展に与える効果、(3) 多国籍化と空洞化、(4) 先進国間投資とグローバル化、地域主義、(5) 多国籍企業間の競争、M & A、戦略的提携。 / 検索キーワード 直接投資

授業の一般目標 直接投資に関する最新の情報を学ぶこと。

授業の計画(全体) World Investment Report 2008、を読む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 レポートと討論 (以下同じ)

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) 授業中のレポートと、討論内容で評価する。

教科書・参考書 教科書: World Investment Report 2007, UNCTAD

開設科目	国際産業研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河野真治				

授業の概要 いくつかの産業を取り上げて、現代における巨大企業間の国際競争の特徴を探り出す。検討するのは、自動車、半導体、電気通信、航空、コンピュータ、鉄鋼、石油などである。問題となるのは、直接投資、M & A、提携、国際的な工場配置、情報化等の諸点である。 / 検索キーワード 国際産業組織

授業の一般目標 国際間の寡占企業間の競争の実態について学ぶ。

授業の計画(全体) 学生が自分で産業を選び、国際競争の実態について報告する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 レポートと討論 (以下同じ)

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) レポートと討論内容で評価する。

開設科目	EU 経済研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊 嘉哲				

授業の概要 EU にかんする日本語と英語の文献を読む。その内容の報告した上で、それに対する自分の意見を述べてもらう。主として、EU の地域政策と共通農業政策を扱う。

授業の一般目標 EU にかんする知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストを理解する。 思考・判断の観点：テキストの内容に対して自分の意見を述べる。

授業の計画（全体） EU に関する日本語または英語文献の輪読。 テキストは受講者の意見を聞いた上で決める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 輪読

第 3 回 項目 同上

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 授業中の発表で成績評価。欠席は欠格条件。

教科書・参考書 教科書：第 1 回授業で指示する。

メッセージ 積極的に自分の意見を述べてください。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	アジア経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河村誠治				

授業の概要 アジアとくに中国、台湾、韓国、日本など東アジアの開発独裁や官僚主導型発展という特質と、世界的潮流ともなってきたインドなどに見られる市場化による発展という二つの対極軸を想定し、両者を重ね合わせる経済発展が可能なものか、そして新たな矛盾の発生と解消について、院生の東アジア経済の関心領域において、院生とともに研究していく。

授業の一般目標 単なる諸論文の解釈でなく、それをもとに新たな論文・レポートを書き上げるスキルと知識、そしてその応用を身につける。ものを書くにも一定のスキルと知識、そしてその応用が不可欠であるということに気づくことを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アジアの経済発展を説明する。 思考・判断の観点：アジアの経済発展の原動力を考える 関心・意欲の観点：自らの疑問点を分析し、報告・討論できる。

授業の計画（全体） アジア経済研究の基本的姿勢や枠組みを教えた後、アジア経済に関心のあるテーマを受講生自らが定め、それを報告し、ディスカッションしていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アジアの定義 内容 一元的アジアか多元的アジアか
- 第 2 回 項目 アジアの経済発展 内容 データ分析
- 第 3 回 項目 アジアとくに東アジアの経済発展のメカニズム
- 第 4 回 項目 東アジアの工業化とポスト工業化など
- 第 5 回 項目 中国の経済発展と課題 (1) 内容 1978 年前
- 第 6 回 項目 中国の経済発展と課題 (2) 内容 1978 年以降
- 第 7 回 項目 中国の経済発展と課題 (3)
- 第 8 回 項目 台湾の経済発展と課題
- 第 9 回 項目 香港の経済発展と課題
- 第 10 回 項目 インドの経済発展と課題 (1) 内容 とくにハイテク産業の役割
- 第 11 回 項目 インドの経済発展と課題 (2) 内容 とくにハイテク産業の限界
- 第 12 回 項目 院生研究テーマ・レポート報告・検討
- 第 13 回 項目
- 第 14 回 項目
- 第 15 回 項目

成績評価方法（総合） ディスカッションと何某かのレポート。

教科書・参考書 教科書：各種資料を配布する。 / 参考書：東アジアへの視点 2006 春季特別号 特別報告 東アジア経済の趨勢と展望, 財団法人国際東アジア研究センター, 財団法人国際東アジア研究センター, 2006 年

開設科目	東アジア経済研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尹春志				

授業の概要 この講義では、現在、東アジアの焦点となっている自由貿易協定・経済連携協定の動きを、この地域の経済構造と政治力学の観点から理解することを目的とする。

授業の一般目標 現在の東アジアの政治経済力学を理解する視点を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：東アジアの経済構造、国際政治構造について理解する。 思考・判断の観点：日本と東アジアの今後の関係を展望するための視点を養う。

授業の計画（全体）東アジアの経済構造に関する理解からはじめ、それが日本を中心とした自由貿易協定戦略にどのように反映されているのかを検討する。次に、中国やASEAN、そして米国などの動向に注目した分析を行う。これらの課題をもとに参加者の討論を行いたい。

成績評価方法（総合）出席および討論への参加によって評価するが、受講者の理解度を勘案してレポートを課すことも考えている。

教科書・参考書 教科書：必要に応じて指示、配布する。 / 参考書：必要に応じて指示する。

開設科目	東アジア社会経済研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	李海峰				

授業の概要 中国の市場経済発展と東アジア社会経済の構造変化を中心に分析し、検討する。 / 検索キーワード 社会経済の構造変化、消費生活の変貌、大衆消費社会、研究方法、

授業の一般目標 中国の市場経済発展と東アジア社会経済の構造変化の研究分析を通して、経済、経営理論、研究方法を習得してもらう、

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 東アジア社会経済の構造変化
- 第 2 回 項目 外資、技術、経営システムの導入
- 第 3 回 項目 市場経済の発展と消費水準の上昇
- 第 4 回 項目 経済政策と消費社会の変化
- 第 5 回 項目 生活水準の向上と階層間格差の拡大
- 第 6 回 項目 消費市場の拡大と商業環境の変化
- 第 7 回 項目 情報環境の発達と消費者行動意識
- 第 8 回 項目 大衆消費社会の形成
- 第 9 回 項目 都市・農村間の格差拡大
- 第 10 回 項目 大量消費と東アジアの環境
- 第 11 回 項目 社会主義市場経済について
- 第 12 回 項目 研究方法の探索
- 第 13 回 項目 社会調査方法
- 第 14 回 項目 アンケートの設計
- 第 15 回 項目 統計的分析手法

教科書・参考書 教科書：第一回目の講義の際に指示する、 / 参考書：第一回目の講義の際に指示する、

メッセージ 充実しておもしろい学問の道を探求しましょう、

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	東アジア社会経済研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	李海峰				

授業の概要 東アジアにおける開発と経済発展、地域格差、階層間格差を中心に理論と実証方法で検討する。 / 検索キーワード 東アジアにおける開発、経済発展と格差の拡大、理論と実証、

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中国の市場経済 発展と東アジア の構造変化
- 第 2 回 項目 地域開発の課題
- 第 3 回 項目 経済成長と地域 格差
- 第 4 回 項目 政府の所得分配 政策と格差の拡大
- 第 5 回 項目 都市と農村の生 活水準の変化
- 第 6 回 項目 地域間、階層間 格差の拡大
- 第 7 回 項目 人間開発と貧困
- 第 8 回 項目 人間開発とジェ ンダー
- 第 9 回 項目 農村開発と農業 生産性の向上
- 第 10 回 項目 社会開発と貧困 の解消
- 第 11 回 項目 地域経済圏形成 の課題
- 第 12 回 項目 社会主義市場経 済について
- 第 13 回 項目 研究方法の探索
- 第 14 回 項目 理論と実証方法
- 第 15 回 項目 社会調査と分析 方法

メッセージ 充実しておもしろい学問の道を探求しましょう、

開設科目	中国産業政策研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	陳建平				

授業の概要 改革開放を通じて中国の産業構造は大きく変貌した。本講義では、中国の産業政策について取り上げ、文献等の精読を通じて認識を深める。

授業の一般目標 中国の産業政策の現状と課題についての理解を深める。

授業の計画(全体) 文献資料等の講読、それについての討論等を通じて中国の産業政策についての知識と識見を深める。

成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート = 50% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 50% 出席 = 欠格条件

教科書・参考書 教科書：中国語資料を使うことがあるので、中国語の読解能力を有することが前提。

メッセージ 無断欠席しないこと。

開設科目	中国近現代文化の研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	齊藤匡史				

授業の概要 本科目は中国近代を社会、文化の側面から考察し、中国「近代」を捉えようとするものである。具体的には近代日本の文化人が見た「中国」を辿りながら、日本人の中国認識を考察しつつ、日本と中国の関係について考察を進める。／検索キーワード 中国「近代」の特質 日本人の中国観

授業の一般目標 中国「近代」社会文化の特性を理解し、今日の中国理解、日中関係理解の一助とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：中国が歩んだ「近代」について理解を深める 思考・判断の観点：現代中国、今日の中国と日本の関係を理解することができる 関心・意欲の観点：参考となる文献や資料を収集することができる 態度の観点：担当した課題を責任を持って調べ発表できる

授業の計画（全体） 文献輪読を中心に授業を進めるが、必要に応じて適宜講義を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中国近代史概説（1） 内容 講義形式
- 第 2 回 項目 中国近代史概説（2） 内容 講義形式
- 第 3 回 項目 参考文献の輪読（1） 内容 演習
- 第 4 回 項目 参考文献の輪読（2） 内容 演習
- 第 5 回 項目 参考文献の輪読（3） 内容 演習
- 第 6 回 項目 参考文献の輪読（4） 内容 演習
- 第 7 回 項目 参考文献の輪読（5） 内容 演習
- 第 8 回 項目 民国期から解放までの上海（1） 内容 講義形式
- 第 9 回 項目 民国期から解放までの上海（2） 内容 講義形式
- 第 10 回 項目 参考文献の輪読（6） 内容 演習
- 第 11 回 項目 参考文献の輪読（7） 内容 演習
- 第 12 回 項目 参考文献の輪読（8） 内容 演習
- 第 13 回 項目 参考文献の輪読（9） 内容 演習
- 第 14 回 項目 参考文献の輪読（10） 内容 演習
- 第 15 回 項目 レポート提出

成績評価方法（総合） 授業への貢献度、レポート、発表等総合的に評価する

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：適宜、講義の中で紹介する

開設科目	中国近現代文化の研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	齊藤匡史				

授業の概要 本科目は中国現代を社会、文化の側面から考察し、中国を捉えようとするものである。具体的には日本の文化人が見た「中国」を辿りながら、日本人の中国認識を考察しつつ、日本と中国の関係について考察を進める。 / 検索キーワード 現代中国の歩み 日中関係史

授業の一般目標 中国現代社会文化の特性を理解し、今日の中国理解、日中関係理解の一助とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：今日の中国が歩んだ現代史について理解を深める 思考・判断の観点：今日の中国社会のあり様を理解し、日中関係についての一定の見識を持つ 関心・意欲の観点：参考となる文献や資料を収集することができる 態度の観点：担当した課題を責任を持って発表できる

授業の計画（全体） 講義形式と文献輪読の授業を行う

成績評価方法（総合） 授業への貢献度、レポート、発表等総合的に評価する

教科書・参考書 教科書：プリントを使用する / 参考書：適宜、講義の中で紹介する

連絡先・オフィスアワー saito@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	政治理論研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 現代リベラリズムの再検討。リベラリズムはさしあたり種々のイデオロギー闘争を勝ち 抜いた 1 つの政治的イデオロギーであり、 Kommunismus 亡き後、その指導的イデオロギーとしての地位を確 固たるものにした感がある。しかし、欧米、そして日本においても、勝利したイデオロギーとしてのリベラリズムに対する異議申し立てが次々となされており、リベラリズムの現時的地位が安泰なわけでは ない。 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 例年、政治学の主要テーマに手広く言及する講義を続けてきたが、本年度は、リベラリ ズムの問題に特化して、それを中心に政治学全体を見渡すことを考えている。問題の焦 点を明らかにし て、さまざまな政治理論についての総合的な理解を目指す。

授業の計画 (全体) リベラリズムの歴史・成立を振り返り、そこに内在する問題点を明らかにした上で、 さ まざまな理論のリベラリズム批判を検討してゆく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 リベラリズム前 史 (1)
- 第 2 回 項目 同上 (2)
- 第 3 回 項目 同上 (3)
- 第 4 回 項目 リベラリズムと その哲学的基礎 (1) 内容 J・S・ミルと J・ロールズを
- 第 5 回 項目 同上 (2)
- 第 6 回 項目 同上 (3)
- 第 7 回 項目 リベラリズムの さまざまな形態 (1) 内容 リバタリアニズ ム
- 第 8 回 項目 同上 (2) 内容 社民主義
- 第 9 回 項目 同上 (3) 内容 卓越主義
- 第 10 回 項目 政治的リベラリ ズムとポストモ ダン・リベラリ ズム (1) 内容 J・ロールズと R・ロー ティを 中心に
- 第 11 回 項目 同上 (2)
- 第 12 回 項目 同上 (3)
- 第 13 回 項目 リベラリズムに 対するさまざま な批判 (1) 内容 共同体論・保守 主義
- 第 14 回 項目 同上 (2) 内容 共和主義
- 第 15 回 項目 同上 (3) 内容 フェミニズム・ 多文化主義

成績評価方法 (総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度などを総合的に判断し て評 価する。

教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。 / 参考書： 講義中に適宜指示する。

メッセージ 日本語を十分に操り、英語を十分に読みこなせる能力は最低限必要である。 英語を苦手とす る学生はご遠慮いただきたい。また、日本語についても、哲 学的議論に参加できる語彙力が求められる ので、市販されている哲学書など には目を通しておいていただきたい。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部 3 階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	憲法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	立山紘毅				

授業の概要 日本国憲法を中心に、その歴史と根本原理、諸外国との比較研究を行う。ただし、細目は受講生と協議の上決定する。

授業の一般目標 憲法を頂点とする法体系全般について、より深い専門的な理解を探求する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本国憲法及び諸外国憲法に関する知識 思考・判断の観点：具体的な事件における憲法問題の「発見」 関心・意欲の観点：狭く法律学の枠にとどまらず、社会全般の事象に対する幅広く深い関心 態度の観点：自ら問題を提起し、解決への道を図る姿勢 技能・表現の観点：上記の諸点を的確な日本語で表現し、違う意見の持ち主と理性的に討論する能力

授業の計画（全体） 憲法問題は多岐にわたるため、受講生と協議し、指導の幅もそれに左右される。

開設科目	憲法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	立山紘毅				

授業の概要 日本国憲法を中心に、その歴史と根本原理、諸外国との比較研究を行う。ただし、細目は受講生と協議の上決定する。

授業の一般目標 憲法を頂点とする法体系全般について、より深い専門的な理解を探求する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本国憲法及び諸外国憲法に関する知識 思考・判断の観点：具体的な事件における憲法問題の「発見」 関心・意欲の観点：狭く法律学の枠にとどまらず、社会全般の事象に対する幅広く深い関心 態度の観点：自ら問題を提起し、解決への道を図る姿勢 技能・表現の観点：上記の諸点を的確な日本語で表現し、違う意見の持ち主と理性的に討論する能力

授業の計画（全体） 憲法問題は多岐にわたるため、受講生と協議し、指導の幅もそれに左右される。

開設科目	行政法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 行政をめぐる法の諸問題について考察する。行政についての法には、基本原理、組織法、作用法、救済法などの分野があるが、そのいずれに焦点を当てるかおよび諸外国のものにするかわが国の問題を行うかなどについては参加者の要望も聞いたうえで具体化する。/ 検索キーワード 行政 行政処分 法治主義 救済法

授業の一般目標 行政をめぐる法の問題について、ある部分に焦点をあてかなり突っ込んだ探求をすること。

成績評価方法 (総合) 報告、レポート提出など総合的に評価して決める。

教科書・参考書 教科書：開講時に領域、テーマなどを協議して決める。日本のものを使用する以外に、外国のものを使用することも考えられる。/ 参考書：必要におうじて指示する。

連絡先・オフィスアワー 内線5 5 8 8

開設科目	行政法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 行政法をめぐる諸問題。総論的な原理論もしくは組織法の分野に関するもの、作用法の領域法あるいは救済法についてなどが考えられる。いずれも受講生の意見も踏まえて具体化する。 / 検索キーワード 行政 法治主義 行政争訟

授業の一般目標 行政とそれをめぐる法の諸問題について、そのいずれかの領域に焦点を当てて深めること。

成績評価方法 (総合) 報告、レポート提出などを総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：開講時に領域やテーマを協議して決める。日本語のものを使うか外国語のものを使うかについても協議して決める。 / 参考書：必要に応じてそのつど指示する。

連絡先・オフィスアワー 内線5 5 8 8

開設科目	現代行政法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 日本の行政をめぐる状況は、一方では新自由主義の下で“ 小さな政府 ”論と、他方における “ 地方分権 ” という、二つの潮流のただ中にある。 この講義では、こうした状況を踏まえながら、具体的な問題を素材にして行政法学における地方自治と地方分権を考えていく。

授業の一般目標 具体的な事例に対して、行政法学の見地から説明・分析する知識や能力を身につけてもらいたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 具体的問題の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深める。
思考・判断の観点： 問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。

授業の計画（全体） 具体的には、行政関係（特に地方自治・地方分権）の事例や判例を取り上げて、講義を進めていきたいと考えている。取り上げる事例や判例は、受講生と相談の上、決定する。

成績評価方法（総合） 出席、レポート等による。

教科書・参考書 教科書： 受講生の要望を聞いてから決める。 / 参考書： 開講時に指示する。

メッセージ 絶えず、行政をめぐる情報に注意を向けて欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

開設科目	応用行政法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 「現代行政法」での問題意識をさらに発展させ、より具体的な問題点を検討する。

授業の一般目標 具体的な事例に対して、行政法学の見地から説明・分析する知識や能力を身につけてもらいたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 具体的問題の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深める。
 思考・判断の観点： 問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。

授業の計画（全体） 具体的には、行政関係の事例や判例を取り上げて、講義を進めていきたいと考えている。取り上げる事例や判例は、受講生と相談の上、決定する。

成績評価方法（総合） 出席、レポート等による。

教科書・参考書 教科書： 受講生の要望を聞いてから決める。 / 参考書： 開講時に指示する。

メッセージ 日々のニュースに敏感であって欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

開設科目	税法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤田 正				

授業の概要 法人税法、国税通則法などの基本知識を予習していることを前提として、ケーススタディ、判例研究を通じて、税法的な思考に慣れ、応用力を習得することを目指します。税法が始めての人は、法人税法、国税通則法等の理解の前提となる会計学、民法、行政法などの基礎知識を含め、相当程度の予習が必要です。

授業の一般目標 実践的な文献やケーススタディ、判例研究を通じて、税法のより広く深い理解を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：税法の枠組みと基本知識に習熟していること 思考・判断の観点：税法の枠組みに沿った法的思考ができること 態度の観点：いろいろな立場からの意見構築ができること 技能・表現の観点：論理的で説得的な意見の構築ができること。分かりやすい簡潔で論理的な文章が書けること。

授業の計画（全体） 毎回、判例、論文、ケース等について、担当者によるレポートとディスカッションを行います。比較的分かりやすいテーマからはじめますが、初学者には相当な予習が必要です。

成績評価方法（総合） 出席状況、受講態度、期末レポート等を総合的に評価します。

教科書・参考書 参考書：税務大学校講本（税務大学校 HP よりダウンロード可能）による予習を前提として、授業を進めます。インターネット上（財務省・国税庁）にも利用できる資料がかなりありますので適宜紹介します。

メッセージ 税法の基本的な知識を持ち、理解があることを前提として授業を進めます。初学者の人は、相当程度の予習がないとついていけません。

連絡先・オフィスアワー（TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）月曜日 10 時 30 分～12 時、水曜日 10 時 30 分～12 時、

開設科目	税法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	澤田 正				

授業の概要 法人税法、国税通則法などの基本知識を予習していることを前提として、ケーススタディ、判例研究を通じて、税法的な思考に慣れ、応用力を習得することを目指します。税法が始めての人は、法人税法、国税通則法等の理解の前提となる会計学、民法、行政法などの基礎知識を含め、相当程度の予習が必要です。

授業の一般目標 実践的な文献やケーススタディ、判例研究を通じて、税法のより広く深い理解を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：税法の枠組みと基本知識に習熟していること 思考・判断の観点：税法の枠組みに沿った法的思考ができること 態度の観点：いろいろな立場からの意見構築ができること 技能・表現の観点：論理的で説得的な意見の構築ができること。分かりやすい簡潔で論理的な文章が書けること。

授業の計画（全体） 毎回、担当者によるレポートとディスカッションを行います。比較的分かりやすいテーマからはじめますが、初学者には相当な予習が必要です。

成績評価方法（総合） 出席状況、受講態度、期末レポート等を総合的に評価します。

教科書・参考書 参考書：税務大学校講本（税務大学校 HP よりダウンロード可能）による予習を前提として、授業を進めます。インターネット上（財務省・国税庁）にも利用できる資料がかなりありますので適宜紹介します。

メッセージ 税法の基本的な知識を持ち、理解があることを前提として授業を進めます。初学者の人は、相当程度の予習がないとついていけません。

連絡先・オフィスアワー（TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）月曜日 10 時 30 分～12 時、水曜日 10 時 30 分～12 時、

開設科目	民法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平中貫一				

授業の概要 契約の正義 / 検索キーワード 契約

授業の一般目標 契約の正義を探求する。

授業の計画(全体) 1 契約の歴史 2 アリストテレスの契約論 1 3 アリストテレスの契約論 2 4
トマス主義の契約論 1 5 トマス主義の契約論 2 6 関係的契約論 7 ゴードリーとマクニール 8
現代契約法 9 契約の哲学 1 0 契約の正義 1 1 交換的正義論 1 2 正義とは何か

開設科目	民法研究C	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	三間地光宏				

授業の概要 民法に関する判例・裁判例を検討する。

授業の一般目標 判例・裁判例を分析する能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：判例・裁判例を読んで理解できるようになること。 思考・判断の観点：判例・裁判例を分析・検討する能力を身につけること。 関心・意欲の観点：報告を担当する場合には関連する判例や文献を十分調べてくること。 態度の観点：報告があたっていない場合でも積極的に発言すること。

授業の計画（全体） 毎回報告者にひとつの判例を選んで報告してもらう。

成績評価方法（総合） 平常点による。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは未定。

開設科目	民法研究E	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	油納健一				

授業の概要 民法が対象とする多くの法律問題を解決するためには、民法典上の規定を解釈しかつ適用するという作業が必要である。しかし、日本民法典は明治に施行された法律であるためいくつかの規定が時代に適しにくくなっていること、あるいは複雑な現代社会においては起草者が予想していなかった法律問題も生じていることから、判例は今日ますます重要になってきていると言えよう。そこで、今日の民法上の法律問題を解決し、かつ今日の民法を知るためには、判例の検討が必要と考えられることから、この授業では、日本民法典(民法の規定)と従来判例・学説を踏まえた上で最近判例を検討しようと思う。

授業の一般目標 法学の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。

授業の計画(全体) 具体的には、つぎのような方法で授業を進める。(1) まず、実際に問題となった事件(最高裁で扱われた事件)を教員が選んだ後、報告者は、当該判決の事実と判決内容を報告する。(2) つぎに、その事件で争点となっている問題点を把握し、この問題を解決するために必要な民法典の条文や従来判例・学説について報告する。(3) 最後に、当該事件の事実関係を正確に理解し分析をくわえた上で、当該事件をいかに法的に解決しうるかを、当該判決やその判例評釈を検討しながら報告する。以上の(1)・(2)・(3)の中では、受講生間での議論を要求する。もし全く発言しない者には、レポートなどを課す場合がある。また、教官からの質問もある。

成績評価方法(総合) 出欠や遅刻早退の有無・報告内容・発言内容・関心態度などを総合的に判断して、評価する。3回以上無断で欠席した者には、単位を認定しない。また、学習意欲のない者・他の受講生に迷惑をかける者・教官の指示に従わない者にも、単位を認定しない。

教科書・参考書 教科書：適宜指示する。/ 参考書：適宜指示する。

メッセージ 大学院生として恥ずかしくない報告と討論をしてもらいます。

連絡先・オフィスアワー yuno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	刑事法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法の重要問題を考察していく。総論と各論から重要な判例を考察していく。

授業の一般目標 刑法理論の具体的事案への適用を見ていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 刑法総論、各論の基本的問題を考察し、それぞれの学問的体系を理解して貰う。そして、刑法理論が具体的事案の解決にどのように適用されているかを理解して貰う。
 思考・判断の観点： 法的思考の観点から、刑法理論が具体的事案にどのように適用されていくかを見ていく。

授業の計画（全体） 刑法総論、各論の重要問題を考察する。それぞれ重要な判例を考察していく。

成績評価方法（総合） レポート、授業での発表等を総合して評価を行う。

教科書・参考書 教科書： 刑法総論, 安里全勝著, 成文堂, 2008 年 / 参考書： 参考書については授業の時に指摘する。

開設科目	刑事法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 財産犯の重要問題を考察していく。まず、財産犯の基本的問題である保護法益、不法領得の意思について考察する。そして、財産犯の各類型について考察していく。窃盗罪、強盗罪、詐欺罪、恐喝罪、横領罪、クレジットカード犯罪、コンピュータ犯罪について考察していく。

授業の一般目標 財産犯の基本的問題と、財産犯の各類型を考察し、それぞれの犯罪がどのような内容を持つかを理解して貰う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：財産犯の基本問題と、財産犯の個々の犯罪がどのような内容であるかを理解して貰う。思考・判断の観点：法的思考の観点から、財産犯の基本的問題と、各犯罪類型がどのような内容を持ち、刑法理論がそれらの事案解決にどのように適用されているかを理解して貰う。

授業の計画（全体） 財産犯についての判例を考察していく。また、個々の事案を考察する際には関連する論文をも見ていくことにする。

成績評価方法（総合） レポートと、授業での発表、授業出席状況等によって総合的に評価していく。

教科書・参考書 教科書：経済犯罪の研究第1巻, 神山敏雄著, 成文堂, 1991年；刑法総論, 安里全勝, 成文堂, 2008年；参考書については授業の時にその都度指摘する。

開設科目	企業法研究 C	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村 美紀子				

授業の概要 本講義では、企業法の中でも改正が進む会社法について研究する。会社法のテキストを講読しつつ、重要判例の報告にもとづいて会社法制度全般について考察する。 / 検索キーワード 会社法・商法・企業法・企業組織法

授業の一般目標 受講生が会社法制度の仕組みについて理解し、判例を通じて法解釈学にも接することで、現代企業法の特質、およびその問題点を明らかにすることを目標とする。

授業の計画（全体） 講義開始時に履修者と相談して決める。

成績評価方法（総合） レジюме作成、プレゼンの工夫、報告内容および議論内容等を総合的に勘案する。

教科書・参考書 教科書：テキストブック会社法，末永敏和 [編著]，中央経済社，2006 年；会社法判例百選，江頭 = 岩原 = 神作 = 藤田 [編]，有斐閣，2006 年

メッセージ 2008 年六法必携。受講者は、会社法関連のテーマ・判例を中心に、自己の関心・問題意識から、とくに本講義で検討したい点をいくつか考えておくこと。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー：研究室 C 棟 209，オフィスアワー火曜日 10:20 11:50。

開設科目	企業法研究 D	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村 美紀子				

授業の概要 本講義では、企業法の中でも改正が進む会社法について研究する。2005年の会社法制定にもなう変化にはどのような意義があり、またその変化にはどのような問題点が生じているのかを学問的見地から検討する。 / 検索キーワード 会社法・商法・企業法・企業組織法

授業の一般目標 受講生が会社法の主要な分野と会社法・規則の全体像を掘り下げて分析し、適正な会社法制度のあり方を探究することを目標とする。

授業の計画(全体) 講義開始時に履修者と相談して決める。

成績評価方法(総合) レジюме作成、プレゼンの工夫、報告内容および議論内容等を総合的に勘案する。

教科書・参考書 教科書：会社法における主要論点の評価, 森=上村[編], 中央経済社, 2006年 / 参考書：会社法判例百選, 江頭=岩原他[編], 有斐閣, 2006年; 株式会社法, 江頭憲治郎, 有斐閣, 2006年

メッセージ 2008年六法必携。受講者は、会社法関連のテーマ・判例を中心に、自己の関心・問題意識から、とくに本講義で検討したい点をいくつか考えておくこと。

連絡先・オフィスアワー 研究室C棟 209, オフィスアワー火曜日 10:20 11:50。

開設科目	国際経済法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	土生 英里				

授業の概要 モノやサービスの輸出入、知的所有権から紛争解決まで、国際取引のルールを概観し、経済のグローバル化が国内法構造に及ぼす影響を検証する。 / 検索キーワード グローバリゼーション、国際取引、国際貿易

授業の一般目標 経済がグローバル化するにつれて、国境を越えた様々な取引を規律するには国内法だけでは対応できない時代である。そのため、様々な国際間の合意や協定が国内法化され、適用されており、国際経済法と呼称されている。ここではとくに国際経済法の中核を占める国際貿易ルールについて、その種類、適用対象、内容、効果を概観する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際貿易の主要なルールを理解する 思考・判断の観点： 経済のグローバル化が国内法に及ぼす影響を認識する 関心・意欲の観点： 具体的な企業行動にかかわる国際経済法の構造を理解する

授業の計画(全体) 第1週 ガイダンス 第2週 国際経済法の概要 第3週 国際経済法発展の軌跡 第4週 商品貿易と無差別原則 第5週 商品貿易と自由化 第6週 ダumping防止措置 第7週 補助金相殺措置 第8週 セーフガード措置 第9週 原産地規則 第10週 農業貿易と繊維貿易 第11週 サービス貿易 第12週 知的所有権の構造 第13週 政府調達と地域統合 第14週 紛争解決手続き 第15週 試験

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 企業の国際化と国際取引
- 第2回 項目 国際経済法の概要 内容 国際経済法の意義と特色
- 第3回 項目 国際経済法発展の軌跡 内容 保護貿易主義とブロック経済、国際経済法の歴史
- 第4回 項目 商品貿易と無差別原則 内容 最恵国待遇原則
- 第5回 項目 商品貿易と自由化 内容 内国民待遇原則
- 第6回 項目 ダumping防止措置 内容 ダumping防止の意義と効果
- 第7回 項目 補助金相殺措置 内容 補助金の性質と相殺措置
- 第8回 項目 セーフガード措置 内容 GATT セーフガード規定と WTO セーフガード協定
- 第9回 項目 原産地規則 内容 原産地規則の概要
- 第10回 項目 農業貿易と繊維貿易 内容 WTO 農業協定と WTO 繊維協定
- 第11回 項目 サービス貿易 内容 WTO サービス貿易協定と分野別サービス交渉の実態
- 第12回 項目 知的所有権の構造 内容 知的所有権と GATT/WTO および TRIPS 協定
- 第13回 項目 政府調達と地域統合 内容 WTO 政府調達協定と地域統合の実際
- 第14回 項目 紛争解決手続き 内容 WTO 紛争解決手続きと適用
- 第15回 項目 試験 内容 論述式

成績評価方法(総合) 出席と授業への参加・発言を重視します。成績評価は上記に論述式の試験の結果を加えたものとします。

教科書・参考書 教科書：ゼミナール「国際経済法入門」、小室程夫、日本経済新聞社、2003年 / 参考書：世界貿易機関を設立するマラケシュ協定-WTO、外務省経済局監修、日本経済問題研究所、1997年

メッセージ 内容的に非常に膨大な領域をカバーします。テキストの事前の復習が鍵となります。質問は随時受け付けます。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A 棟 4F (A410) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：平日随時

開設科目	雇用関係法研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 本講義は、労働法の領域の中でも、集团的労使関係の法以外の部分（個別的労働関係の法および雇用保障関係の法）を対象とするものである。近年なされてきたこの領域についての法改正の問題を中心に、検討をし、今日の雇用関係法の問題状況を受講生に理解してもらおう。 / 検索キーワード 雇用、法。

メッセージ 毎回きちんと出席し、きちんとした報告と活発な議論を期待する。

開設科目	雇用関係法研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 労働法と社会保障法の関係について具体的問題領域を対象に問題点を検討する。

メッセージ 各自の研究目的に沿って対象領域を検討する予定です。

開設科目	知的財産権法研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	木村友久				

授業の概要 知価社会の到来により、商品化過程に介在する知的財産の価値が再認識されている。この科目では、研究開発あるいは商品製造過程で求められる知的財産に関する総合的知識の修得とスキル形成を行う。知的財産は、「製品等の開発製造過程で創作される知的財産」「営業上の信用が化体されている知的財産」「思想または感情の創作物に関わる知的財産」の三類型に区分される。知的財産権論では、学習者にこれらの全体像を認識させるとともに、特に発明の同一性判断を起点とする知識の深化と実践的態度形成に重点を置き、実際の開発製造現場で技術情報等の取得から戦略的判断に至る系統的な知的財産対応能力の形成を目指す内容となっている。即ち、特許発明の同一性判断・特許情報および特許管理・パテントマップ作成モジュールを設定することにより、受講者が特許侵害各論で部分的な法律解釈に偏ることなく、客体情報や技術等の推移を踏まえた一貫した実践的対応が可能となるようにしている。

授業の一般目標 この科目を受講し、以下のような実力が身に付くと、この科目の目指す学習目標に到達したと考えられる。(1) 研究開発や商品製造部門で、知的財産の全体像から業務上直接的に関係する事項を選択し、当該事項を業務に適用して初動段階で適切な知的財産対応を行うことができる。ここでの、知的財産対応には、自己あるいは所属部門で完結した対応を行うだけでなく、状況に応じて企業内の権利化部門や侵害訴訟対応部門等と効果的な連携を図る能力も含まれる。(2) 自己あるいは所属部門の業務に合わせて、特許等の知的財産権情報検索を適切に行い基本的なパテントマップを作成することができる。(3) 特許発明の技術的範囲について、的確な解釈を行うことができる。(4) パテントマップや特許発明の技術的範囲同一性判断等を手がかりに、技術開発動向の把握および研究開発の方向付けを行うことができる。(5) 特許侵害訴訟における基本的な法律上の論点を理解した上で、特許発明技術的範囲同一性判断を行い、法務部門と連携して訴訟対応に必要な資料をまとめることができる。(6) 所属部門の業務に合わせた、ソフトウェア、デザイン、ノウハウを含む知的財産管理を適切に行うことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：特許侵害訴訟における基本的な法律上の論点を理解する。思考・判断の観点：自己あるいは所属部門で完結した対応を行うだけでなく、状況に応じて企業内の権利化部門や侵害訴訟対応部門等と効果的な連携を図る。技能・表現の観点：(1) 研究開発や商品製造部門で、知的財産の全体像から業務上直接的に関係する事項を選択し、当該事項を業務に適用して初動段階で適切な知的財産対応を行うことができる。(2) 自己あるいは所属部門の業務に合わせて、特許等の知的財産権情報検索を適切に行い基本的なパテントマップを作成することができる。(3) 特許発明の技術的範囲について、的確な解釈を行うことができる。(4) パテントマップや特許発明の技術的範囲同一性判断等を手がかりに、技術開発動向の把握および研究開発の方向付けを行うことができる。(5) 特許侵害訴訟における基本的な法律上の論点を理解した上で、法務部門と連携して訴訟対応に必要な資料をまとめることができる。(6) 所属部門の業務に合わせた、ソフトウェア、デザイン、ノウハウを含む知的財産管理を適切に行うことができる。

授業の計画(全体) 講義では、基礎的な知識や判例を具体的な事例とともに解説する。なお、特許情報の検索ないしパテントマップ制作実習では、特許庁が提供する特許電子図書館と山口大学が運用する特許電子図書館を併用して最終的に実習レポート提出を行う。最後の総合演習は、テーマを設定した発表形式でディスカッションを実施する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 知的財産概論 内容 1 知的財産制度の全体像とそれらに共通する基本理念を理解し、研究開発あるいは商品製造部門で起こり得る事象を、知的財産制度に当てはめながら初歩的な対応をすることができる。2 新聞等の情報から知的財産領域における今日的課題を抽出し、その内容と背景を要約することができる。3 企業規模あるいは業種毎に、いくつかの代表的な知的財産戦略を理解する。

- 第 2 回 項目 特許発明の同一性判断 内容 1 発明の技術的範囲同一性判断について、法律上及び研究開発上の意義を理解する。2 発明の技術的範囲同一性判断手法を理解し、判断に利用する参酌資料の収集と整理を行うことができる。3 参酌資料を利用して、代表的な技術分野について初歩的な発明の技術的範囲同一性判断を行うことができる。4 他社の特許発明を回避するための基本的な方策を立案することができる。
- 第 3 回 項目 特許情報および特許管理 内容 1 実体的特許要件を理解し、所属部門に関連する技術領域について発明特許化の可能性や特許発明について無効理由包含の有無を報告することができる。2 手続的特許要件を理解し、所属部門における特許管理を行い、社内知的財産部門等と手続きに関し適切な連携を取ることができる。3 特許要件の知識を基に、特許情報解釈能力を深化することができる。特許等データベースの全体像と基本的検索方法を理解し、自立的に特許情報検索を行うことができる。
- 第 4 回 項目 パテントマップ 内容 1 特許電子図書館検索において、所属部門の研究領域に合わせてテーマ設定を行い必要な情報の検索をすることができる。2 特許電子図書館から取得した情報を加工し、いくつかの異なる観点からパテントマップを作成することができる。3 各自が作成したパテントマップを持ち寄り、研究開発の方向付けや開発内容について優先順位を付与することができる。
- 第 5 回 項目 特許侵害各論 I 内容 1 直接侵害概念について法的根拠と具体的な事案解決手法を理解する。2 主要な技術領域毎に、特許発明の技術的範囲同一性判断に重点を置いて、事案解決に向けた戦略立案を行うことができる。3 均等論の現状と理論形成に至る歴史的経緯を理解し、個別事案中に均等概念を含めた特許発明の技術的範囲同一性判断を組み込むことができる。特許侵害訴訟（直接侵害部分）において、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携した行動を取ることができる。
- 第 6 回 項目 特許侵害各論 II 内容 1 間接侵害概念について法的根拠と具体的な事案解決手法を理解する。2 従来から判例実務上の蓄積がある間接侵害条項（特許法 101 条 1 項、3 項）について、確立された取り扱いを理解したうえで個別事案に適用することができる。3 平成 14 年法律改正で追加された主観的要件を加味する条項（特許法 101 条 2 項、4 項）について、制定経緯を理解し比較法的検討を加えることで個別事案への適用を試みることができる。4 直接侵害概念と合わせて、侵害訴訟全般の基本的攻防について論理的に戦略を立てて実行することができる。5 特許侵害訴訟（間接侵害部分）において、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携した行動を取ることができる。
- 第 7 回 項目 特許侵害各論 III 内容 1 国内用尽概念を理解し、侵害訴訟中で当該概念を利用した理論構成を行うことができる。2 修理補修の各種態様と用尽概念適用の可否を対応させて判断し、研究開発や商品製造現場における各種メンテナンスに対する法的対応を行うことができる。3 国際的用尽概念を理解し、商品の輸出入において知的財産の観点から起こりうる検討課題を報告することができる。4 特許侵害訴訟（用尽論部分）において、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携した行動を取ることができる。
- 第 8 回 項目 特許侵害各論 内容 1 特許権の制約および利用抵触関係について、研究開発あるいは商品製造過程で発生する事案を整理して適用することができる。2 約定実施権の基本的性格を理解する。3 法定通常実施権に共通する性格を理解し、特に先使用にもとづく法定通常実施権と職務発明にもとづく法定通常実施権について、研究開発あるいは商品製造過程で発生する事案を整理して適用することができる。4 特許侵害訴訟（特許権の各種制約および利用抵触関係部分）において、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携した行動を取ることができる。
- 第 9 回 項目 ソフトウェアの総合的な保護 内容 1 ソフトウェアの著作権法による保護について、歴史的な経緯を含めて理解する。2 ソフトウェアの特許法による現実的な保護について、歴史的な経緯を含めて理解する。3 ソフトウェアの各種特許表現手法を理解し、所属する研究開発あるいは商品製造部門で生産したソフトウェアを効果的に特許化することができる。特許法・

著作権法等の複数の法律を利用して、所属する研究開発あるいは商品製造部門で生産したソフトウェアを総合的に保護することができる。

第 10 回 項目 デザインの総合的な保護 内容 1 意匠法によるデザイン保護の基本を理解する。 2 意匠法にもとづいて基礎的な意匠の類否判断を行うことができる。 3 不正競争防止法による商品形態模倣行為概念を歴史的推移も含めて理解し、意匠法と併せて所属する研究開発あるいは商品製造部門における総合的なデザイン保護手法を提案することができる。 4 著作権法における商業デザイン保護の可能性と限界を理解する。

第 11 回 項目 不正競争行為 内容 1 不正競争行為防止法に基づく不正競争行為の全体像を理解する。 2 民法も含めたノウハウ保護法制の全体像を理解する。 3 営業秘密の不正取得行為と法律上の手当を理解し、所属部門の営業秘密管理も含めた実務対応を行うことができる。 4 技術的制限手段の解除等行為と法律上の手当を理解し、所属部門において該当事案が発生した場合に適切な対応を行うことができる。

第 12 回 項目 総合演習 I 内容 1 パテントクリアランス関連問題を、自立的に解決できる。 2 模擬侵害訴訟の解決方法について、自立的に戦略的立案を行うことができる。 3 模擬侵害訴訟の解決を助けるために、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携して必要な報告書を作成することができる。

第 13 回 項目 総合演習 II 内容 1 パテントクリアランス関連問題を、自立的に解決できる。 2 模擬侵害訴訟の解決方法について、自立的に戦略的立案を行うことができる。 3 模擬侵害訴訟の解決を助けるために、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携して必要な報告書を作成することができる。

第 14 回 項目 総合演習 III 内容 1 パテントクリアランス関連問題を、自立的に解決できる。 2 模擬侵害訴訟の解決方法について、自立的に戦略的立案を行うことができる。 3 模擬侵害訴訟の解決を助けるために、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携して必要な報告書を作成することができる。

第 15 回 項目 総合演習 内容 1 パテントクリアランス関連問題を、自立的に解決できる。 2 模擬侵害訴訟の解決方法について、自立的に戦略的立案を行うことができる。 3 模擬侵害訴訟の解決を助けるために、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携して必要な報告書を作成することができる。

成績評価方法 (総合) ケーススタディレポートあるいは実習レポート、期末試験あるいは期末レポートの結果を元に成績評価を行う。それぞれの占める比率は、ケーススタディレポートあるいは実習レポート、期末試験あるいは期末レポート、クラスへの貢献度を合計して成績を評価する。それぞれの占める比率は、ケーススタディレポートあるいは実習レポート 45%、期末試験あるいは期末レポート 40%、クラスへの貢献度(ディスカッションへの参加など) 15%。

教科書・参考書 教科書：大学と研究機関のための知的財産教本, 山口大学知的財産本部監修, EME 出版, 2004 年 / 参考書：書いてみよう特許明細書・出してみよう特許出願, 特許庁編, 特許庁, 2003 年; 研究開発活かそう社会に, 特許庁編, 特許庁, 2003 年

メッセージ ・講義中に指定した資料や判例は、一通り目を通してください。 ・パテントマップ作成等は学生自身の専門領域で作成するので、予め電子図書館等で概要を検索してください。 ・授業内のディスカッションに積極的に参加してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室電話番号 0836-85-9909 緊急連絡先 090-7391-4578 電子メール t-kimura@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	外国文献研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 この授業は、2つの目的があります。社会科学的(主に経済)側面から外国語で書かれた文献を研究することとそこに使われている言語(英語)を的確に把握することです。その文献を通してさらに自分の興味の分野の視野を広げることです。そのためには、自分の視点からしっかり文献が読めなければなりません。訳読とは違います。翻訳は翻訳の専門家に任せておけばよいのです。自分の視点との同一と相違を読み取り、それを自己表現として表現するだけのことを扱います。専門書を読むには、専門知識が半分、言語知識が半分必要です。そして、それを正確に把握し理解しなければなりません。それをさらにわかりやすく他人に伝えることも必要になります。この授業ではそうしたことを以下の目標をもって実践して行きます。/ 検索キーワード sociology, economics, globalization, risk, tradition, family, democracy

授業の一般目標 ・段落を追いながら、段落がどのような構造をもっているか把握する。Topic Sentence-Supporting Sentences-Conclusion の構造分解ができる。 ・それぞれの段落の中から、key words; key phrases; key sentences を求める。 ・Key として求めた情報を階層的に配列することで、アウトラインを作る。 ・アウトラインを一目見ると、その段落の情報構造が一目でわかる。 ・作ったアウトラインをもとに、一人1章ずつプレゼンテーションを行う。(英語でも日本語でもよい。) ・プレゼンテーションをしながら、オーディアンスに問題を投げかけ、授業参加者と議論する。 ・英語で summary を書く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 文構造の把握力。語彙力 辞書をしっかり活用できる。 思考・判断の観点: key words; key phrases; key sentences の抽出ができる。Key に基づいて、検索・収集した情報を階層的に配列できる。 関心・意欲の観点: 英語を読んで“うんざりしない”。英語を通して何かを学ぼうと言う態度や意欲を持つ。読んだ材料をもとに、問題意識を持てる。 態度の観点: なおざりな仕事をしない。知識と知恵に対して貪欲な態度を持つ。 技能・表現の観点: いかに正確に効率よく読んだ内容をまとめられるかを工夫する。それを、ハンドアウト(英語のアウトライン)とプレゼンテーションで他人に伝達する。

授業の計画(全体) イントロダクションを3回予定して、1.和訳をせずに内容を理解するにはどういう読み方をしたらよいか 2.段落構成は一般的にどうなっているか 3.アウトラインはどう作成するか を説明したら、1~3を実践して英語でハンドアウトを作成して、プレゼンテーションを行う。1人につき、2コマを宛てる。プレゼンテーションには関連した議論の材料をかならず用意する。プレゼンテーションが終わったところでサマリーを書く。授業では、折々にフィードバックが必要となるので、ここで示す週単位の進捗とは異なる可能性が大いにある。また、授業の効率性を考えて授業内容の順序を変えることがある。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introduction 1 内容 How to read English
- 第 2 回 項目 Introduction 2 内容 How is the paragraph composed?
- 第 3 回 項目 Introduction 3 内容 The writing of an outline in English
- 第 4 回 項目 Chapter 1 Globalization 1 内容 Presentation
- 第 5 回 項目 Chapter 1 Globalization 2 内容 Discussion Assessment
- 第 6 回 項目 Chapter 2 Risk 1 内容 Presentation
- 第 7 回 項目 Chapter 2 Risk 2 内容 Discussion Assessment
- 第 8 回 項目 Chapter 3 Tradition 1 内容 Presentation
- 第 9 回 項目 Chapter 3 Tradition 2 内容 Discussion Assessment
- 第 10 回 項目 Chapter 4 Family 1 内容 Presentation
- 第 11 回 項目 Chapter 4 Family 2 内容 Discussion Assessment
- 第 12 回 項目 Chapter 5 Democracy 1 内容 Presentation

第 13 回 項目 Chapter 5 Democracy 2 内容 Discussion Assessment

第 14 回 項目 Summary Writing 内容 How to write a summary based on your outline

第 15 回 項目 Overview 内容 Why RUNAWAY WORLD?

成績評価方法 (総合) ・出席は欠格条件とする。(自分の順番のときに発表できないときは欠席とする。)
欠席は 3 回を超えると不合格となる。 ・アウトラインを作成してハンドアウトを書く。 ・プレゼンテーションで他人への伝達がどれほどできるか。 ・アウトラインをもとにサマリーを書く。

教科書・参考書 教科書： Runaway World, Anthony Giddens, Routledge, 2000 年 ;
http://news.bbc.co.uk/1/hi/english/static/events/reith_99/default.htm にアクセスすれば、テキストが得られる。 / 参考書： Anthony Giddens の他の著書

メッセージ アウトラインをしっかりと作ってください。そして、説得力のある自己主張/自己表現をしてください。

連絡先・オフィスアワー mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	植村高久				

授業の概要 各自の研究テーマに即して既存研究を渉猟し、内容を獲得する。

授業の一般目標 研究テーマ関連の主要既存研究について概要をまとめることができ、それぞれの相対的な位置づけと分類ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 主要な既存研究についてその概要を述べることができる。 思考・判断の観点： 既存研究の枠組みや成果を自ら対象の分析に利用できる。 関心・意欲の観点： 既存研究を通じて自己の研究テーマを詳細に検討し、関心の焦点を述べることができる。 態度の観点： 既存研究の内容を客観的に記述することができる。 技能・表現の観点： 既存研究を読解し、自分の言葉で要約できる技能を身につけている。

授業の計画（全体） 各自の研究テーマに則して、既存研究のリストを作成し、それを輪番で要約・報告します。

成績評価方法（総合） 報告の内容を中心に、既存研究を扱う技法の獲得程度により評価。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	寺地伸二				

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山田正雄				

授業の概要 経済理論の基礎を学ぶ

授業の一般目標 経済理論の基礎を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経済理論の基礎を身につける。

授業の計画（全体） 文献を読むことにより、経済理論を学んでいきます。

成績評価方法（総合） 参加姿勢、報告、出席により評価します。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村淳一				

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 学生の希望に応じてテーマを決める。ここに書くのはミクロ経済学を対象とした場合の内容である。演習 IA と演習 IB で、D. W. Katzner 著、Static Demand Theory を輪読する。演習 IA では 1 変数及び多変数関数と線型代数をざっと復習し、スルツキー方程式を中心とした消費者理論を勉強する。

授業の一般目標 消費者理論で使われる数学を理解し応用できること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 1 変数及び多変数関数の微分が応用できる。 2. 線型代数が応用できる。 3. 効用関数の数学的性質を利用できる。 4. スルツキー方程式を応用できる。 思考・判断の観点： 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活の中の経済現象に数理的な関心を持つ。

授業の計画 (全体) 前半では 1 変数関数及び多変数関数の微分と線型代数の基本の復習をする。後半で、需要関数の数学的性質を調べ、スルツキー方程式について学ぶ。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 変数関数の微分の復習 その 1 内容 1 変数関数の微分の復習
- 第 2 回 項目 1 変数関数の微分の復習 その 2 内容 1 変数関数の微分の復習
- 第 3 回 項目 多変数関数の微分の復習 その 1 内容 多変数関数の微分の復習
- 第 4 回 項目 多変数関数の微分の復習 その 2 内容 多変数関数の微分の復習
- 第 5 回 項目 多変数関数の微分の復習 その 3 内容 多変数関数の微分の復習
- 第 6 回 項目 線型代数の復習 その 1 内容 線型代数の復習
- 第 7 回 項目 線型代数の復習 その 2 内容 線型代数の復習
- 第 8 回 項目 線型代数の復習 その 3 内容 線型代数の復習
- 第 9 回 項目 線型代数の復習 その 4 内容 線型代数の復習
- 第 10 回 項目 選好，無差別曲線 内容 無差別曲線
- 第 11 回 項目 分離性 内容 分離性
- 第 12 回 項目 効用最大化，支出最小化 内容 効用最大化，支出最小化
- 第 13 回 項目 需要関数 内容 需要関数
- 第 14 回 項目 スルツキー方程式 その 1 内容 スルツキー方程式
- 第 15 回 項目 スルツキー方程式 その 1 内容 スルツキー方程式

成績評価方法 (総合) 発表の出来具合を見て判断する。

教科書・参考書 教科書： Static Demand Theory, D. W. Katzner, Macmillan, 1970 年

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 各自の研究テーマに沿って研究指導を行う。

授業の一般目標 1 . 研究テーマに関する基礎的な理論を理解する 2 . 分析の方法論を理解する

授業の計画(全体) 各自の研究テーマに沿って発表し、それをもとに議論し理解を深める

成績評価方法(総合) 出席と発表を総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	塚田広人				

授業の概要（記入時点でゼミ所属学生は未定。） 所属学生に応じて修士論文執筆に向けた基礎文献と研究テーマに沿った文献の学習を行う。 / 検索キーワード 効率、公正、慈恵（友愛）

授業の一般目標 修士論文執筆にふさわしい基礎学力と専門分野の学力を身につける。

教科書・参考書 参考書：塚田広人 『社会システムとして西條経済』成文堂、1998 年

連絡先・オフィスアワー ht@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 1 時半－ 3 時（会議等で不在の場合あり。）他の時間でも在室時はいつでも可。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 開講予定なし

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤井大司郎				

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 この演習では、自身が修士論文で扱いたいトピックについて、論文・参考文献を利用しながら、発表をしてもらう。発表後、参加者及び教員から質疑応答を受けつけ、修士論文作成にいかしてゆく。

授業の一般目標 参加者の関心あるテーマについて理解を深め、またコメント力・質問力をつけること。

成績評価方法 (総合) 参加・発表・質疑応答からなる総合評価。

教科書・参考書 教科書：テキストを利用しない。 / 参考書：参考書を利用しない。

メッセージ この講義は、自身の修士論文テーマ、及びその関連事項の発表と討論が主です。できるだけ自身の論文だけでなく、他者の論文テーマにも関心を持ってください。

連絡先・オフィスアワー 何かご質問があれば、nakama73@yamaguchi-u.ac.jp までどうぞ。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 各自の研究テーマに沿った研究を進める。そのための指導をおこなう。

授業の一般目標 各自の研究テーマに沿った研究に関して、基礎知識を習得し、学界の動向をおさえる。また、研究テーマの精緻化をおこなう。

成績評価方法 (総合) 研究の進行具合を総合的に評価する。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 本年度は開講しない

授業の一般目標 本年度は開講しない

授業の計画（全体） 開講なし

成績評価方法（総合） 開講しない

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古賀大介				

授業の概要 欧米経済史・金融史を主たるテーマとする経済学研究科学生の指導を行う

授業の一般目標 修士学位審査論文に必要な知識と技能を身につけることを目標とする

授業の計画（全体） 受講者と相談の上、計画を調整する。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	濱島清史				

授業の概要 修士論文作成に向けて基礎固めを行なう。具体的には、労働経済、成果主義、女性労働、人事労務管理、キャリア形成などの文献を輪読していく。それだけでなく、毎月、どのような文献を読んだか、報告させる。一日英文 30 ページ、日本語文献と合わせて一日 100 ページ読破していくことが目標である。(ちなみに東京大学の故広松渉教授は学生に一日百ページ読めば良い研究者になれるといいつつ、本人は一日千ページ読んでいたという。) / 検索キーワード 成果主義、女性労働、キャリア形成

授業の一般目標 修士論文に向けた基本文献を読破し、基礎力を身に付ける。概要でも触れたが、一日英文 30 ページ、日本語文献と合わせて一日 100 ページ読破していけるような読解力を修得してもらいたい。文献読破力も一種の技能であって、訓練しなければなかなか身につかないものである。

授業の計画(全体) 授業としては輪読が中心となる(概要参照)。月に一回は毎月新しく読んだ文献・論文の報告を行なう。報告は口頭だけでも場合により構わないが、メモ程度のものは用意することになる。できれば内容を要約したノートを作成していったほうが良いだろう。春休み、夏休み、冬休みと修士論文作成へ向けたレポートも作成してもらう予定である。

成績評価方法(総合) ゼミでの発表とレポートによる。

教科書・参考書 教科書：受講生と話し合いの上決める。 / 参考書：適宜指摘する。

メッセージ 博士課程希望と聞いているので、教員として就職することを目標として、そのためには何をなすべきか、ターゲットを決めて実行に移すこと。

連絡先・オフィスアワー hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	齋藤英智				

授業の概要 地域経済に関する問題意識を明確にし、修士論文のテーマに関連する文献・資料を収集し、論文作成の方法論、ならびに論点を検討する。 / 検索キーワード 地域経済、観光経済

授業の一般目標 授業を通じて修士論文のテーマ、ねらい、論点、方法、構成を固める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 地域経済に関する理論、先行研究についての議論ができる。 思考・判断の観点： 理論、先行研究に基づく自らの問題意識を明確にできる。 関心・意欲の観点： 疑問点を自ら積極的に調査・分析し、報告・議論ができる。 態度の観点： 研究課題に真摯に取り組む。 技能・表現の観点： 目的に沿った資料の処理・加工ができる。

授業の計画（全体） 修士論文論の枠組みを検討する。先行研究の検討を中心として、収集した資料・文献等の概要を毎回報告する。報告に基づき、修士論文の構成を検討し、最終的にテーマを明確にする。併せて、テーマに沿った研究を随時進めていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究計画 内容 修士論文構想の報告
- 第 2 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 3 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 4 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 5 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 6 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 7 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 8 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 9 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 10 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 11 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 12 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 13 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 14 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討
- 第 15 回 項目 研究報告 内容 収集資料の概要報告と修士論文構成の検討

成績評価方法（総合） 授業への参加態度：50 %、報告・発言内容：50 %により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。最初の授業において指示する。

連絡先・オフィスアワー hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田淵太一				

授業の概要 受講生の修士論文作成までの研究指導を行う。

授業の一般目標 修士論文作成までの研究指導

授業の計画（全体） 受講生の研究報告を主体とする

成績評価方法（総合） 研究報告の内容で評価する

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤喜司郎				

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河野真治				

授業の概要 世界経済や多国籍企業の最新の理論について学ぶ。同時に学生の修士論文テーマについて、個人報告とそれについて討論する。

授業の一般目標 修士論文作成に必要な基礎理論を学ぶ。また最近の学会動向についても把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界経済と多国籍企業についての、世界的な研究動向を理解する。
思考・判断の観点：経済学的思考方法を身につける。

授業の計画（全体）世界経済と多国籍企業についての最新の研究成果を読む。個人報告は月1回程度行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 学生レポート

第 2 回 項目 以下同じ

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合）レポート内容と討論への参加状況で評価する。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 現在のマスメディアのさまざまな現象を分析する。 / 検索キーワード マスメディア

授業の一般目標 マスメディアの仕組み等を批判的に理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： マスメディアの仕組みを知る。 思考・判断の観点： マスメディアの可能性問題点について判断する。 関心・意欲の観点： マスメディアを積極的に調査する。 態度の観点： マスメディアの正体を見抜く。

授業の計画（全体） 毎回、特定のマスメディアについて議論する。

成績評価方法（総合） 授業参加（欠格条件）、レポート（100%）

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊嘉哲				

授業の概要 テキストの輪読を通じて、欧州統合について学習する。

授業の一般目標 欧州統合についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 欧州統合について理解を深める。 思考・判断の観点： 欧州統合にかかわるトピックについて、自分の見解を述べる。

授業の計画（全体） 第 1 回授業で受講者とともに扱うトピックとテキストを決めた後、それを輪読していく。

成績評価方法（総合） 出席状況と発表内容によって評価する。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松井範惇				

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尹春志				

授業の概要 東アジア経済について参加者の関心に応じて報告討論を行う

授業の一般目標 参加者の個別研究に資する。

授業の計画（全体） 各自の研究テーマに則して報告と討論を行う。

成績評価方法（総合） 報告内容と討論の参加度で判断する

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田伸子				

授業の概要 1970 年代以降の韓国の就業体制について分析し、それが韓国の政治・経済・社会の構造とともにどのように変化してきたかを考察する。とくに、分析する際、ジェンダーの視点を不可欠とする。

授業の一般目標 韓国の就業体制の構造や特徴について理解し把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる 思考・判断の観点：テキストである社会科学専門書を批判的に読み、さらにそれを自前の問題意識へと発展させることができる。 技能・表現の観点：自己の意見や問題意識を客観的かつ論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 韓国の就業体制に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を要約し報告する。報告を中心に、テキストの問題点や論点について議論する

成績評価方法（総合） 報告 40 点、レポート 40 点、討論 20 点。1 学期に 3 回以上欠席した場合は単位を与えない。

メッセージ テキストは適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー e-mail address:ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 今日では、人類の生産力（対自然支配力）はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 本演習は、環境経済学の分野において、それに関わる文献を輪読し、ゼミ参加者における理解、分析能力を高め、行うべき政策に関して自ら評価できるような水準まで、必要な知識を身に付けることを目標にしている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画（全体） 経済学は環境問題の解決に役に立つのか。環境問題とは何か。環境問題はなぜ発生するか。値段のない環境には価値がないのか。環境の価値をどのようにとらえるべきか。環境の変化に対し、消費者はどのように行動するか。環境を保全するためにはどうしたらよいのか。これまでどのような環境政策が実施され、現在どのような政策が検討されているのか。政策手段を評価する基準は何か。また、地球規模の環境問題とは何か。その特徴は。地球環境保全の取り組みは、どこまで進んでいるか。いかなる仕組みをつくるべきか。これらの問題について、以下の視点から考察する。（1）環境、自然資源と経済（2）経済主体間の関係としての環境問題（3）公共財としての環境（4）環境価値の計測手法（5）公害裁判 - 賠償責任の経済学（6）日本の環境政策（7）環境政策の評価基準（8）環境課徴金、環境税及び排出許可証取引（9）地球規模の環境問題（10）地球環境保全の取り組み

成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と報告（30%）で行う。

教科書・参考書 教科書：環境経済学、植田和弘、岩波書店、1996年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年 / 参考書：演習の進捗状況を考慮しその都度指示する。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	陳建平				

授業の概要 中国経済に関する研究

授業の一般目標 中国経済の特定の分野について深い知識をゆする。

授業の計画（全体） 文献と資料の精読および研究発表を通じて進めていく。

教科書・参考書 教科書：受講者と相談して決める。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	李海峰				

授業の概要 統計分析方法の応用、社会経済学の理論、実証方法などについて、考察研究します、

メッセージ 充実しておもしろい学問の道を探求しましょう、

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 現代リベラリズムの再検討 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 リベラリズムについての総合的な理解。

授業の計画(全体) 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。

成績評価方法(総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	立山紘毅				

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平中貫一				

授業の概要 判例契約法を学ぶ。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	三間地光宏				

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	油納健一				

授業の概要 * 最高裁判決を素材に“ 民法実務 ”を学習する。

授業の一般目標 民法の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。

授業の計画(全体) 具体的には、つぎのような方法で授業を進める。(1) まず、実際に問題となった事件(最高裁で扱われた事件)を教員が選んだ後、報告者は、当該判決の事実と判決内容を報告する。(2) つぎに、その事件で争点となっている問題点を把握し、この問題を解決するために必要な民法典の条文や従来の判例・学説について報告する。(3) 最後に、当該事件の事実関係を正確に理解し分析をくわえた上で、当該事件をいかに法的に解決しうるかを、当該判決やその判例評釈を検討しながら報告する。以上の(1)・(2)・(3)の中では、受講生間での議論を要求する。もし全く発言しない者には、レポートなどを課す場合がある。また、教官からの質問もある。

成績評価方法(総合) 出欠や遅刻早退の有無・報告内容・発言内容・関心態度などを総合的に判断して、評価する。3回以上無断で欠席した者には、単位を認定しない。また、学習意欲のない者・他のゼミ生に迷惑をかける者・教官の指示に従わない者にも、単位を認定しない。

教科書・参考書 教科書：適宜指示する。/ 参考書：適宜指示する。

メッセージ 大学院生として恥ずかしくない報告と討論をしてもらいます。

連絡先・オフィスアワー yuno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法総論はどのような内容を持つかを理解して貰う。刑法の意義、性質、機能、犯罪の成立要件論、違法論、共犯論、刑法論の順に考察していく。

授業の一般目標 刑法総論の内容を考察する事により、刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 刑法総論の内容を考察する事により、刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。 思考・判断の観点： 法的思考という観点から、刑法総論の具体的事案を考察し、刑法理論が具体的事案の解決にどのようにてきようされているかを見ていく。

授業の計画（全体） 刑法の意義、性質、機能犯罪の成立要件、構成要件論、違法論、責任論、共犯論、刑事論の順に考察していく。具体的な内容については最初の授業時間に講義事項を配布する。

成績評価方法（総合） 日頃の出席・授業態度、レポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書： 刑法総論, 安里全勝, 成文堂, 2008 年

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村美紀子				

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉川 信將				

授業の概要 受講生自身が決めたテーマに基づく研究発表をベースとし、参加者間での討議を行う。

授業の一般目標 自主的にテーマを設定し、積極的に研究発表を行う姿勢を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 自分の設定したテーマについて、それが経済社会や企業実務に与える影響や関連を分析し、学説・判例をもあわせて検討する姿勢・思考法を身につける。 関心・意欲の観点： 自分が設定した研究のテーマだけでなく、それに関連する問題及び他の参加者の発表課題に関しても関心を持ち、討議に参加する姿勢を身につける。

授業の計画（全体） 受講者の設定したテーマに基づき、1回から数回に分けて発表を行い、参加者間で討議することを繰り返す。必要に応じて時事問題を取り上げ検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 個別発表・討論
- 第 3 回 項目 個別発表・討論
- 第 4 回 項目 個別発表・討論
- 第 5 回 項目 個別発表・討論
- 第 6 回 項目 個別発表・討論
- 第 7 回 項目 個別発表・討論
- 第 8 回 項目 個別発表・討論
- 第 9 回 項目 個別発表・討論
- 第 10 回 項目 個別発表・討論
- 第 11 回 項目 個別発表・討論
- 第 12 回 項目 個別発表・討論
- 第 13 回 項目 個別発表・討論
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合） どの程度真剣に研究し、それをまとめあげて発表できるかということを重視し、演習における討議への参加姿勢を加味して判断する。

教科書・参考書 教科書： 特に指定しない予定ですが、開講時に受講者と協議します。 / 参考書： 必要な参考資料については適宜紹介します。

メッセージ 参加者には、企業法に関して、自分が決めたテーマに基づく研究発表を積極的に行っていただきます。また、時事問題に関しても可能な限り取り上げ検討していきたいと思います。

連絡先・オフィスアワー C棟224研究室（オフィスアワーは開講時に案内します。）

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柳澤旭				

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上杉信敬				

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤田 正				

授業の概要 税法をテーマとした「修士論文作成」を各自のプロジェクトととらえ、そのマネジメントとゴールの達成を確実にすることを最大の目標と考える。各自はプロセスにおいて計画－実行－チェックのセルフマネジメントサイクルを積極的かつ効果的に回し続ける一方、チームとしてのゼミメンバーの協働作業により、論文の質的向上を図っていく。ゼミでは、これらのプロジェクトのプロセスにおいて受講生に役立つ演習を実施し、必要な支援、アドバイスを行う。/ 検索キーワード プロジェクト、セルフマネジメント、セルフモチベーション、セルフチェック、チームによる協働

授業の一般目標 修士論文のテーマを見つけ、論文の構想を練り、資料を集め、執筆スケジュールを考え、文章化し、期日までに仕上げる一連のプロセスを受講生が自らきっちりと着実に管理し、チェックしていくというセルフマネジメントによってスムーズに目標達成すること。

授業の計画（全体） 受講者のタイムマネジメントに沿った計画と演習内容を双方向で議論し、立案し、受講生がそれを着実に実施し、実施状況、成果を自己評価していき、スムーズな目標達成につなげる。その過程でゼミメンバーによるチームとしての協働作業をできるだけ加えていく。これらのプロセスを通じて、修士に求められる税法の知識や能力の十分な獲得を目指す。

メッセージ 自ら進んで、どんどん計画し、実践し、プロジェクトのプロセスを進めていくことを期待します。そのための相談や議論については支援を惜しみません。

連絡先・オフィスアワー（TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 「現代行政法研究」及び「応用行政法研究」での問題意識をさらに発展させ、行政法に関するより具体的な問題点を検討していく。 具体的問題の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。 したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、演習への主体的な参加が要求される。

授業の一般目標 行政法における重要な学説や判例の理解を深めることを一般目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 具体的問題の検討を通して、行政法における重要な制度の理解を深める。 思考・判断の観点： 問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。

授業の計画（全体） 具体的には、行政関係の事例や判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる事例や判例は、参加者と相談の上、決定する。

成績評価方法（総合） 出席、報告等による。

教科書・参考書 教科書： 開講時に指示する。 / 参考書： 開講時に指示する。

メッセージ 日々のニュースに敏感であって欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河村誠治				

授業の概要 世界とりわけわが国を含む東アジアにおける、地域経済や各種産業の動向などを視野に入れた、単なる遊び（需要者サイドの本能的ニーズやウォンツ）の領域を超えたところの、観光経済研究。

授業の一般目標 今後各自が積極的に取り組める「テーマ」を見つける。

授業の計画（全体） 受講者の全体的状況を見、最終的に決定。自由なテーマ報告。

成績評価方法（総合） 研究意欲とレベル。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 本講義の目的は、観光および地域経済に関する研究に必要な文献調査を進める中で、研究に必要な統計データや統計手法を学ぶとともに、修士論文作成に必要な情報収集を定期的に報告し、その内容に基づいて、受講生の研究内容を明確にしていくことにある。また、研究テーマに応じて統計調査を行う場合は、その方法を検討するなど、研究のための実践的な考え方・そのための能力を養うことにある。

授業の一般目標 修士論文作成に必要な文献調査を行った結果を、研究テーマに合わせて、適切にとりまとめし、報告する。これらによって、研究内容を精査し、修士論文作成のための研究方法を明確にしていくことである。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**：観光、地域分析、環境分析に必要な手法や内容に対する知識を持ち、理解している。 **思考・判断の観点**：受講生の修士論文の内容に合わせて、様々な研究手法、分析方法の選択を行うことができる。 **関心・意欲の観点**：幅広い視野から研究内容を検討し、新しい知識を積極的に入手する意欲が高いこと。 **技能・表現の観点**：数量分析を行った結果を、理解をしながら取りまとめ、わかりやすく解説ができる。

成績評価方法 (総合) 文献調査における報告を積極的に行い、ゼミの中で修士論文のテーマに関する内容をより精査できる議論を行うことなどを、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：講義開始時に紹介する。 / 参考書：講義開始時に紹介する。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 卒論あるいは新しい問題による修士論文へ向けてのウォームアップとする。 1. 問題発掘 2. 発掘された問題の輪郭化 3. 関連論文・研究書の研究開始 / 検索キーワード ハンドアウト、プレゼンテーション、議論、トピック展開

授業の一般目標 以下の順序で研究手順を学ぶ。 1. アウトラインによるプレゼンテーション (ハンドアウト作成) 2. プレゼンテーションを基にした議論 3. 議論を含めた小エッセーを書く 4. 小エッセーを基にした議論と次へのトピック展開

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ・先行論文・研究書の概要が述べられる。 思考・判断の観点: ・上記の概要に対して議論や自分の考えをブレンストームする。 関心・意欲の観点: ・さまざまなソースを求めて、自分の考えを展開する。 態度の観点: ・持続する学習と思考を見に付ける。 技能・表現の観点: ・文章表現法を学ぶ。

授業の計画 (全体) インTRODククションから始まり、読みを中心にして問題発掘をし、それをアウトラインでのハンドアウト、プレゼンテーション、議論、議論の後のアウトラインの文章化 (小エッセー)、小エッセーに基づく議論、そして、トピックの更なる展開を求めて、スパイラルに繰り返し、焦点を絞り込む。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 INTRODUCTION
- 第 2 回 項目 議論 1 内容 問題発掘への道
- 第 3 回 項目 議論 2 内容 問題をアウトラインで説明
- 第 4 回 項目 議論 3 内容 問題を小エッセーで説明
- 第 5 回 項目 議論 4 内容 トピック展開
- 第 6 回 項目 以後、第 2 週からの議論 1 - 4 のスパイラルの繰り返し
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) クラスでのパフォーマンス (ハンドアウト、プレゼンテーション、議論、小エッセー、トピック展開) を重視する。

メッセージ たくさん読み、大いに考え、自己表現をする。

連絡先・オフィスアワー 本年度は国際センター長室に連絡ください。 tel. 933-5980 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	TIMOTHYROLAND SCOTT TAKEMOTO				

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	土生 英里				

授業の概要 モノやサービスの輸出入、知的所有権から紛争解決まで、国際取引のルールを概観し、経済のグローバル化が国内法構造に及ぼす影響を検証する。 / 検索キーワード グローバリゼーション、国際取引、国際貿易

授業の一般目標 経済がグローバル化するにつれて、国境を越えた様々な取引を規律するには国内法だけでは対応できない時代である。そのため、様々な国際間の合意や協定が国内法化され、適用されており、国際経済法と呼称されている。ここではとくに国際経済法の中核を占める国際貿易ルールについて、その種類、適用対象、内容、効果を検証する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際貿易の主要なルールとその背景を理解する 思考・判断の観点： 経済のグローバル化が国内法に及ぼす影響を分析できる 関心・意欲の観点： 具体的な企業行動にかかわる国際経済法の構造を理解する

授業の計画（全体） 第1週 ガイダンス 第2週 基本書購読 第3週 基本書購読 第4週 基本書購読 第5週 基本書購読 第6週 基本書購読 第7週 基本書購読 第8週 基本書購読 第9週 基本書購読 第10週 基本書購読 第11週 基本書購読 第12週 基本書購読 第13週 基本書購読 第14週 基本書購読 第15週 レポート

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 前期演習の進め方と 担当項目の割り当て
- 第2回 項目 基本書購読 内容 WTO 体制の検証
- 第3回 項目 基本書購読 内容 WTO の成立と発展
- 第4回 項目 基本書購読 内容 WTO 紛争解決手続き
- 第5回 項目 基本書購読 内容 WTO と国際法秩序
- 第6回 項目 基本書購読 内容 WTO 紛争解決手続きの機能
- 第7回 項目 基本書購読 内容 WTO/GATT 紛争解決手続きと国際交渉
- 第8回 項目 基本書購読 内容 WTO 小委員会の機能
- 第9回 項目 基本書購読 内容 WTO 紛争解決機関の機能と効果
- 第10回 項目 基本書購読 内容 WTO 紛争解決手続き - ケース・スタディ
- 第11回 項目 基本書購読 内容 国際司法裁判所の機能の限界
- 第12回 項目 基本書購読 内容 非通商問題と WTO
- 第13回 項目 基本書購読 内容 WTO 体制と機能変化
- 第14回 項目 基本書購読 内容 WTO 規律拡大の将来展望
- 第15回 項目 レポート

成績評価方法（総合） 出席と授業への参加・発言を重視します。成績評価は上記にレポートの結果を加えたものとします。

教科書・参考書 教科書： WTO 体制の法構造, 小寺 彰, 東京大学出版会, 2000 年; 適宜プリントを配布する / 参考書： 世界貿易機関を設立するマラケシュ協定-WTO, 外務省経済局監修, 日本経済問題研究所, 1997 年

メッセージ 内容的に非常に膨大な領域をカバーします。テキストの事前の復習が鍵となります。質問は随時受け付けます。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A 棟 4F (A410) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：平日随時

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	植村高久				

授業の概要 各自の研究テーマに即して既存研究を渉猟し、内容を獲得する。

授業の一般目標 研究テーマ関連の主要既存研究について概要をまとめることができ、それぞれの相対的な位置づけと分類ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 主要な既存研究についてその概要を述べることができる。 思考・判断の観点： 既存研究の枠組みや成果を自ら対象の分析に利用できる。 関心・意欲の観点： 既存研究を通じて自己の研究テーマを詳細に検討し、関心の焦点を述べることができる。 態度の観点： 既存研究の内容を客観的に記述することができる。 技能・表現の観点： 既存研究を読解し、自分の言葉で要約できる技能を身につけている。

授業の計画（全体） 自の研究テーマに則して、既存研究のリストを作成し、それを輪番で要約・報告します。

成績評価方法（総合） 報告の内容を中心に、既存研究を扱う技法の獲得程度により評価。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	寺地伸二				

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山田正雄				

授業の概要 経済理論の基礎を学ぶ

授業の一般目標 経済理論の基礎を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経済理論の基礎を身につける。

授業の計画（全体） 文献を読むことにより、経済理論を学んでいきます。

成績評価方法（総合） 参加姿勢、報告、出席により評価します。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	野村淳一				

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 学生の希望に応じてテーマを決める。ここに書くのはミクロ経済学をテーマとした場合である。演習 IA に引き続き, D. W. Katzner 著, *Static Demand Theory* の輪読を行う。内容は, 効用関数に関する同次性, 分離性, オスカーのカミソリ, 効用最大化定理の応用などである。

授業の一般目標 効用最大化問題で用いられた理論を他の経済現象に応用する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 効用関数の同次性, 分離性の理解 2. 効用最大化問題で用いられた理論の応用 思考・判断の観点: 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点: 1. 日常生活の中の経済現象に数理的な関心を持つ。

授業の計画 (全体) 効用最大化問題で用いられた理論を他の経済現象に応用すること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 効用最大化問題の復習 その 1 内容 効用最大化問題の復習
- 第 2 回 項目 効用最大化問題の復習 その 2
- 第 3 回 項目 同次性 その 1 内容 効用関数の同次性
- 第 4 回 項目 同次性 その 2
- 第 5 回 項目 分離性 その 1 内容 効用関数の分離性
- 第 6 回 項目 分離性 その 2
- 第 7 回 項目 古典的効用関数
- 第 8 回 項目 オスカーのカミソリ その 1 内容 境界における最大
- 第 9 回 項目 オスカーのカミソリ その 2
- 第 10 回 項目 オスカーのカミソリ その 3
- 第 11 回 項目 Nonintegrability 1 内容 Nonintegrability
- 第 12 回 項目 Nonintegrability 2
- 第 13 回 項目 レジャーと雇用への応用
- 第 14 回 項目 嗜好と質の変化
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 発表の出来具合を見て判断する。

教科書・参考書 教科書: *Static Demand Theory*, D. W. Katzner, Macmillan, 1970 年

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 各自の研究テーマに沿って研究指導を行う。

授業の一般目標 1 . 研究テーマに関する基礎的な理論を理解する。 2 . 分析の方法論を理解する。

授業の計画(全体) 各自の研究テーマに沿って発表し、議論し理解を深める。

成績評価方法(総合) 発表と出席を総合的に評価する

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	塚田広人				

授業の概要（記入時点でゼミ所属学生は未定。） 所属学生に応じて修士論文執筆に向けた基礎文献と研究テーマに沿った文献の学習を行う。 / 検索キーワード 効率、公正、慈恵（友愛）

授業の一般目標 修士論文執筆にふさわしい基礎学力と専門分野の学力を身につける。

教科書・参考書 参考書：塚田広人 『社会システムとして西條経済』成文堂、1998 年

連絡先・オフィスアワー ht@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 1 時半－ 3 時（会議等で不在の場合あり。）他の時間でも在室時はいつでも可。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 開講予定なし

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤井大司郎				

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 前期に引き続き、自身の修士論文とその関連テーマに関する発表を行う。

授業の一般目標 発表・質疑応答だけでなく、修士論文の作成方法もあわせて学びとること。

成績評価方法 (総合) 参加・質疑応答・発表から総合的に評価。

教科書・参考書 教科書：教科書を利用しない。 / 参考書：参考書を利用しない。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 各自の研究テーマに沿った研究を進める。そのための指導をおこなう。

授業の一般目標 各自の研究テーマに沿った研究に関して、基礎知識を習得し、学界の動向をおさえる。また、研究テーマの精緻化をおこなう。

成績評価方法 (総合) 研究の進行具合を総合的に評価する。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 本年度は開講しない

授業の一般目標 本年度は開講しない

授業の計画（全体） 開講なし

成績評価方法（総合） 開講しない

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀大介				

授業の概要 前期に引き続き、欧米経済史・金融史を主たるテーマとする経済学研究科学生の指導を行う。

授業の一般目標 修士学位審査論文に必要な知識と技能を身につけることを目標とする

授業の計画（全体） 受講者と相談の上、計画を調整する

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	濱島清史				

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	齋藤英智				

授業の概要 地域経済に関する問題意識を明確にし、修士論文のテーマに関連する文献・資料を収集し、修士論文のねらい、方法、論点、構成を検討する。併せて、論文のオリジナリティについても検討しながら研究を進める。 / 検索キーワード 地域経済、観光経済

授業の一般目標 修士論文作成へ向けて、テーマ、ねらい、論点、方法、構成、および、論文のオリジナリティを固める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 地域経済に関する理論、先行研究についての議論ができる。 思考・判断の観点： 理論、先行研究に基づく問題意識、オリジナリティを明確にできる。 関心・意欲の観点： 疑問点を自ら積極的に調査・分析し、報告・議論ができる。 態度の観点： 研究課題に真摯に取り組む。 技能・表現の観点： 目的に沿った資料の処理・加工ができる。

授業の計画（全体） 修士論文論の枠組みを検討する。また、収集した資料・文献の概要、および分析結果の報告を毎回行う。研究報告に基づき、修士論文のオリジナリティを検討し展開していく。併せて、テーマに沿った研究を随時進めていく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 2 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 3 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 4 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 5 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 6 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 7 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 8 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 9 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 10 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 11 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 12 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 13 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 14 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告
- 第 15 回 項目 研究報告 内容 修士論文に沿った研究成果の報告

成績評価方法（総合） 授業への参加態度：50 %、報告・発言内容：50 %により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。最初の授業において指示する。

連絡先・オフィスアワー hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田淵太一				

授業の概要 受講生の修士論文作成までの研究指導を行う。

授業の一般目標 修士論文作成までの研究指導

授業の計画（全体） 受講生の研究報告を主体とする

成績評価方法（総合） 研究報告の内容で評価する

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	澤喜司郎				

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河野真治				

授業の概要 世界経済や多国籍企業の最新の理論について学ぶ。同時に学生の修士論文テーマについて、個人報告とそれについて討論する。

授業の一般目標 修士論文作成に必要な基礎理論を学ぶ。また最近の学会動向についても把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界経済と多国籍企業についての、世界的な研究動向を理解する。
思考・判断の観点：経済学的思考方法を身につける。

授業の計画（全体）世界経済と多国籍企業についての最新の研究成果を読む。個人報告は月1回程度行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 学生レポート

第 2 回 項目 以下同じ

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合）レポート内容と討論への参加状況で評価する。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 現在のマスメディアのさまざまな現象を分析する。 / 検索キーワード マスメディア

授業の一般目標 マスメディアの仕組み等を批判的に理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： マスメディアの仕組みを知る。 思考・判断の観点： マスメディアの可能性問題点について判断する。 関心・意欲の観点： マスメディアを積極的に調査する。 態度の観点： マスメディアの正体を見抜く。

授業の計画（全体） 毎回、特定のマスメディアについて議論する。

成績評価方法（総合） 授業参加（欠格条件）、レポート（100%）

連絡先・オフィスアワー maru @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊嘉哲				

授業の概要 テキストの輪読を通じて、欧州統合について学習する。

授業の一般目標 欧州統合についての理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 欧州統合について理解を深める。 思考・判断の観点： 欧州統合にかかわるトピックについて、自分の見解を述べる。

授業の計画（全体） 第 1 回授業で受講者とともに扱うトピックとテキストを決めた後、それを輪読していく。

成績評価方法（総合） 出席状況と発表内容によって評価する。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松井範惇				

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尹春志				

授業の概要 東アジアに関する各自の研究テーマに則して報告と討論を行う。

授業の一般目標 各自の研究テーマの発展に資する。

授業の計画（全体） 毎回出席者の報告と討論で授業を行う。

成績評価方法（総合） 報告の内容と参加度で判断する。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田伸子				

授業の概要 1970 年代以降の韓国の就業体制について分析し、それが韓国の政治・経済・社会の構造とともにどのように変化してきたかを考察する。とくに、分析する際、ジェンダーの視点を不可欠とする。

授業の一般目標 韓国の就業体制の構造や特徴について理解し把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。
思考・判断の観点： テキストである社会科学専門書を批判的に読み、さらにそれを自前の問題意識へと発展させることができる。
技能・表現の観点： 自己の意見や問題意識を客観的かつ論理的に表現できる。

授業の計画（全体） 韓国の就業体制に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を要約し報告する。報告を中心に、テキストの問題点や論点について議論する

成績評価方法（総合） 報告 40 点、レポート 40 点、討論 20 点。1 学期に 3 回以上欠席した場合は単位を与えない。

メッセージ テキストは適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー e-mail address: ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 今日では、人類の生産力（対自然支配力）はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 本演習は、環境経済学の分野において、それに関わる文献を輪読し、ゼミ参加者における理解、分析能力を高め、行うべき政策に関して自ら評価できるような水準まで、必要な知識を身に付けることを目標にしている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画（全体） 経済学は環境問題の解決に役に立つのか。環境問題とは何か。環境問題はなぜ発生するか。値段のない環境には価値がないのか。環境の価値をどのようにとらえるべきか。環境の変化に対し、消費者はどのように行動するか。環境を保全するためにはどうしたらよいのか。これまでどのような環境政策が実施され、現在どのような政策が検討されているのか。政策手段を評価する基準は何か。また、地球規模の環境問題とは何か。その特徴は。地球環境保全の取り組みは、どこまで進んでいるか。いかなる仕組みをつくるべきか。これらの問題について、以下の視点から考察する。（１）環境、自然資源と経済（２）経済主体間の関係としての環境問題（３）公共財としての環境（４）環境価値の計測手法（５）公害裁判 - 賠償責任の経済学（６）日本の環境政策（７）環境政策の評価基準（８）環境課徴金、環境税及び排出許可証取引（９）地球規模の環境問題（１０）地球環境保全の取り組み

成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と報告（30%）で行う。

教科書・参考書 教科書：環境経済学、植田和弘、岩波書店、1996年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年 / 参考書：演習の進捗状況を考慮しその都度指示する。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	陳建平				

授業の概要 中国経済に関する研究

授業の一般目標 中国経済の特定の分野について深い知識をゆする。

成績評価方法 (総合) 文献と資料の精読および研究発表を通じて進めていく。

教科書・参考書 教科書：受講者と相談して決める。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	李海峰				

授業の概要 統計分析手法の社会経済学への応用、実証研究方法について、研究します、
メッセージ 充実しておもしろい学問の道を探求しましょう、

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 現代リベラリズムの再検討 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 リベラリズムについての総合的な理解。

授業の計画(全体) 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。

成績評価方法(総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	立山紘毅				

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平中貫一				

授業の概要 判例不法行為法を学ぶ。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	三間地光宏				

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	油納健一				

授業の概要 * 最高裁判決を素材に“ 民法実務 ”を学習する。

授業の一般目標 民法の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。

授業の計画(全体) 具体的には、つぎのような方法で授業を進める。(1) まず、実際に問題となった事件(最高裁で扱われた事件)を教員が選んだ後、報告者は、当該判決の事実と判決内容を報告する。(2) つぎに、その事件で争点となっている問題点を把握し、この問題を解決するために必要な民法典の条文や従来判例・学説について報告する。(3) 最後に、当該事件の事実関係を正確に理解し分析をくわえた上で、当該事件をいかに法的に解決しうるかを、当該判決やその判例評釈を検討しながら報告する。以上の(1)・(2)・(3)の中では、受講生間での議論を要求する。もし全く発言しない者には、レポートなどを課す場合がある。また、教官からの質問もある。

成績評価方法(総合) 出欠や遅刻早退の有無・報告内容・発言内容・関心態度などを総合的に判断して、評価する。3回以上無断で欠席した者には、単位を認定しない。また、学習意欲のない者・他のゼミ生に迷惑をかける者・教官の指示に従わない者にも、単位を認定しない。

教科書・参考書 教科書：適宜指示する。/ 参考書：適宜指示する。

メッセージ 大学院生として恥ずかしくない報告と討論をしてもらいます。

連絡先・オフィスアワー yuno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法総論はどのような内容を持つかを理解して貰う。刑法の意義、性質、機能、犯罪の成立要件論、違法論、共犯論、刑法論の順に考察していく。

授業の一般目標 刑法総論の内容を考察する事により、刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 刑法総論の内容を考察する事により、刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。 思考・判断の観点： 法的思考という観点から、刑法総論の具体的事案を考察し、刑法理論が具体的事案の解決にどのようにてきようされているかを見ていく。

授業の計画（全体） 刑法の意義、性質、機能犯罪の成立要件、構成要件論、違法論、責任論、共犯論、刑事論の順に考察していく。具体的な内容については最初の授業時間に講義事項を配布する。

成績評価方法（総合） 日頃の出席・授業態度、レポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書： 刑法総論, 安里全勝, 成文堂, 2008 年

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村美紀子				

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉川 信將				

授業の概要 受講生自身が決めたテーマに基づく研究発表をベースとし、参加者間での討議を行う。

授業の一般目標 自主的にテーマを設定し、積極的に研究発表を行う姿勢を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の設定したテーマについて、それが経済社会や企業実務に与える影響や関連を分析し、学説・判例をもあわせて検討する姿勢・思考法を身につける。 関心・意欲の観点：自分が設定した研究のテーマだけでなく、それに関連する問題及び他の参加者の発表課題に関しても関心を持ち、討議に参加する姿勢を身につける。

授業の計画（全体） 受講者の設定したテーマに基づき、1回から数回に分けて発表を行い、参加者間で討議することを繰り返す。必要に応じて時事問題を取り上げ検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 個別発表・討論
- 第 3 回 項目 個別発表・討論
- 第 4 回 項目 個別発表・討論
- 第 5 回 項目 個別発表・討論
- 第 6 回 項目 個別発表・討論
- 第 7 回 項目 個別発表・討論
- 第 8 回 項目 個別発表・討論
- 第 9 回 項目 個別発表・討論
- 第 10 回 項目 個別発表・討論
- 第 11 回 項目 個別発表・討論
- 第 12 回 項目 個別発表・討論
- 第 13 回 項目 個別発表・討論
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法（総合） どの程度真剣に研究し、それをまとめあげて発表できるかということを重視し、演習における討議への参加姿勢を加味して判断する。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない予定ですが、開講時に受講者と協議します。 / 参考書：必要な参考資料については適宜紹介します。

メッセージ 参加者には、企業法に関して、自分が決めたテーマに基づく研究発表を積極的に行っていただきます。また、時事問題に関しても可能な限り取り上げ検討していきたいと思います。

連絡先・オフィスアワー C棟224研究室（オフィスアワーは開講時に案内します。）

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柳澤旭				

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	澤田 正				

授業の概要 税法をテーマとした「修士論文作成」を各自のプロジェクトととらえ、そのマネジメントとゴールの達成を確実にすることを最大の目標と考える。各自はプロセスにおいて計画－実行－チェックのセルフマネジメントサイクルを積極的かつ効果的に回し続ける一方、チームとしてのゼミメンバーの協働作業により、論文の質的向上を図っていく。ゼミでは、これらのプロジェクトのプロセスにおいて受講生に役立つ演習を実施し、必要な支援、アドバイスを行う。/ 検索キーワード プロジェクト、セルフマネジメント、セルフモチベーション、セルフチェック、チームによる協働

授業の一般目標 修士論文のテーマを見つけ、論文の構想を練り、資料を集め、執筆スケジュールを考え、文章化し、期日までに仕上げる一連のプロセスを受講生が自らきっちりと着実に管理し、チェックしていくというセルフマネジメントによってスムーズに目標達成すること。

授業の計画（全体） 受講者のタイムマネジメントに沿った計画と演習内容を双方向で議論し、立案し、受講生がそれを着実に実施し、実施状況、成果を自己評価していき、スムーズな目標達成につなげる。このプロセスを通じて、修士に求められる税法の知識や能力の十分な獲得を目指す。

メッセージ 自ら進んで、どんどん企画し、プロセスを進めていくことを期待します。そのための相談や議論については支援を惜しみません。

連絡先・オフィスアワー（TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）月曜日 10 時 30 分～12 時、水曜日 10 時 30 分～12 時、

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 「現代行政法研究」及び「応用行政法研究」での問題意識をさらに発展させ、行政法に関するより具体的な問題点を検討していく。 具体的問題の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。 したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、演習への主体的な参加が要求される。

授業の一般目標 行政法における重要な学説や判例の理解を深めることを一般目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 具体的問題の検討を通して、行政法における重要な制度の理解を深める。 思考・判断の観点： 問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。

授業の計画（全体） 具体的には、行政関係の事例や判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる事例や判例は、参加者と相談の上、決定する。

成績評価方法（総合） 出席、報告等による。

教科書・参考書 教科書： 開講時に指示する。 / 参考書： 開講時に指示する。

メッセージ 日々のニュースに敏感であって欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河村誠治				

授業の概要 世界とりわけわが国を含む東アジアにおける、地域経済や各種産業の動向などを視野に入れた、単なる遊び（需要者サイドの本能的ニーズやウォンツ）の領域を超えたところの、観光経済研究。

授業の一般目標 自立（自分で考え行動）的に、多くを読み、多くを書き、簡明に話す。

授業の計画（全体） 受講者の全体的プレゼンテーション。

成績評価方法（総合） 研究意欲とレベル。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	上杉信敬				

連絡先・オフィスアワー 内線 5 5 8 8 (C 2 0 3 号室)

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 前期で行う「演習 IA」の続きをし、同時に思考のための視野を広げることを行う。 / 検索キーワード 「演習 IA」と同じ

授業の一般目標 「演習 IA」と同じ

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：「演習 IA」と同じ 思考・判断の観点：「演習 IA」と同じ 関心・意欲の観点：「演習 IA」と同じ 態度の観点：「演習 IA」と同じ 技能・表現の観点：「演習 IA」と同じ

授業の計画（全体） 「演習 IA」と同じ

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 「演習 IA」と同じ

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 「演習 IA」と同じ

メッセージ 「演習 IA」と同じ

連絡先・オフィスアワー tel. 933-5980 email: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	TIMOTHYROLAND SCOTT TAKEMOTO				

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 本講義の目的は、観光および地域経済に関する研究に必要な文献調査を進める中で、研究に必要な統計データや統計手法を学ぶとともに、修士論文作成に必要な情報収集を定期的に報告し、その内容に基づいて、受講生の研究内容を明確にしていくことにある。また、研究テーマに応じて統計調査を行う場合は、その方法を検討するなど、研究のための実践的な考え方・そのための能力を養うことにある。研究成果を報告し、今後の研究の方向性を検討する。

授業の一般目標 修士論文作成に必要な文献調査を行った結果を、研究テーマに合わせて、適切にとりまとめし、報告する。これらによって、研究内容を精査し、修士論文作成のための研究方法を明確にしていくことである。

授業の到達目標 / **知識・理解の観点**：観光、地域分析、環境分析に必要な手法や内容に対する知識を持ち、理解している。 **思考・判断の観点**：受講生の修士論文の内容に合わせて、様々な研究手法、分析方法の選択を行うことができる。 **関心・意欲の観点**：幅広い視野から研究内容を検討し、新しい知識を積極的に入手する意欲が高いこと。 **態度の観点**：数量分析を行った結果を、理解をしながら取りまとめ、わかりやすく解説ができる

成績評価方法 (総合) 文献調査における報告を積極的に行い、ゼミの中で修士論文のテーマに関する内容をより精査できる議論を行うことなどを、総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：講義開始時に紹介する。 / 参考書：講義開始時に紹介する。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	土生 英里				

授業の概要 モノやサービスの輸出入、知的所有権から紛争解決まで、国際取引のルールを概観し、経済のグローバル化が国内法構造に及ぼす影響を検証する。 / 検索キーワード グローバリゼーション、国際取引、国際貿易

授業の一般目標 経済がグローバル化するにつれて、国境を越えた様々な取引を規律するには国内法だけでは対応できない時代である。そのため、様々な国際間の合意や協定が国内法化され、適用されており、国際経済法と呼称されている。ここではとくに国際経済法の中核を占める国際貿易ルールについて、その種類、適用対象、内容、効果を検証する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際貿易の主要なルールとその背景を理解する 思考・判断の観点： 経済のグローバル化が国内法に及ぼす影響を分析できる 関心・意欲の観点： 具体的な企業行動にかかわる国際経済法の構造を理解する

授業の計画(全体) 第1週 ガイダンス 第2週 演習 第3週 演習 第4週 演習 第5週 演習 第6週 演習 第7週 演習 第8週 演習 第9週 演習 第10週 演習 第11週 演習 第12週 演習 第13週 演習 第14週 演習 第15週 レポート

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 後期演習の進め方と 担当項目の割り当て
- 第 2 回 項目 演習 内容 WTO 体制の検証
- 第 3 回 項目 演習 内容 WTO の成立と発展
- 第 4 回 項目 演習 内容 WTO 紛争解決手続き
- 第 5 回 項目 演習 内容 WTO と国際法秩序
- 第 6 回 項目 演習 内容 WTO 紛争解決手続きの機能
- 第 7 回 項目 演習 内容 WTO/GATT 紛争解決手続きと国際交渉
- 第 8 回 項目 演習 内容 WTO 小委員会の機能
- 第 9 回 項目 演習 内容 WTO 紛争解決機関の機能と効果
- 第 10 回 項目 演習 内容 WTO 紛争解決手続き - ケース・スタディ
- 第 11 回 項目 演習 内容 国際司法裁判所の機能の限界
- 第 12 回 項目 演習 内容 非通商問題と WTO
- 第 13 回 項目 演習 内容 WTO 体制と機能変化
- 第 14 回 項目 演習 内容 WTO 規律拡大の将来展望
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法(総合) 出席と授業への参加・発言を重視します。成績評価は上記にレポートの結果を加えたものとします。

教科書・参考書 教科書： WTO 体制の法構造, 小寺 彰, 東京大学出版会, 2000 年; 適宜プリントを配布する / 参考書： 世界貿易機関を設立するマラケシュ協定-WTO, 外務省経済局監修, 日本経済問題研究所, 1997 年

メッセージ 内容的に非常に膨大な領域をカバーします。テキストの事前の復習が鍵となります。質問は随時受け付けます。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A 棟 4F (A410) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：平日随時

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	植村高久				

授業の概要 各自の研究テーマを深め、様々な分析と記述の手法を習得して、修士論文作成に役立てる。

授業の一般目標 各自の研究テーマを焦点化し、修士論文の問題構成として具体化するとともに、その作成に必要な技法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：既存研究および研究対象に関するデータに関して、正確に理解し記述できる。 思考・判断の観点：対象に即して適切な分析手段を選択でき、その結果を正しく判断できる。 関心・意欲の観点：研究テーマを焦点化し、修士論文の構成に具体化できる。 態度の観点：客観的に分析できる姿勢を持ち、説得力のある議論が展開できる。 技能・表現の観点：既存研究・データ分析に必要な分析と記述の技法を持つ。

授業の計画（全体） 各自のテーマに従って、修士論文の各部分を構成し、内容を拡充していく。

成績評価方法（総合） 修士論文作成に関わる関心の具体化とそれに必要な諸技法の習得状況で評価する。

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 現在作成している修士論文の進捗状況・課題を毎回報告し、参加者と質疑応答を繰り返す。

授業の一般目標 毎回の報告、参加者との質疑応答によって、自身の修士論文で足りない点、改善すべき点を見つけ出すこと。そしてそれらを修士論文に反映させること。

成績評価方法 (総合) 参加・発表・質疑応答から総合的に評価。

教科書・参考書 教科書：教科書を利用しない。 / 参考書：参考書を利用しない。

メッセージ 作成中の修士論文を、しっかりとした内容に仕上げるための演習であることに注意してください。

連絡先・オフィスアワー 何かご質問がありましたら nakama73@yamaguchi-u.ac.jp までどうぞ。

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河野真治				

授業の概要 修士論文作成のための、調査研究をする。

授業の一般目標 修士論文を書くこと。

授業の計画（全体） 修士論文の中間報告。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 学生の報告

第 2 回 項目 以下同じ

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 修士論文の中間報告の内容で評価する。

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	李海峰				

授業の概要 研究論文の作成指導、

メッセージ 研究の目的は何ですか？考えてください！

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	植村高久				

授業の概要 各自の研究テーマを深め、様々な分析と記述の手法を習得して、修士論文作成に役立てる。

授業の一般目標 各自の研究テーマを焦点化し、修士論文の問題構成として具体化するとともに、その作成に必要な技法を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 既存研究および研究対象に関するデータに関して、正確に理解し記述できる。 思考・判断の観点： 対象に即して適切な分析手段を選択でき、その結果を正しく判断できる。 関心・意欲の観点： 研究テーマを焦点化し、修士論文の構成に具体化できる。 態度の観点： 客観的に分析できる姿勢を持ち、説得力のある議論が展開できる。 技能・表現の観点： 既存研究・データ分析に必要な分析と記述の技法を持つ。

授業の計画（全体） 各自のテーマに従って、修士論文の各部分を構成し、内容を拡充していく。

成績評価方法（総合） 修士論文作成に関わる関心の具体化とそれに必要な諸技法の習得状況で評価する。

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 前期に続き、修士論文の進捗状況を発表する。

授業の一般目標 自身の論文のプレゼンテーションを繰り返すことにより、修士論文の強調点、弱点を把握し、論文に反映させること。

成績評価方法 (総合) 参加・発表・質疑応答から評価。

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河野真治				

授業の概要 修士論文作成のための調査研究をする。

授業の一般目標 修士論文を書く。

授業の計画(全体) 修士論文の中間報告を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 修士論文中間報告

第 2 回 項目 以下同じ

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) 中間報告の内容で評価する。

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	李海峰				

授業の概要 修士論文の作成指導、

開設科目	Advanced Microeconomics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	NGUYEN HUU PHUC				

授業の概要 The purpose of the class is to help the students to understand the connections between contemporary microeconomics and practical problems, and to show the students how economic models can yield answers to practical problems. Finally, they can apply what they learned to their own master theses. / **検索キーワード** microeconomics, applied microeconomics, business microeconomics

授業の一般目標 1. To understand the applied theory of microeconomics. 2. To express your academic opinions about economic events using the theory of microeconomics.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. To understand the necessary mathematics in order to apply the theory of microeconomics. 2. To understand the connections between contemporary microeconomics and practical problems **思考・判断の観点:** To express your academic opinions about economic events using the theory of microeconomics.

授業の計画 (全体) The class will be proceeded along with the textbook.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introduction
- 第 2 回 項目 Demand Functions
- 第 3 回 項目 Modeling Consumer Behavior
- 第 4 回 項目 Channels of Distribution and the Problem of Double Marginalization
- 第 5 回 項目 Price Discrimination
- 第 6 回 項目 Averages and Margins
- 第 7 回 項目 Technology and Cost Minimization
- 第 8 回 項目 Multiperiod Production and Cost
- 第 9 回 項目 Competitive Firms and Perfect Competition
- 第 10 回 項目 Market Efficiency
- 第 11 回 項目 Taxes and Subsidies
- 第 12 回 項目 Externalities and Public Goods
- 第 13 回 項目 Incentives & Porter 's Five Forces
- 第 14 回 項目 Transaction Cost Economics and Theory of the Firm
- 第 15 回 項目 Economics and Organizational Behavior

成績評価方法 (総合) The evaluation will be made based on 1) homeworks and, 2) the contribution to the class.

教科書・参考書 教科書: Microeconomics for Managers, David M. Kreps, W W Norton & Co Inc, 2003 年

メッセージ I hope all of you will enjoy the class!

連絡先・オフィスアワー phuc@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	Mathematics for Economics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Yoshimi Kashiwagi (柏木 芳美)				

授業の概要 The aim of this lecture is to introduce students mathematics used in microeconomics. By using mathematics, things in economics will become clear and we can handle them theoretically. Actually microeconomics has been developed by mathematics. The goal is to understand the mathematics which is used in solving the utility maximization problem and the expenditure minimization problem. The starting point depends on your knowledge of mathematics. We will begin by checking it. Topics include: basic mathematics, differentiation of functions of one variable, differentiation of functions of several variables, determinant, quasiconcave functions, Lagrangian method.

授業の一般目標 To understand Mathematics using in Microeconomics.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点 : 1. Can use basic mathematics. 2. Can calculate derivatives of functions. 3. Understand the basic properties of determinants and can calculate concrete determinants. 4. Understand the meaning of utility maximization problems and expenditure minimization problems, and can solve them. **思考・判断の観点** : 1. Can study economic problems using mathematics. **関心・意欲の観点** : 1. Have interest concerning economic phenomena around us.

授業の計画 (全体) Preliminary test, review of fundamentals, basics of differentiation, elasticity, local maxima and local minima, utility maximization problem, expenditure minimization problem.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Preliminary test
- 第 2 回 項目 The objective of this lecture
- 第 3 回 項目 Review of fundamentals 1
- 第 4 回 項目 Review of fundamentals 2
- 第 5 回 項目 Review of fundamentals 3
- 第 6 回 項目 Derivatives
- 第 7 回 項目 Increasing and decreasing
- 第 8 回 項目 Elasticity
- 第 9 回 項目 Local maxima and local minima
- 第 10 回 項目 Global maxima and global minima
- 第 11 回 項目 Partial derivatives 1
- 第 12 回 項目 Partial derivatives 2
- 第 13 回 項目 Simultaneous equations
- 第 14 回 項目 Utility maximization problem
- 第 15 回 項目 Expenditure minimization problem

成績評価方法 (総合) Checking assignments.

教科書・参考書 教科書 : Use prints

メッセージ Have to solve exercises given in each lecture.

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp, Tel:933-5595, Office:C213. If you have any question, visit my office at any time.

開設科目	Advanced Macroeconomics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山田正雄				

授業の概要 Introduction to macroeconomics

授業の一般目標 This course is designed to understand the basic concept and framework of macroeconomics.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: To understand the basic concept and framework of macroeconomics.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Data of Macroeconomics
- 第 2 回 項目 Keynesian Cross
- 第 3 回 項目 Multiplier
- 第 4 回 項目 IS Curve
- 第 5 回 項目 Money Market
- 第 6 回 項目 LM Curve
- 第 7 回 項目 IS-LM Model
- 第 8 回 項目 Monetary and Fiscal Policy
- 第 9 回 項目 Shocks in the IS-LM Model
- 第 10 回 項目 Real Exchange Rate and Net Exports
- 第 11 回 項目 Mundell-Fleming Model
- 第 12 回 項目 Small Open Economy Under Floating Exchange Rates
- 第 13 回 項目 Fixed Exchange Rate System
- 第 14 回 項目 Small Open Economy Under Fixed Exchange Rates
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書: Macroeconomics, Fifth Edition, N. G. Mankiw, Worth Publishers, 2002 年

開設科目	Public Economics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 This course will set out the basic framework for the analysis of policies, programs, projects, regulations, and other government interventions. One needs to know whether the benefits (revenues) of all policy consequences exceed the costs (expenditures). The analysis tries to consider all of the costs and benefits to society as a whole. The objective is to facilitate more efficient allocation of society's resources. Where markets work well, individual self-interest leads to an efficient allocation of resources. Consequently, programs of government intervention move the market away from a competitive equilibrium, creating distortions in the market as economic resources are reallocated. In perfectly competitive markets there are no externalities. Externalities are present in a market if the actions of either consumers or producers lead to costs or benefits that are not reflected in the price of the product in the market. Where markets fail, there is a rationale for government intervention. One must be able to demonstrate the superior efficiency of a particular intervention relative to the alternatives. For this purpose, we use public economic theory.

授業の一般目標 This course will be devoted to a discussion of the main conceptual issues involved in public economics.

授業の計画（全体） This course will set out the basic framework for the analysis of policies, programs, projects, regulations, and other government interventions.

開設科目	Cost - Benefit Analysis	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山下訓				

授業の概要 This course is intended for a student with a basic understanding of elementary economics who wish to learn how to conduct a social cost-benefit analysis. The term social benefit-cost analysis refer to the appraisal of a private or public project from a public interest viewpoint. Our class concerns itself mainly with the economic benefits and costs of projects, although it touches on the question of economic impact. The questions addressed are whether the benefits of the project exceed the costs or not.

教科書・参考書 参考書： Benefit-Cost-Analysis Financial and Economic Appraisal using Spreadsheets
Harry F.Campbell and Richard P.C.Brown The University of Queensland Cambridge University Press

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518

開設科目	Economic Statistics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村淳一				

授業の概要 Simulation models have been widely used in the design of public policy. For example, simulation models could answer questions like the following: (1) What is the impact of an increase in the federal budget deficit on the level of interest rates and the rate of inflation? (2) How does the trade deficit affect the level of employment and the bargaining position of labor unions? (3) What is the relationship between the quantity of money, say M1, and the level of economic activity? This course focuses upon econometric simulation models. Therefore we explain how to estimate a single equation model at first. For most economic decision or choice problems, we want to know the relationships between economic variables, which are suggested by economic theory. These are called economic models. These economic models involve questions concerning the signs and magnitudes of unknown and unobservable parameters, such as price elasticities and multipliers.

授業の一般目標 One of our goals is to give you some idea of how we introduce parameters into an economic model and how we estimate them. Then we discuss the construction, evaluation, and analysis of simultaneous equation models and their use in policy analysis and forecasting. At the end of this course we will construct our own simulation models and evaluate their dynamic behavior.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な統計学の理論を理解している。 **思考・判断の観点：** 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 **統計学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。** **技能・表現の観点：** 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。 **統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。**

授業の計画（全体） 1. Single Equation Models 2. Simultaneous Equations Models 3. Dynamic Behavior of Simulation Models

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Statistical model 内容 Statistical model
- 第 2 回 項目 Econometric estimates 内容 The Least Squares Principle
- 第 3 回 項目 Statistical inference (1) 内容 R2
- 第 4 回 項目 Statistical inference (2) 内容 F test
- 第 5 回 項目 Statistical inference (3) 内容 t tests
- 第 6 回 項目 Some notes for econometric estimates (1) 内容 seasonality, trends, dummy variables
- 第 7 回 項目 Some notes for econometric estimates (2) 内容 Heteroskedasticity
- 第 8 回 項目 Some notes for econometric estimates (3) 内容 Autocorrelation
- 第 9 回 項目 Simultaneous equations models (1) 内容 Simultaneous equations models
- 第 10 回 項目 Simultaneous equations models (2) 内容 IS-LM models
- 第 11 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (1) 内容 Dynamic behavior of simulation models
- 第 12 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (2) 内容 Stability
- 第 13 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (3) 内容 Multipliers and dynamic response (1)
- 第 14 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (4) 内容 Multipliers and dynamic response (2)
- 第 15 回 項目 予備 内容 予備

成績評価方法（総合） 課題レポートで判定する。評価割合は 100 %。

教科書・参考書 教科書：“Basic Econometrics, 4th Edition, with EViews 3.1 Student Version software”, “Gujarati, Damodar N.”, McGraw-Hill Higher Education Publishing, 2002 年

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける（講義中に指示）

開設科目	Decision Making	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	成富敬				

授業の概要 Decisions today are probably more complex and difficult than at any time in the past. To improve our decision making abilities, we should consider both how these decisions are made and how they should be made. In this course we will focus on; 1. decision-making process 2. decision models 3. mathematical models

授業の一般目標 To improve our decision making abilities.

授業の計画 (全体) 1. decision-making process 2. decision models 3. mathematical models

成績評価方法 (総合) Exercises: 50 % Attendance: 50 %

開設科目	Program Evaluation	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 This lecture is program evaluation in action. More specifically, the lecture applies the theory-driven evaluation approach to address the following three steps. 1. Systematically identifying stakeholder's needs. 2. Selecting Evaluation options best suited to particular needs. 3. Putting the selected approach into action

授業の一般目標 1. To understand the basic concepts and conceptual framework of program evaluation.
2. To understand how program evaluation can be used to assist stakeholders as they plan programs.
3. To understand evaluation approach and methods.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. To explain the basic concepts and conceptual framework of program evaluation. 2. To explain evaluation approaches and method. **思考・判断の観点:** 1. To apply the method of program evaluation to concrete programs.

授業の計画 (全体) A Student makes a presentation of the topics of the textbook and we discuss them.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introduction
- 第 2 回 項目 An Overview of Program Evaluation
- 第 3 回 項目 Tailoring Evaluations
- 第 4 回 項目 Identifying Issues And Formulating Questions
- 第 5 回 項目 Assessing The Need For A Program
- 第 6 回 項目 Expressing And Assessing Program Theory
- 第 7 回 項目 Assessing And Monitoring Program Process
- 第 8 回 項目 Measuring And Monitoring Program Outcomes
- 第 9 回 項目 Assessing Program Impact I
- 第 10 回 項目 Assessing Program Impact II
- 第 11 回 項目 Detecting, Interpreting And Analyzing Program Effects
- 第 12 回 項目 Measuring Efficiency
- 第 13 回 項目 The Social Context Of Program Evaluation
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) Students have to attend the class, make presentations and submit some reports.

教科書・参考書 教科書: Evaluation A Systematic Approach, PETER H. ROSSI, SAGE Publications, 2004 年

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	Statistical Decision Making	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	HASHIMOTO, Hiroshi				

授業の概要 Decision making using statistical techniques and stochastic models will be treated. Problems of decision making under uncertainty are difficult to solve, but they are interesting and important in their real application. First mathematical preliminaries and basic results are given shortly. Then some useful methods in advanced statistics and operations research are introduced and discussed by using practical examples.

授業の一般目標 The objectives of this class are to increase understanding of the principles of statistical problem solving and to study the statistical methods and probability models required in the decision making process.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: To understand basic probability theory and probability concepts
技能・表現の観点: To evaluate decision trees **その他の観点:** To manipulate mathematical models

授業の計画 (全体) まず、必要な数学的準備をして、基礎的な概念やモデルを紹介し、主要な手法と例題を取り上げる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Probability Concepts: Introduction
- 第 2 回 項目 Basic Concepts
- 第 3 回 項目 Probability Axioms
- 第 4 回 項目 Marginal, Conditional, and Joint Probabilities
- 第 5 回 項目 The Additive and Multiplicative Laws
- 第 6 回 項目 Independent and Dependent Events
- 第 7 回 項目 Bayes' Theorem
- 第 8 回 項目 Decision Theory: Introduction
- 第 9 回 項目 Criteria for Decision Making
- 第 10 回 項目 The Minimax Regret Criterion
- 第 11 回 項目 A Basic Decision Problem
- 第 12 回 項目 Decision Trees
- 第 13 回 項目 How to Evaluate Decision Trees
- 第 14 回 項目 Additional Information
- 第 15 回 項目 The Value of Information

成績評価方法 (総合) 出席およびレポートによる。

教科書・参考書 教科書: We will not use a textbook.

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	Postwar Japanese International: An Overview	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	今津武/IMAZU T.				

授業の概要 After World War II, the Japanese Government and Japanese nationals made huge efforts to recover from the destruction of the war, and Japanese people have had the earnest desire to rejoin the international society and contribute to global prosperity as a “ Peaceful Country ”. To realize this wish, the Japanese Government has taken the policy to establish friendly and close relations with all countries in the World as the main plank of our diplomacy. Furthermore, we started providing Aid toward developing countries from the early post-war years of recovery. And at present, International Aid has been always very important axis of Japan ’s international politics. Under these circumstances, understanding the history, policy and practice of Japan ’s ODA would be useful to get valuable insights into Japan ’s Post-war international politics. / **検索キーワード** International Cooperation, Official Development Assistance(ODA)

授業の一般目標 After studying the outline of history, policy and practice of Japan ’s ODA, students are requested to consider and examine how to develop the future relationship between Japan and her/his country using Japan ’s ODA and to prepare a proposal paper on it.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: Students will evaluate Japanese international cooperation policy considering the past relations between Japan and developing countries established by using mainly ODA. **思考・判断の観点:** Students will consider the future direction of Japan ’s international policy from the point of view of developing countries. **関心・意欲の観点:** Students in this course come from developing countries and almost of them are government officials in respective countries. So they will be expected to play a important roll for the development of each country. They must learn concrete approach to Japan ’s ODA for using it effectively and efficiently for the development of their own countries.

授業の計画 (全体) Through the series of lectures, students will deepen their general understandings of Japan ’s ODA. Moreover students are requested to put together their thoughts and present them to the other members of the class, and to participate in discussions on each presentation. Finally, students should prepare their proposals on how to use the instrument of Japan ’s ODA to promote their own countries social and economic development, and to establish friendly relations between both countries.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Guidance 内容 ・ the Course Plan ・ Professor’s Experiences Related with International Cooperation
- 第 2 回 項目 The New Structure of International Politics after World War II 内容 ・ The Relationship between Old-world and New Independent Countries ・ East-West Cold War Structure etc.
- 第 3 回 項目 History of Japan’ ODA and its Political Meanings 内容 ・ Japan’s Reintegration to International Community ・ War Reparation and Trade Promotion Policy ・ Long Way to Top Donor in the world
- 第 4 回 項目 The Current Trend of International Cooperation and Japan’s Involvement 内容 ・ Millennium Development Goals ・ International Support to Africa ・ The War against Global Terrorism (Poverty Reduction)
- 第 5 回 項目 The View of Students 内容 ・ Evaluation and Criticism to Japan’s ODA ・ Students are requested to prepare the papers on the issue and present them to the class
- 第 6 回 項目 Japan’s ODA Policy 内容 ・ ODA Charter ・ Medium-Term Policy on ODA

- 第 7 回 項目 The Framework of Japan's Economic Development Cooperation 内容 ・ The Role of ODA and Private Sector ・ Implementation Structure of ODA and its Budget
- 第 8 回 項目 A Foreigner's View 内容 Japan's International Relations and ODA
- 第 9 回 項目 The Implementation Mechanism of ODA (I) 内容 ・ Financial Cooperation (Grant Aid and Yen Loan)
- 第 10 回 項目 The Implementation Mechanism of ODA (II) 内容 ・ Technical Cooperation
- 第 11 回 項目 The Challenges of Developing Countries 内容 ・ Poverty Reduction ・ Human Security ・ Pro-poor Development
- 第 12 回 項目 The Development Agenda of Student's Home Country 内容 ・ Students are requested to prepare the papers on the issue and present them to the class
- 第 13 回 項目 The Development Agenda of Student's Home Country 内容 ・ The Preparation of Appropriate Plan Using Japan's Cooperation for the Challenges Identified in 12th Class
- 第 14 回 項目 Presentation of the Project Prepared in 13th Class 内容 ・ Students are requested Project Paper and present them to the class
- 第 15 回 項目 Summary of Lecture or Occasional Date 内容 ・ Evaluation of the Class by Students

成績評価方法 (総合) Judging the achievement level of each assignment such as presentations in the class and prepared papers. The attendance in the class will also be considered for final grading.

教科書・参考書 教科書： Handouts delivered by lecturer / 参考書： Yen for Development, Edited by Shafiqul Islam, Council on Foreign Relations Press, 1991 年； Aid-Understanding International Development Cooperation, J. Degnbol-Martinussen & P. Engberg-Pedersen, Zed Books, 2005 年； The Elusive Quest for Growth, William Easterly, The MIT Press, 2002 年； The End of Poverty, Jeffrey Sachs, Penguin Books, 2005 年； Future positive International Co-operation in the 21st Century, Michael Edwards, Earthscan, 2004 年； At the class, I will recommend concerned books on the subject if it was necessary.

連絡先・オフィスアワー E-mail : imazu@yamaguchi-u.ac.jp Room : Faculty of Economics C-Block 2nd Floor (C-218) Office Hour : Friday 1:30pm to 4:30pm

開設科目	Postwar Japanese Economy: An Overview	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村 保				
<p>授業の概要 The first aim of this course is to acquaint students with the nature and causes of the postwar economic development, which is sometimes referred to a “ miracle, ” and of the recent serious slump, which is now called a “ lost decade, ” in Japan. This course will also discuss the problems the Japanese economy faces now and the possible solutions or economic policies for them. / 検索キーワード Economic Growth and Developments in Japan, IS-LM Model, Business Cycles in Japan, Economic Policies</p> <p>授業の一般目標 The goal of this course is threefold: 1) Understanding the nature and causes of the development and growth of the postwar Japanese economy, 2) Applying the intermediate macroeconomic theories to analyze the Japanese economy, 3) Evaluating the costs and benefits of the actual Japanese macroeconomic and industrial policies.</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1) Basic knowledges about the prewar and postwar developments of the Japanese economy. 2) Industrial, economic and international trade structures about Japan 3) Actual monetary, fiscal and industrial policies by Japanese government 4) Several hypotheses to explain “unique” economic characteristics in Japan 思考・判断の観点: 1) Applying the intermediate macroeconomic theories to understand the actual development of Japanese economy 2) Evaluating the costs and benefits of economic policies in the long-run as well as in the short-run</p> <p>授業の計画 (全体) First, the course will overview the growth and developments of postwar Japanese economy paying a little attention to the prewar Japanese economy. Second, several important topics will be discussed, which includes International Trade, International Finance, Public Finance, Fiscal Policies, Financial Markets, and Monetary Policy. Finally, if time permits, the course will also discuss the economic policies and solutions to the problems that the current Japanese economy faces.</p> <p>授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 Introduction 第 2 回 項目 Economic Growth and Business Cycles 1 第 3 回 項目 Economic Growth and Business Cycles 2 第 4 回 項目 Economic Growth and Business Cycles 3 第 5 回 項目 Bubble Economy 第 6 回 項目 Financial Crisis and Bad Loan Problems 第 7 回 項目 International Finance 第 8 回 項目 International Trade 第 9 回 項目 Public Finance 第 10 回 項目 Fiscal Policies 第 11 回 項目 Financial Markets 第 12 回 項目 Monetary Policy 第 13 回 項目 Labor Market 第 14 回 項目 Social Security System 第 15 回 項目 Final Exam</p> <p>成績評価方法 (総合) Two homework assignments 40 % (20 % each) Final Take-home Exam 60 %</p> <p>教科書・参考書 教科書: Instead of using a particular textbook, the lecture notes, which show the essences of the topics, will be distributed. / 参考書: The Japanese Economy, 2nd Edition, David Flath, Oxford University Press, 2005 年</p>					

メッセージ Hopefully, you will learn a lot from the Japanese experiences. Get involved in class and study together!

連絡先・オフィスアワー Email: nakamura@econ.kobe-u.ac.jp Office hours: Right after class or by email appointment

開設科目	Academic Writing	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Timothy Takemoto				

授業の概要 This course is to provide participants with experience of writing papers in English. As subject matter for the class we will consider and discuss defining characteristics and differences between European and Japanese culture. Participants will also be encouraged to present and write about their own research. / 検索キーワード Style, Grammar, Corrections, Presentation, Precis, Japanese Culture

授業の一般目標 1) To know the rules regarding the style of academic presentations. 2) To develop the ability to present academic manuscripts, and make presentations to generally accepted academic standards.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1) To know the rules regarding the style of academic presentations.

技能・表現の観点: 2) To develop the ability to present academic manuscripts, and make presentations to generally accepted academic standards.

授業の計画 (全体) 1) Lexical and Grammatical Register Students will be encouraged to become aware of the differences between formal (academic) and informal (conversational) vocabulary and grammar. Emphasis will be placed in raising students' awareness of the register of the lexicon and grammatical structures used in academic writing. 2) Academic Grammatical Constructions Students will be introduced and trained in the use of typical academic grammatical forms, in particular: the passive voice, compound sentences, and structures for making hypotheses, asserting conclusions and refuting arguments. 3) Abstracts and Pr & eacute;cis The methods and rules for producing pr & eacute;cis and abstracts of ones own and others work will be taught with emphasis placed on developing students' ability to condense, paraphrase and synopsisise work in their own research field. 4) Structure and Organisation The structure and organisation of academic presentations, journal papers will be introduced with reference to cultural norms and international standards. Students will be required to present their own research in a format applicable for presentation and publication according to recognised academic structural norms. 4) Plagiarism, References and Citation Students will be advised as to the rules concerning the use, and abuse, of references to other academic works, including standards for citation, references and bibliographies. Students will also be guided in the use of search techniques and databases for the retrieval of pertinent bibliographic material. 5) Correction and Amendment Standards and techniques for the correction and amendment of academic texts will be introduced via reciprocal feedback and mock ' peer review '. Students will be required to present their own research and to provide constructive comment on the work of others. 6) Formal Presentation Students will be required to give a formal presentation to their peers and to a wider public via the World Wide Web. The use of information processing technology, such as Microsoft PowerPoint will be discussed.

成績評価方法 (総合) Participants will be evaluated by reference to participation in class and frequent written submissions and a final presentation.

メッセージ Please bear in mind that you will be required to submit your writing weekly via email.

連絡先・オフィスアワー mail: tim@yamaguchi-u.ac.jp homepage: <http://www.nihonbunka.com>

開設科目	Seminar IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 Students who attend this Seminar present his or her research area every class. After presenting, we take time to question and discuss.

授業の一般目標 To explain what you want to research in Master dissertation.

成績評価方法 (総合) I check the presentation in each class.

連絡先・オフィスアワー If you have any question, please send E-mail to me. nakama73@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	Seminar IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	土生 英里				

授業の概要 The aim of this seminar is to understand the general feature of public administration.

授業の一般目標 By taking this seminar, it is expected to understand the general feature of public administration including historical development of various concepts until arriving to the most recent development in this field

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: Understand the basic theories and concepts of Public Administration
思考・判断の観点: To be able to do analysis concerning basic feature of the public administration.

授業の計画 (全体) 1st. week guidance 2nd. week to 14th. week seminar 15th. day report

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 guidance
- 第 2 回 項目 seminar
- 第 3 回 項目 seminar
- 第 4 回 項目 seminar
- 第 5 回 項目 seminar
- 第 6 回 項目 seminar
- 第 7 回 項目 seminar
- 第 8 回 項目 seminar
- 第 9 回 項目 seminar
- 第 10 回 項目 seminar
- 第 11 回 項目 seminar
- 第 12 回 項目 seminar
- 第 13 回 項目 seminar
- 第 14 回 項目 seminar
- 第 15 回 項目 report

成績評価方法 (総合) Evaluation will be made emphasising on presence at the classroom, participation and report.

教科書・参考書 教科書: Printed materials will be given at ad hoc basis.

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A 棟 4F (A410) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 平日随時

開設科目	Seminar IIA(Thesis Instruction)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 Students who attend this class explain his or her Master dissertation every class.

授業の一般目標 To explain what you analyse in your Master dissertation.

連絡先・オフィスアワー If you have any question, please send E-mail. nakama73@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	Seminar IIA(Thesis Instruction)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	土生 英里				

授業の概要 The aim of this seminar is to continue deepening understanding of general feature of public administration based on studies performed at Seminar IA and IB.

授業の一般目標 By taking this seminar, it is expected to understand the general feature of public administration including historical development of various concepts and be able to reflect those insights into thesis elaboration

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: Understand the advanced theories and concepts of Public Administration **思考・判断の観点:** To be able to do analysis concerning determined feature of the public administration and come up with tangible results which is completion of each thesis.

授業の計画 (全体) 1st. week guidance 2nd. week to 14th. week seminar 15th. day report

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 guidance
- 第 2 回 項目 seminar
- 第 3 回 項目 seminar
- 第 4 回 項目 seminar
- 第 5 回 項目 seminar
- 第 6 回 項目 seminar
- 第 7 回 項目 seminar
- 第 8 回 項目 seminar
- 第 9 回 項目 seminar
- 第 10 回 項目 seminar
- 第 11 回 項目 seminar
- 第 12 回 項目 seminar
- 第 13 回 項目 seminar
- 第 14 回 項目 seminar
- 第 15 回 項目 report

成績評価方法 (総合) Evaluation will be made emphasising on presence at the classroom, participation and report.

教科書・参考書 教科書: Printed materials will be given at ad hoc basis.

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A 棟 4F(A410) e-mail:e.habu@yamaguchi-u.ac.jp office hour: whenever possible

開設科目	経済政策論A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	塚田広人				

授業の概要 経済政策の基本問題である効率性と公正性のトレードオフを、ジョン・ロールズの『正義論』によって原理的に考える。この問題は高度経済成長とそれに続く低成長期、また長期不況期を経て、日本がこれからどのような社会を目指していくのかを考えるための一つの原理的なヒントとなるであろう。『正義論』の第一部理論の第一章から第三章を各節ごとに講義する。第一章 公正としての正義 第二章 正義の諸原理 第三章 原初状態 ジョン・ロールズ『正義論』紀伊国屋書店、1979年。(現在改訳中であり、入手は難しいであろう。プリントを配布する予定。) / 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性

授業の一般目標 正義論の基本内容を理解する。

教科書・参考書 教科書：講義の最初に指示する。

連絡先・オフィスアワー ht@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経済政策論B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	塚田広人				

授業の概要 経済政策の基本問題である効率性と公正性のトレードオフを、ジョン・ロールズの『正義論』によって原理的に考える。この問題は高度経済成長とそれに続く低成長期、また長期不況期を経て、日本がこれからどのような社会を目指していくのかを考えるための一つの原理的なヒントとなるであろう。『正義論』の第二部制度論の第四章から第六章を各節ごとに講義する。第四章 平等な自由 第五章 分配の正義 第六章 義務と責務 / 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性

授業の一般目標 『正義論』の基本内容を理解する。

教科書・参考書 参考書：講義の最初に指示する。

連絡先・オフィスアワー ht@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	労使関係の国際比較研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	濱島清史				

授業の概要 比較研究をすることによって対象への認識は深まるものであり、何らかの比較のないところでは対象の位置づけ自体が定まらなくなってしまう。本講義では労使関係の国際比較を行なうことによって、各自の専門(関心)領域に幅をもたせてもらうことをねらいとする。先進国 日本 途上国の三段階の労使関係論を体系的に構築していく魁とならんことを期待したい。なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。以前は、日本・中国・カナダの労使関係に関する基本文献を数本輪読してから、今野浩一郎(1998)『勝ち抜く賃金改革』日本経済新聞社。を輪読し、さらに各自の発表を自由課題で行なった。/ 検索キーワード 政労使関係

授業の一般目標 世界の主要国の労使関係の基本事項について認識すること。または日本的雇用慣行に関して、社会通念に囚われない、統計と先行研究に基づいた社会科学的な議論を理解し、他国と比較検討できること。

授業の計画(全体) ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト(1)(2)から何部か選択して輪読していき、毎回参加者にレジユメを作成して報告してもらう。ゼミの後半は、各自が関心を持つ国に関して調べてきて発表してもらいたい。ただし、これまで同様、基本文献と関連文献をいくつか輪読し、各自の自由課題で締め括るという方向になるかもしれない。

成績評価方法(総合) 成績評価方法(総合) レジユメ発表と学期末レポート。レポートが50%、発表等が40%、出席が10%。成績評価方法(観点別) 講義形式とゼミとは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。定期試験(中間・期末試験) 基本的に発表形式(レポート、レジユメ、プレゼン)を採る。小テスト・授業内レポート 基本的に発表形式(レポート、レジユメ、プレゼン)を採る。10点 宿題・授業外レポート 基本的に発表形式(レポート、レジユメ、プレゼン)を採る。50点 授業態度・授業への参加度 毎回、出席を確認する。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。10点 受講生の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 基本的に発表形式(レポート、レジユメ、プレゼン)を採る。20点 出席 毎回、出席を確認する。10点 合計 100点

教科書・参考書 教科書: 先進諸国の労使関係: 国際比較: 21世紀に向けての課題と展望, 桑原靖夫, グレグ・バンバー, ラッセル・ランズベリー編, 日本労働研究機構, 1990年; ・テキスト候補(1) 桑原靖夫, グレグ・バンバー, ラッセル・ランズベリー編(1994)『先進諸国の労使関係 国際比較: 21世紀に向けての課題と展望』日本労働研究機構。(2)「特集 開発主義と労使関係」日本労働研究雑誌 1999年8月号, No.469. ・参考書は適宜指摘するが、さしあたり(3) 稲上毅・H. ウィッタカー他(1994)『ネオ・コーポラティズムの国際比較 新しい政治経済モデルの探索』日本労働研究機構。(4) 日本労働協会編『海外調査シリーズ、 国の労働事情』日本労働協会(現日本労働研究機構)。教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。/ 参考書: 適宜指示する。

メッセージ 共に学ばん!

連絡先・オフィスアワー tel: 083 - 933 - 5521. Eメール・アドレス: hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	地域社会福祉論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 福祉政策のあり方は国によって大きく異なる。福祉国家比較をおこなうことによって、日本の福祉政策の現状と理念について理解を深める。特に、スカンジナビアモデルと称される北欧諸国の福祉政策を考察することによって、個人、家族、国家との関係がどのようなもので、また、賃金労働とケアとの関係がどのように考えられているのかなどについて、議論を進める。/ 検索キーワード 福祉国家、福祉政策、社会学、ケア、家族、ジェンダー

授業の一般目標 比較福祉国家論の方法を修得する。政策と政治、個人と社会との関係について多角的に考察できる。

授業の計画（全体） 演習形式で授業をおこなう。各自が話し合いによって文献の分担を決め、授業での報告をもとに全員での討論をおこなう。

成績評価方法（総合） 授業への参加度合いや討論の内容など、総合的に判断し評価する。演習形式の授業のため、出席は履修の必要条件である。

教科書・参考書 教科書：読み合わせるテキストとして、“Social Politics”および“Journal of Social Policy”などの雑誌に掲載されている英語論文を考えている。

メッセージ 授業内容を自分の興味関心と結びつけて考察するという姿勢を望みます。

連絡先・オフィスアワー 来室の際はメールにて予定をお知らせ下さい。 e-mail nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp URL <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nabeyama/>

開設科目	日本経済史研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 テーマ：明治期の山口県経済 明治時代の日本は、資本主義化や産業革命が進行した時代といわれる。しかし、その全てが日本の全域で均質的に進行していたわけではない。「地方」における資本主義経済の発達や産業革命はどのような状況にあったのか。この授業では、山口県地域に焦点をあて、地方における経済社会の実情について、当時の史料を用いて分析してみたい。 / 検索キーワード 日本経済史、日本近代史、産業革命

授業の一般目標 ・山口県における資本主義経済の浸透状況、産業化の具体相を、全国的動向と比較しながら理解する。 ・経済史の分野で地域社会を分析する視角を養う。 ・明治期の史料を通じて歴史を分析する能力を養う。

授業の計画(全体) 『山口県史・史料編 近代4』(明治期の産業・経済編)に掲載された諸史料の講読を行う。具体的には、割り当てられた項目の史料をもとに、受講者に報告を行ってもらいながら、授業を進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス(授業の進め方)
- 第 2 回 項目 山口県の経済概況と勸業政策
- 第 3 回 項目 山口県の水産業(水産業振興)
- 第 4 回 項目 山口県の水産業(下関とトロール漁業)
- 第 5 回 項目 山口県の近代捕鯨業
- 第 6 回 項目 山口県の塩業
- 第 7 回 項目 山口県の鉱業(石炭)
- 第 8 回 項目 山口県の在来産業
- 第 9 回 項目 山口県における近代工業(小野田セメント)
- 第 10 回 項目 山口県における近代工業(日本舎密製造)
- 第 11 回 項目 山口県における近代工業(その他諸工業)
- 第 12 回 項目 山口県の金融業
- 第 13 回 項目 産業経済基盤の整備(道路・鉄道)
- 第 14 回 項目 産業経済基盤の整備(港湾・電気等)
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法(総合) 課題の報告(45%)およびレポート(30%)による。この他、授業への取組み(15%)、出席(10%)。

教科書・参考書 教科書：山口県史・史料編 近代4, 山口県編, 山口県, 2003年; テキストは適宜プリントして配布する。 / 参考書：必要な参考文献は、講義の中で適宜紹介する。

メッセージ ・本授業は戦前の史料講読になるため、留学生の受講は難しい。留学生で日本経済史研究の授業を受講したい場合は、前期の日本経済史研究Aを受講すること。 ・講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合がある。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際経済学研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田淵太一				

授業の概要 国際経済学研究 A に引き続いて、L・ゴメスのテキストを輪読しつつ、自由貿易推進論を批判的に検討する。

授業の一般目標 自由貿易推進論の意味を現実の世界経済と対比して考察する。

授業の計画(全体) テキストを輪読する。

成績評価方法(総合) 授業への参加姿勢、報告等の日常的活動を評価する。授業への参加度 50%、受講者の発表 50%。

教科書・参考書 教科書：The Economics and Ideology of Free Trade: A Historical Review, Leonard Gomes, Edward Elgar, 2002 年

メッセージ 大学院レベルの経済理論の知識を要求します。国際経済学研究 A を履修した上で受講すること。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは後期開始後に発表します。

開設科目	国際メディア研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 国際比較に基づいて放送メディアの歴史的発展、放送メディア市場の現状や将来性について理論的に分析することによって、放送メディアの特質を明らかにする。

開設科目	東アジア経済研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尹春志				

授業の概要 東アジアが今日直面している問題について、参加者との討論を交えて行う。

開設科目	アジア環境政策研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 18 世紀の産業革命以来，ヨーロッパを中心とした工業先進国は技術革新によって，工業生産性の向上を可能にし，驚異的な経済発展をもたらした。この産業革命は伝統的な自給自足の農業社会を，財貨に対する需要拡大を引き起こした工業化社会へと変換させ，人々に多大な富と豊かな生活様式を可能にした。それゆえ，発展途上国にとって，工業化は経済発展を加速させ，生活水準を向上させるために，最も有効な手段の一つだと考えられている。しかしながら，多くの発展途上国では，工業化過程の離陸段階では，環境保全のための政策的努力はしばしば無視され，キャッチアップを優先する産業政策は，汚染集約型化学工業を優先して推進されるために，社会資本では産業基盤を優先して，生活基盤を軽視する傾向にある。環境への配慮を欠いたまま進められた急速な工業化や面的開発は，様々な公害・環境問題を引き起こした。一方，地球規模の環境問題の拡大に伴って，国際協力による緩和への道を探ることは人類共通の課題になりつつある。特に，地球温暖化問題に関する国際的取組みは，科学的知見の集積をふまえて，1980 年代に国際政治問題化して以来，集約的に行なわれてきたが，発展途上国の義務に関しては，なかなか合意が得られない。しかしながら，今後，発展途上国，特にアジア地域が急速な経済発展に伴う二酸化炭素の排出量を急増させると予想されることから考えても，途上国も「持続的な開発を損なわない範囲で，地球温暖化の抑制に向けて努力しなければならない。

授業の一般目標 本授業は「気候変動」に関する国際環境保全の政策を中心に論ずることにしたい。そのねらいは，受講者における「国際公民」の意識と義務を認識させると共に，国際環境保全の重要性をアピールする。

授業の計画(全体) (1) 圧縮型工業化と爆発的都市化 (2) 加速するモータリゼーション (3) 広がる環境汚染と健康被害 (4) 問われる生物多様性の保全と利用 (5) 地球規模の環境問題と地球サミット (6) 気候変動枠組条約 (7) 国際環境保全の課題と展望

成績評価方法(総合) 成績評価は基本的に，出席(40%)，報告(60%)で行う。ただし，合格基準点に達していない受講者に対して，救済措置として課題レポートを要求する場合がある。

教科書・参考書 教科書：アジア環境白書，日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」，東洋経済新報社，2000 年；アジア環境白書，日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」，東洋経済新報社，2000 年

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部 A302 室 電話：083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	時間論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	正宗聡				

授業の概要 「時間」をテーマとした、哲学、現代思想の書物を熟読し、その内容について議論する授業である。

授業の一般目標 「時間」について、自分なりの問いを持つこと。

授業の計画(全体) 予習を課した部分を、講師が試訳をする。それを聴きながら、受講生は自らの訳を添削する。その後、講師とともに、内容について議論する。

成績評価方法(総合) 毎回の出席、授業態度、定期試験。それぞれ、30%ずつである。

教科書・参考書 教科書： 毎回コピーを配布する。

メッセージ 難しいテキストを使用しますが、「時間」の周辺領域も含め、とにかく勉強に励んでください。

開設科目	時間論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	正宗聡				

授業の概要 前期の時間論研究Aに続いて、さらに考察を深める。なお、Aを受講していなくてもBを受講することは可。 / 検索キーワード 「時間」

授業の一般目標 「時間」についての、最近注目を浴びている諸問題を考える。

授業の計画(全体) 毎回、前に配布した文献を読んてくることを前提にして、講師が試訳。(受講生は添削をしてください。)そのあと、講師とともに当該文献が厚かった問題について討論する。

成績評価方法(総合) 授業態度、出席、レポート、それぞれ約30パーセントずつです。

教科書・参考書 教科書：コピー配布。

メッセージ 予習のときには、文献と格闘してください。

開設科目	憲法研究C	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	梶原健佑				

授業の概要 表現の自由論のうち、表現内容規制（名誉毀損、プライバシー侵害、性表現）に関するわが国の判例・裁判例を検討する。必要に応じてアメリカ法との比較を行う。

授業の一般目標 判例・裁判例を批判的に分析する能力を修得する。専門的な論文や評釈を読み込む力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：判例理論とその問題点を理解する。思考・判断の観点：（学説の批判をふまえて）論点の所在を発見し、批判的に分析・検討できる。態度の観点：議論に積極的に参加する。そのためには予習が必要となるであろう。技能・表現の観点：報告担当時には、自ら調べたこと・考えたことを、他者に分かりやすくプレゼンテーションできる。

授業の計画（全体） 毎回報告者を決め、設定されたテーマ（例；名誉毀損の真実性証明、公正な論評の法理、配信サービスの抗弁、名誉毀損の事前差止め、前科報道とプライバシー、わいせつと芸術）に対応する判例について報告してもらう。

成績評価方法（総合） 平常点による。試験やレポートは行わない。

教科書・参考書 参考書：メディア判例百選、堀部政男・長谷部恭男（編）、有斐閣、2005年

メッセージ 多くの民事・刑事判例を扱います。興味関心・意欲のある方を歓迎します。

開設科目	憲法研究D	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	梶原健佑				

授業の概要 近年、比較的精緻な議論を展開するようになってきた最高裁の憲法判例を丹念に読み込み、その理論を分析する。

授業の一般目標 判例を批判的に分析する能力を修得する。専門的な論文や評釈を読み込む力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：判例理論とその問題点を理解する。 思考・判断の観点：（学説の批判をふまえて）論点の所在を発見し、批判的に分析・検討できる。 態度の観点：議論に積極的に参加する。そのためには予習が必要となるであろう。 技能・表現の観点：報告担当時には、自ら調べたこと・考えたことを、他者に分かりやすくプレゼンテーションできる。

授業の計画（全体） 毎回ひとつの判決を選び、担当者を決めて報告してもらおう。取り上げる判例は開講時に指定するが、現段階で想定している判例として以下挙げておく。 ・在外邦人の投票機会に関する最大判平成 17 年 9 月 14 日 ・民事裁判における取材源秘匿に関する最決平成 18 年 10 月 3 日 ・君が代ピアノ伴奏拒否事件についての最判平成 19 年 2 月 27 日 ・広島市暴走族追放条例についての最判平成 19 年 9 月 18 日 ・参議院の議員定数不均衡にかかる最大判平成 16 年 1 月 14 日と最大判平成 18 年 10 月 4 日

成績評価方法（総合） 平常点による。試験やレポートは行わない。

メッセージ 憲法判例の最新動向に興味関心のある方を歓迎します。

開設科目	企業法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉川 信將				

授業の概要 会社法を中心とした企業法につき受講生が選択したテーマに基づく個別研究・報告を中心とし、時事問題についても適宜取り上げ検討を加える。(初学者が受講者に含まれる場合には、開講時に受講者と協議して進め方を再検討することがあります。)

授業の一般目標 現代の企業活動と会社法の関連につき理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：新会社法はなぜ制定されたのか、その背景を踏まえて、新会社法の意義や問題点を具体例に当てはめて理解を深める。 関心・意欲の観点：自ら関心の高いテーマを選んで選択し、研究する姿勢を身に付ける。

授業の計画(全体) 受講者が事前に決定したテーマに基づく研究報告を行い、参加者全員で討論を行うスタイルを前提とし、時事問題については適宜解説を加えていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 現代の企業法の特徴
- 第 2 回 項目 個別報告・討論
- 第 3 回 項目 個別報告・討論
- 第 4 回 項目 個別報告・討論
- 第 5 回 項目 個別報告・討論
- 第 6 回 項目 個別報告・討論
- 第 7 回 項目 個別報告・討論
- 第 8 回 項目 個別報告・討論
- 第 9 回 項目 個別報告・討論
- 第 10 回 項目 個別報告・討論
- 第 11 回 項目 個別報告・討論
- 第 12 回 項目 個別報告・討論
- 第 13 回 項目 個別報告・討論
- 第 14 回 項目 個別報告・討論
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 個別報告の事前調査・研究状況、出席状況・受講態度を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない予定である。 / 参考書：株式会社法, 江頭, 弘文堂, 2006 年 ; 会社法, 神田, 弘文堂, 2007 年 ; 会社法判例百選, 江頭憲治郎・岩原紳作・神作裕之・藤田友敬 [編], 有斐閣, 2006 年 ; その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

メッセージ 自分から関心を持ってテーマを選択し、検討しようという気概のある院生の参加を期待します。

連絡先・オフィスアワー 経済学部C棟224研究室

開設科目	企業法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	吉川 信將				

授業の概要 会社法、独占禁止法、金融商品取引法等の企業関連法規につき受講生が選択したテーマに基づく個別研究・報告を中心とし、時事問題についても適宜取り上げ検討を加える。(初学者が受講者に含まれる場合には、開講時に受講者と協議して進め方を再検討することがあります。)

授業の一般目標 現代の企業活動と独占禁止法、経済法、金融商品取引法の関連につき理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：近年、会社法、独占禁止法及び金融商品取引法といった企業関連法規はなぜ制定・改正・改組されたのか、その背景を踏まえて、企業関連法規の現代的意義やあり方を具体例に当てはめて理解を深める。 関心・意欲の観点：自ら関心の高いテーマを進んで選択し、研究する姿勢を身に付ける。

授業の計画(全体) 受講者が事前に決定したテーマに基づく研究報告を行い、参加者全員で討論を行うスタイルを前提とし、時事問題については適宜解説を加えていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 現代の企業法の特徴
- 第 2 回 項目 個別報告・討論
- 第 3 回 項目 個別報告・討論
- 第 4 回 項目 個別報告・討論
- 第 5 回 項目 個別報告・討論
- 第 6 回 項目 個別報告・討論
- 第 7 回 項目 個別報告・討論
- 第 8 回 項目 個別報告・討論
- 第 9 回 項目 個別報告・討論
- 第 10 回 項目 個別報告・討論
- 第 11 回 項目 個別報告・討論
- 第 12 回 項目 個別報告・討論
- 第 13 回 項目 個別報告・討論
- 第 14 回 項目 個別報告・討論
- 第 15 回 項目 予備日

成績評価方法(総合) 個別報告の事前調査・研究状況、出席状況・受講態度を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない予定である。 / 参考書：株式会社法, 江頭, 弘文堂, 2006年; 会社法, 神田, 弘文堂, 2007年; 会社法判例百選, 江頭憲治郎・岩原紳作・神作裕之・藤田友敬[編], 有斐閣, 2006年; その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

メッセージ 自分から関心を持ってテーマを選択し、検討しようという気概のある院生の参加を期待します。

連絡先・オフィスアワー 経済学部C棟224研究室

開設科目	外国文献研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	今津 武				

授業の概要 グローバル化の進む現代において、先進国と開発途上国の経済・社会格差はむしろ拡大しつつある。こうした現状を解消すべく 2000 年の国連総会では「ミレニアム宣言」が採択され、「ミレニアム開発目標」(Millennium Development Goals; MDGs) が設定されている。本授業ではこの MDGs の進捗を毎年モニタリングし国連経済社会理事会が発行する”Millennium Development Goals Report 2007”を中心に関連資料を読み、世界に今も存在する経済社会格差の現実を認識し、21 世紀の世界のあるべき姿を考察する。 / 検索キーワード MDGs, International Cooperation, Economic disparity

授業の一般目標 1 . 世界の経済・社会格差の実体を理解する。 2 . 国際協力、途上国支援に関する現在の潮流を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 世界における経済・社会格差を、MDGs が設定する各目標に照らして理解し、そうした状況の改善動向を知る。 2 . 開発援助、国際協力に関する基礎的な英文を読解できる。 思考・判断の観点： 1 . 世界の貧困の現状を理解し、そうした事態の改善にむけた国際社会のなすべきこと について考える。 2 . 自らの考えを発表し、他の学生と議論する。

授業の計画(全体) 1 . MDGs の各目標について学生各自が翻訳し、その内容を発表する。 2 . 発表をもとに学生が互いの意見を議論する。(議論は可能な限り英語で行うのが望ましい。)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 本授業の目標、実施方法、スケジュールの説明。MDGs 設定の背景とその内容説明。 授業外指示 報告書担当部分の翻訳
- 第 2 回 項目 Goal1:Eradicate extreme poverty & hunger 内容 学生による翻訳文の発表。教員による内容の説明。
- 第 3 回 項目 Discussion on Goal 1 内容 目標 1 についての意見交換。
- 第 4 回 項目 Goal2: Achieve universal primary education 内容 学生による翻訳文の発表。教員による内容の説明。
- 第 5 回 項目 Discussion on Goal 2 内容 目標 2 についての意見交換。
- 第 6 回 項目 Goal3: Promote gender equality & empower women 内容 学生による翻訳文の発表。教員による内容の説明。
- 第 7 回 項目 Discussion on Goal 3 内容 目標 3 についての意見交換。
- 第 8 回 項目 Goal4 :Reduce child mortality 内容 学生による翻訳文の発表。教員による内容の説明。
- 第 9 回 項目 Discussion on Goal 4 内容 目標 4 についての意見交換。
- 第 10 回 項目 Goal5: Improve maternal health 内容 学生による翻訳文の発表。教員による内容の説明。
- 第 11 回 項目 Discussion on Goal 5 内容 目標 5 についての意見交換。
- 第 12 回 項目 Goal6: Combat HIV/AIDS, malaria & other diseases 内容 学生による翻訳文の発表。教員による内容の説明。
- 第 13 回 項目 Discussion on Goal 6 内容 目標 6 についての意見交換。
- 第 14 回 項目 Goal7: Ensure environmental sustainability 内容 学生による翻訳文の発表。教員による内容の説明。
- 第 15 回 項目 Discussion on Goal 7 内容 目標 7 についての意見交換。

成績評価方法(総合) 担当部分の翻訳・発表の評価が中心になるが、発表をもとに行う議論への参加度、出席率を加味して評価する。但し出席が所定の回数に達しない場合は、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： The Millennium Development Goals Report 2007, , United Nations, 2007 年；教科書は教員が配布する。 / 参考書： 授業の進捗に合わせ必要な資料は逐次照会する。

メッセージ 現在の世界の経済・社会格差の実態を理解するとともに、そのようなテーマを英語で読無だけでなく、英語で議論することを楽しんでみませんか。

連絡先・オフィスアワー E-mail : imazu@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済学部C棟 218号

開設科目	外国文献研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山下訓				

授業の概要 Text: The Politics of China, Second Edition The Eras of Mao and Deng, 1997, Cambridge University Press We will read each chapter everytime, as much as possible. As we read on, the teacher will explain important words and sentences.

授業の一般目標 Our objectives is to know the overview of the Chinese modern history in English. We'll read this text and watch the relating videos.

授業の計画(全体) We will read and think about the following sections as much as possible. 1 The Establishment and Consolidation of The New Regime, 1949-57 2 The Great Leap Forward and The Split in The Yan'an, 1958-65 3 The Chinese State in Crisis, 1966-9 4 The Succession to Mao and The End of Maoism, 1969-82 5 The Road to Tiananmen: Chinese Politics in The 1980s 6 Reaction, Resurgence, and Succession: Chinese Politics Since Tiananmen

教科書・参考書 教科書 : You don't need to buy it. I will give you copies of a part of the book.

メッセージ An interesting book for those interested in it.

連絡先・オフィスアワー E-mail: yamasita@yamaguchi-u.ac.jp Phone: 5518 or 5585 (Mon-Thus)

開設科目	外国文献研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	渡辺幹雄				

授業の概要 政治理論に関する英語の文献を読みます。

授業の一般目標 英語でしっかり文章が読めるようにします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：政治理論の基本的概念を身に付けましょう。 思考・判断の観点：論理的に考えましょう。 関心・意欲の観点：よく読みましょう。 態度の観点：前を向いて授業を受けましょう。 技能・表現の観点：きちんと発音しましょう。 その他の観点：がんばりましょう。

成績評価方法 (総合) 授業への参加態度、報告の内容等を総合的に判断します。

開設科目	外国文献研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 この授業では、外国文献研究 A で行った全体の意味を取る作業から一変して、そこにある文献の英語を丹念に読ます。そして、その文献を通してさらに自分の興味の分野の視野を広げることです。

そのためには、自分の視点からしっかり文献が読めなければなりません。翻訳とは違います。社会科学の英語を自分のコミュニケーションの手段として使えるようになることです。自分の視点との同一と相違を読み取ることが重要です。専門書を読むには、専門知識が半分、言語知識が半分必要です。そして、それを正確に把握し理解しなければなりません。それをさらにわかりやすく他人に伝えることも必要になります。この授業ではそうしたことを以下の目標をもって実践して行きます。 / 検索キーワード 基本的な文法、語彙、発音、ハンドアウト

授業の一般目標 ・単語や決まり文句を学ぶ。 ・文構造を把握する。 ・段落のあり方を学ぶ。キーワードやキーセンテンスを拾い直す。 ・英語の発音やリズムを正しくする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文法の基礎を再学習する。 思考・判断の観点：筆者が何をどう考えて、どう表現しようとしたのかを、文構造、語彙、段落構造から把握する。 関心・意欲の観点：文献中にある英語を自分の磁場に持ってきて、使おうとする意欲。 態度の観点：面倒くさがらずに、調べなければならないことをきちんと調べる（例えば、単語の使われ方、使用環境（例）や文法環境まで調べる。 技能・表現の観点：正しく発音し、読み聞かせるだけの技能を持つ。

授業の計画（全体） ・1人、1章ずつ担当して、文構造、段落構造、そこに用いられている語彙に関して、自作のハンドアウトをもとに発表する。 ・わからない箇所をわからないものとして、きちんと認識する。 ・最終的には、「何」を「どう」考え、「どう」表現するか、を学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introduction
- 第 2 回 項目 1.Globalization-Part 1
- 第 3 回 項目 1.Globalization-Part 2
- 第 4 回 項目 2.Risk-Part 1
- 第 5 回 項目 2.Risk-Part 2
- 第 6 回 項目 Intermissionary session 1
- 第 7 回 項目 3.Tradition-Part 1
- 第 8 回 項目 3.Tradition-Part 2
- 第 9 回 項目 4.Family-Part 1
- 第 10 回 項目 4.Family-Part 2
- 第 11 回 項目 Intermissionary Session 2
- 第 12 回 項目 5.Democracy-Part 1
- 第 13 回 項目 5.Democracy-Part 2
- 第 14 回 項目 Intermissionary Session 3
- 第 15 回 項目 Wrap-up Session

成績評価方法（総合） ・提示されるハンドアウトから自学自習がどのように出来ているか。 ・ハンドアウトをもとに、どう自分が読んだかをどのように発表できたか。 ・発音やリズムの上達度。

教科書・参考書 教科書：Runaway World, Anthony Giddens, Routledge, 2000年；テキストを買うのがいちばん学習がしやすいが、Websiteからも入手できる。

メッセージ 辞書を丹念にひく。音読をする。

連絡先・オフィスアワー mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	濱島清史				

授業の概要 修士論文作成を本格的に行なう。具体的には、章立てを完成し、各章の内容を整理する段階までいきたい。 / 検索キーワード 成果主義、日本の雇用慣行、文献サーベイ、事例研究

授業の一般目標 章立てを完成し、2章分くらいの原稿を仕上げてもらいたい。成果主義に至る歴史と成果主義の事例の文献資料からのサーベイ当たりとなろう。勿論、このあと大幅な修正が入ることを前提としてである。

授業の計画(全体) 授業としては、現行の執筆と報告が中心となる。月に一回は修士論文の原稿並びのその修正の報告を行なう。夏休みには企業調査、訪問インタビューやアンケート調査に取り掛かってもらいたい。

成績評価方法(総合) 演習での原稿提出と発表による。

教科書・参考書 教科書：受講生と話し合いの上決める。 / 参考書：適宜指摘する。

メッセージ 就職活動と重なって大変だろうが、就活の終わった夜(就活のまとめと準備はしっかりと)、活動のない日、土日祝日は修士論文作成に心血を注いでもらいたい。

連絡先・オフィスアワー hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尹春志				

授業の概要 修士論文の作成の具体的準備を行なう。

授業の一般目標 修士論文の構想とそのための素材を集めることを目的とする

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自のテーマに沿ったサーベイの完成 思考・判断の観点： 修士論文の構想

授業の計画（全体） 毎回各自の報告をもとに討論する。

成績評価方法（総合） 報告と討論の内容で判断する

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法総論はどのような内容を持つかを理解して貰う。刑法の意義、性質、機能、犯罪の成立要件論、違法論、共犯論、刑法論の順に考察していく。

授業の一般目標 刑法総論の内容を考察する事により、刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 刑法総論の内容を考察する事により、刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。 思考・判断の観点： 法的思考という観点から、刑法総論の具体的事案を考察し、刑法理論が具体的事案の解決にどのようにてきようされているかを見ていく。

授業の計画（全体） 刑法の意義、性質、機能犯罪の成立要件、構成要件論、違法論、責任論、共犯論、刑事論の順に考察していく。具体的な内容については最初の授業時間に講義事項を配布する。

成績評価方法（総合） 日頃の出席・授業態度、レポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書： 刑法総論, 安里全勝, 成文堂, 2008 年

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤田 正				

授業の概要 税法をテーマとした「修士論文作成」を各自のプロジェクトととらえ、そのマネジメントとゴールの達成を確実にすることを最大の目標と考える。各自はプロセスにおいて計画－実行－チェックのセルフマネジメントサイクルを積極的かつ効果的に回し続ける一方、チームとしてのゼミメンバーの協働作業により、論文の質的向上を図っていく。ゼミでは、これらのプロジェクトのプロセスにおいて受講生に役立つ演習を実施し、必要な支援、アドバイスを行う。/ 検索キーワード プロジェクト、セルフマネジメント、セルフモチベーション、セルフチェック、チームによる協働

授業の一般目標 修士論文のテーマを見つけ、論文の構想を練り、資料を集め、執筆スケジュールを考え、文章化し、期日までに仕上げる一連のプロセスを受講生が自らきっちりと着実に管理し、チェックしていくというセルフマネジメントによってスムーズに目標達成すること。

授業の計画（全体） 受講者のタイムマネジメントに沿った計画と演習内容を双方向で議論し、立案し、受講生がそれを着実に実施し、実施状況、成果を自己評価していき、スムーズな目標達成につなげる。その過程でゼミメンバーによるチームとしての協働作業をできるだけ加えていく。これらのプロセスを通じて、修士に求められる税法の知識や能力の十分な獲得を目指す。

メッセージ 自ら進んで、どんどん計画し、実践し、プロジェクトのプロセスを進めていくことを期待します。そのための相談や議論については支援を惜しみません。

連絡先・オフィスアワー（TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 「現代行政法研究」及び「応用行政法研究」での問題意識をさらに発展させ、行政法に関するより具体的な問題点を検討していく。 具体的問題の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。 したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、演習への主体的な参加が要求される。

授業の一般目標 行政法における重要な学説や判例の理解を深めることを一般目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 具体的問題の検討を通して、行政法における重要な制度の理解を深める。 思考・判断の観点： 問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。

授業の計画（全体） 具体的には、行政関係の事例や判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる事例や判例は、参加者と相談の上、決定する。

成績評価方法（総合） 出席、報告等による。

教科書・参考書 教科書： 開講時に指示する。 / 参考書： 開講時に指示する。

メッセージ 日々のニュースに敏感であって欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	濱島清史				

授業の概要 修士論文の完成 / 検索キーワード 成果主義、日本的雇用慣行、文献サーベイ、事例研究

授業の一般目標 修士論文に見合う内容を目標とする。即ち、サーベイができているか、オリジナリティはあるか (ここでは独自の企業調査などを含む)、論文の流れができているか : 課題は何か どのような方法を用いたか 結果として何が見出されたのか 残された課題は何か、その過程で3節程の論理展開、をみる。論点・ポイントは出来るだけ絞った方がよい。

授業の計画 (全体) 後期に入る前に、企業調査、訪問インタビューやアンケート調査を終えて、本格的な執筆に取り掛かっているべきである。11月半ばまでに、準備論文の提出を求める。これは絶対に間に合わせなければならない。修正に1ヶ月は掛かるであろうからである。

成績評価方法 (総合) 修士論文による。

教科書・参考書 教科書 : 適宜、指示する。 / 参考書 : 適宜、指示する。

メッセージ 就職活動を無事終えていることを祈るが、修士論文の評価とは基本的に関係ないので、この時期は修士論文完成を第一に進めること。

連絡先・オフィスアワー hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尹春志				

授業の概要 修士論文を作成するための指導を行なう。

授業の一般目標 修士論文の完成。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各自のテーマに沿ったサーベイの整理。 思考・判断の観点： 論文としてのオリジナリティ。 技能・表現の観点： アカデミックな論文の形式を学び活用する。

授業の計画（全体） 毎回各自の修士論文の内容を報告し討論する。

成績評価方法（総合） 報告と討論の内容で判断する。

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法総論はどのような内容を持つかを理解して貰う。刑法の意義、性質、機能、犯罪の成立要件論、違法論、共犯論、刑法論の順に考察していく。

授業の一般目標 刑法総論の内容を考察する事により、刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 刑法総論の内容を考察する事により、刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。 思考・判断の観点： 法的思考という観点から、刑法総論の具体的事案を考察し、刑法理論が具体的事案の解決にどのようにてきようされているかを見ていく。

授業の計画（全体） 刑法の意義、性質、機能犯罪の成立要件、構成要件論、違法論、責任論、共犯論、刑事論の順に考察していく。具体的な内容については最初の授業時間に講義事項を配布する。

成績評価方法（総合） 日頃の出席・授業態度、レポートによって評価する。

教科書・参考書 教科書： 刑法総論, 安里全勝, 成文堂, 2008 年

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	澤田 正				

授業の概要 税法をテーマとした「修士論文作成」を各自のプロジェクトととらえ、そのマネジメントとゴールの達成を確実にすることを最大の目標と考える。各自はプロセスにおいて計画－実行－チェックのセルフマネジメントサイクルを積極的かつ効果的に回し続ける一方、チームとしてのゼミメンバーの協働作業により、論文の質的向上を図っていく。ゼミでは、これらのプロジェクトのプロセスにおいて受講生に役立つ演習を実施し、必要な支援、アドバイスを行う。/ 検索キーワード プロジェクト、セルフマネジメント、セルフモチベーション、セルフチェック、チームによる協働

授業の一般目標 修士論文のテーマを見つけ、論文の構想を練り、資料を集め、執筆スケジュールを考え、文章化し、期日までに仕上げる一連のプロセスを受講生が自らきっちりと着実に管理し、チェックしていくというセルフマネジメントによってスムーズに目標達成すること。

授業の計画（全体） 受講者のタイムマネジメントに沿った計画と演習内容を双方向で議論し、立案し、受講生がそれを着実に実施し、実施状況、成果を自己評価していき、スムーズな目標達成につなげる。その過程でゼミメンバーによるチームとしての協働作業をできるだけ加えていく。これらのプロセスを通じて、修士に求められる税法の知識や能力の十分な獲得を目指す。

メッセージ 自ら進んで、どんどん計画し、実践し、プロジェクトのプロセスを進めていくことを期待します。そのための相談や議論については支援を惜しみません。

連絡先・オフィスアワー（TEL）083-933-5580（メール）sawadat@yamaguchi-u.ac.jp（オフィスアワー）

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 「現代行政法研究」及び「応用行政法研究」での問題意識をさらに発展させ、行政法に関するより具体的な問題点を検討していく。 具体的問題の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。 したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、演習への主体的な参加が要求される。

授業の一般目標 行政法における重要な学説や判例の理解を深めることを一般目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 具体的問題の検討を通して、行政法における重要な制度の理解を深める。 思考・判断の観点： 問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。

授業の計画（全体） 具体的には、行政関係の事例や判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる事例や判例は、参加者と相談の上、決定する。

成績評価方法（総合） 出席、報告等による。

教科書・参考書 教科書： 開講時に指示する。 / 参考書： 開講時に指示する。

メッセージ 日々のニュースに敏感であって欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

開設科目	計量経済学研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 計量経済分析は様々な分析目的に対応する、数多くの手法を備えている。この講義では、受講生の専攻分野でよく用いられる手法をとりあげ、その理論と応用方法をテキストを用いて輪読する。さらに類似のケースを実際に受講生に分析してもらい、実践的な計量経済分析を行えることを目指すものである。また、政策シミュレーション等の活用として簡単な計量経済モデルや産業連関モデルについても受講生の希望にそって、講義で取り扱う。

授業の一般目標 計量経済分析の手法および理論を習得し、実際のデータを活用して、分析を行うことができる。さらに、ここで学んだ内容を用いて、受講生の研究テーマにそくした分析に応用できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な計量経済学の理論を理解している。研究テーマに適する分析ツールを理解し、独自の研究に発展できるまでの知識を得ること。 **思考・判断の観点：** 計量経済学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。 **態度の観点：** テキストおよび論文の輪読と実習で構成された講義のため、自らが学ぶことが極めて重要であることから、積極的に粘り強く課題に取り組むことができる。 **技能・表現の観点：** レポートを効果的に作成できる。短時間に PC の扱い方をマスターしながら、統計データを正しく処理することができる。内容、形式ともに十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画（全体） 次の 1～5 の中から受講生の希望により選択する。分析 A 1. 質的変量モデル（アンケート調査分析を含む）2. パネル・データの分析 3. 単位根・共和分分析 分析 B 4. 計量経済モデル（コンパクトのモデルを想定している）5. 産業連関モデル

成績評価方法（総合） 講義中の輪読によるレジメと報告（表現力、参加の態度も含む：各評価比率 40 % ずつ）と定期的に講義中に作成していただくレポート（評価比率 20 %）によって評価する。

教科書・参考書 教科書：入手が必要なテキストは受講生に別途紹介する。 / 参考書：入手が望ましい参考文献は受講生に別途紹介する。

メッセージ レポート作成に必要なマイクロソフト word や Excel の知識を持っていること（同様な機能を持つアプリケーションも可）を前提とします。また、計量分析のためのアプリケーションは講義中に指示し、指導します。様々な課題に粘り強く取り組んでいただきたいと思います。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

企業経営専攻

開設科目	現代企業組織の事例研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 企業管理組織の理論研究を踏まえて、この授業では、個別ケースと取上げる。 / 検索キーワード 経営組織の問題を扱うので、政治経済の議論は、期待できない。

授業の一般目標 個別の事例研究で、理論を越えた微妙なタイミング、交渉、駆け引き当が見えて来る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経営組織の基本的知識を前提にし、最近の経営組織問題について、理解を深める。 思考・判断の観点： 最近の戦略と組織問題について、思考し判断できる。

授業の計画（全体） 授業は、最近の欧米の経営管理の個別動向を紹介し、議論を求める。

米国企業の管理組織の動向

日本企業の管理組織の動向

中国への日本企業の進出

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 組織の再編 内容 事業部制の問題
- 第 2 回 項目 組織の再編 内容 事業部制の問題
- 第 3 回 項目 組織の再編 内容 職能別組織の問題
- 第 4 回 項目 組織の再編 内容 職能別組織の問題
- 第 5 回 項目 分社制組織
- 第 6 回 項目 分社制組織
- 第 7 回 項目 ナレッジ管理
- 第 8 回 項目 ナレッジ管理
- 第 9 回 項目 ネットワーク組織
- 第 10 回 項目 ネットワーク組織
- 第 11 回 項目 ネットワーク組織
- 第 12 回 項目 組織文化と開発
- 第 13 回 項目 組織文化と開発
- 第 14 回 項目 組織開発の方法
- 第 15 回 項目 組織開発の方法

メッセージ 授業は出席し、自分の考えるところを、述べる。

開設科目	会計政策論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松浦良行				

授業の概要 近年の会計基準の変更により、我が国の会計制度も国際会計基準にますます接近してきました。国際会計基準への接近は、情報利用者にとってどのような意義があるのかについては、海外（とりわけヨーロッパ）で多くの実証研究が行われています。本講義では、これらの研究蓄積を読んでいきます。 / 検索キーワード 国際会計基準、時価評価、回帰分析

授業の一般目標 国際的な会計基準統一の実態的な意義を理解します。また、代表的な実証分析のスタイルを理解します。

授業の計画（全体） おおよそ2週間に一本の割合で代表的な研究を読破し、また可能であればそれに関連した我が国企業に関する分析を行っていきます。

成績評価方法（総合） 講義に出席し、議論・分析にきちんと参加されているかで評価します。テスト等はいりません。

教科書・参考書 教科書：受講生と相談の上、追って指示します。

メッセージ 検討していく論文は、日本語と英語のものが半々くらいになる予定ですが、皆さんの興味や理解度に応じて進度とあわせ柔軟に調整していくつもりです。ただし、それなりに英語文献を読める能力が必要です。

連絡先・オフィスアワー matu@yamaguchi-u.ac.jp(私は原則的に週一回しか吉田キャンパスに来ません。履修を希望される方は、事前に左記のアドレスまでメールして下さい。)

開設科目	資本市場の財務情報の役割研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松浦良行				

授業の概要 近年、無形固定資産の株価説明力が注目されてきています。この講義では、下の教科書欄に示す本を中心として、研究開発活動と株価の関係を理解していきます。 / 検索キーワード 財務報告、R & D、資本市場

授業の一般目標 受講生の皆さんが、研究開発の経済的価値計算の基本フォーマットを把握し、その管理方法を含めた管理技法に関心を持てるようになれば、と思っています。

授業の計画（全体） 技術評価の方法の基本フォーマットを把握し、表計算ソフトを利用して実際に研究開発の財務的管理の概要を理解していきます。

成績評価方法（総合） 講義に出席し、議論・分析にきちんと参加されているかで評価します。テスト等はありません。

教科書・参考書 教科書：技術経営と価値評価, P. ボイヤー, 日本経済新聞社, 2004 年

メッセージ 私は通常常盤キャンパスにあり、原則週に一回しか吉田キャンパスには来ません。履修を希望される方は、事前に下記のアドレスまでご連絡下さい。

連絡先・オフィスアワー matu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西欧文化の研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鴨川 啓信				

授業の概要 批評家 Edward Said の代表的著書 ”Orientalism” を原書 (英語) で読んでいく。Said の言う「オリエンタリズム」の概念を理解することで、西洋文化の (隠された) 一面を見ていく。また、オリエンタリズムの対象となる東洋に住む者としての自分についても、批評的意識を向けるようになることを目指す。

授業の一般目標 西洋文化への理解を深める。英語読解力の向上。

授業の計画 (全体) ”Orientalism” 全体を読むことは不可能であるので、Said の思想がよく表れていると思われる章 / 箇所を取り上げて精読していく。受講者には、十分な予習をしていくことが要求される。

成績評価方法 (総合) 毎回の授業参加度 + 期末課題

教科書・参考書 教科書： Orientalism, Edward Said, Vintage Books, 1979 年； 授業で取り上げる箇所は、プリントで配布する。

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207

開設科目	戦略的コスト・マネジメントと管理会計研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤田 智丈				

授業の概要 企業競争がますます激化する中で、勝ち組・負け組といった差がはっきりと現れ始めています。このような差が生まれる原因の一つに、戦略の策定と遂行の問題があります。戦略とは、組織の長期的目標に到達するためのビジョンであり行動計画でなければなりません。近年になり管理会計でも戦略性を伴うことが重要な課題となっています。そこで、この授業では戦略的管理会計、具体的には原価企画や ABC/ABM、ライフサイクルコストイングといった課題について検討します。

授業の一般目標 戦略を理解し、戦略的マネジメントを理解する。また、有効なコストマネジメントを検討する考え方を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 伝統的な管理会計が持つ問題点を理解し、それを克服するための多様な手法を理解する。 思考・判断の観点： 抽象的な理論を覚えるのではなく、実際のビジネスでどのように用いられているのか、どのような意義があるのかということを考え、使える知識に発展させる。 関心・意欲の観点： 使える知識を身につけることで、ビジネスに対する興味を深める。

授業の計画（全体） まず、戦略とは何か、戦略的経営とは何かということについて学習します。そのうえで、戦略を実現するための様々な管理会計手法について詳しく学習します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 受講生の希望も考慮し、授業内容を決定
- 第 2 回 項目 戦略論基礎 1 内容 管理会計に関連する戦略論
- 第 3 回 項目 戦略論基礎 2 内容 管理会計に関連する戦略論
- 第 4 回 項目 戦略論基礎 3 内容 管理会計に関連する戦略論
- 第 5 回 項目 管理会計 1 内容 現代の管理会計が抱える問題点
- 第 6 回 項目 管理会計 2 内容 現代の管理会計が抱える問題点
- 第 7 回 項目 戦略的管理会計 1 内容 戦略的コストマネジメントとは何か
- 第 8 回 項目 戦略的管理会計 2 内容 ABC/ABM
- 第 9 回 項目 戦略的管理会計 3 内容 ABC/ABM
- 第 10 回 項目 戦略的管理会計 4 内容 ABC/ABM
- 第 11 回 項目 戦略的管理会計 5 内容 原価企画
- 第 12 回 項目 戦略的管理会計 6 内容 原価企画
- 第 13 回 項目 戦略的管理会計 7 内容 原価企画
- 第 14 回 項目 戦略的管理会計 8 内容 LCC
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験は行いません。授業での発表や議論、及び最終レポートで評価します。

教科書・参考書 教科書： 初回の授業の際に決定します。 / 参考書： 管理会計の基本的な考え方については、授業開始前に各自で学習しておくことが望ましい。浅田孝幸 他『管理会計・入門 新版（有斐閣アルマ）』有斐閣、2005 年

開設科目	意思決定と財務会計研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山下訓				

授業の概要 会計の機能を、企業資本の統一的・全体的管理に求め、企業経営の判断にとって必要な会計上の視点・手法を総合的に学んでいく。

授業の一般目標 この授業では、会計情報に基づく意志決定に着目し、第一に財務諸表の作成、第二に米国会計理論の基礎を学ぶ。先ず財務諸表の作成を通じて、会計の情報機能を確認する。第二に会計理論の洋書を読む。したがって、基礎力が求められるので、そのつもりで参加すること。

授業の計画(全体) 第一に、日商1級程度の基礎知識があるかを確認しつつ、第二に、Accounting Theory, Conceptual Issues in a Political and Economic Environment, sixth edition を読んでいく。

成績評価方法(総合) 日商1級程度の基礎がしっかり出来ているかの確認と、輪読の発表等の授業への参加で評価する。

教科書・参考書 教科書: Accounting Theory, Conceptual Issues in a Political and Economic Environment, sixth edition, Harry I. Wolk, James L. Dodd, Michael G. Tearney, Thomson, 2004年 / 参考書: 日商1級のテキスト, , , 2007年

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 参加者と相談して決める

開設科目	財務諸表の基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	篠原淳				

授業の概要 企業会計に関連する諸テーマの基礎を検討分析する / 検索キーワード 会計基準 国際会計
税法 商法

授業の一般目標 各テーマに関する報告やディスカッション能力の向上

授業の計画(全体) 参加者の関心あるテーマをもとに各自の論理的思考や報告能力の向上を図る

成績評価方法(総合) 各テーマに関し、積極的な取り組みと議論の質等を総合的に判断する

教科書・参考書 教科書：基本会計学, 吉田寛, 税務経理協会, 2002 年 ; 国際財務会計論, 氏原茂樹, 税務
経理協会, 2005 年 ; 適宜指示する / 参考書：適宜指示する

メッセージ 取り扱うあらゆるテーマについて積極的に参加すること

連絡先・オフィスアワー 訪問される場合はメールでの事前連絡を。 a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	財務諸表の応用研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	篠原淳				

授業の概要 企業会計に関連する諸テーマを検討分析する / 検索キーワード 会計基準 国際会計 税法 商法

授業の一般目標 各テーマに関する報告やディスカッション能力の向上

授業の計画(全体) 参加者の関心あるテーマをもとに各自の論理的思考や報告能力の向上を図る

成績評価方法(総合) 各テーマに関し、積極的な取り組みと議論の質等を総合的に判断する

教科書・参考書 教科書: 基本会計学, 吉田寛, 税務経理協会, 2002年; 国際財務会計論, 氏原茂樹, 税務経理協会, 2005年; 適宜指示する / 参考書: 適宜指示する

メッセージ 取り扱うあらゆるテーマについて積極的に参加すること

連絡先・オフィスアワー 訪問される場合はメールでの事前連絡を。 a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	税務会計研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	米谷 健司				

授業の概要 税務会計の研究領域には主に 3 つのトピックが含まれます。1 つは法人税法をベースにした課税所得の計算方法、いま 1 つは税引後利益（あるいは税引後キャッシュ・フロー）の最大化を目的としたタックス・プランニング（税務計画）、最後は会計利益と課税所得の差額の調整を目的とした税効果会計です。従来の税務会計研究は課税所得の計算規定に関する規範的あるいは解釈論的研究がほとんどでしたが、最近ではタックス・プランニングや税効果会計に関する実証的研究の重要性が高まっています。本講義では後者の実証的研究に焦点をあて、これまでに蓄積されてきた先行研究を読み進めるとともに、今後の税務会計研究の展望について議論します。 / 検索キーワード 企業価値、企業評価、実証研究、税金、財務分析

授業の一般目標 実証的研究を学習するうえで必要となる知識の習得をめざす。

授業の計画（全体） 代表的な論文を読み進めることで、サンプルの抽出方法、分析手法、分析結果の解釈など実証的会計研究のプロセスを理解する。2 週間で 1 本の論文を読み進める予定であるが、学習状況に応じて判断する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 本講義の内容など
- 第 2 回 項目 税務会計のフレームワーク (1) 内容 税務会計の範囲
- 第 3 回 項目 税務会計のフレームワーク (2) 内容 協議の税務会計（課税所得論）の限界点
- 第 4 回 項目 税務会計のフレームワーク (3) 内容 経営者の意思決定と税金の関係
- 第 5 回 項目 企業価値と税務戦略 (1) 内容 資本コストと税金の関係
- 第 6 回 項目 企業価値と税務戦略 (2) 内容 税金が資本構成に与える影響
- 第 7 回 項目 企業価値と税務戦略 (3) 内容 オールソンモデル
- 第 8 回 項目 財務報告コストと税務報告コスト (1) 内容 財務報告コストの種類
- 第 9 回 項目 財務報告コストと税務報告コスト (2) 内容 LIFO 研究
- 第 10 回 項目 財務報告コストと税務報告コスト (3) 内容 Book-Tax Difference 研究
- 第 11 回 項目 タックス・プランニング (1) 内容 税金と設備投資
- 第 12 回 項目 タックス・プランニング (2) 内容 Implicit Tax, Clienteles, Arbitrage
- 第 13 回 項目 タックス・プランニング (3) 内容 法的組織形態の選択
- 第 14 回 項目 財務諸表分析と限界税率 (1) 内容 限界税率の計算
- 第 15 回 項目 財務諸表分析と限界税率 (2) 内容 限界税率の産業分析

成績評価方法（総合） 試験は行いません。授業の取り組み姿勢や貢献度、レポートなどから総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書はとくに指定しません。 / 参考書：講義中に適宜、紹介します。

メッセージ 企業評価や実証研究に興味のある方は是非受講してください。

開設科目	企業評価分析研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	米谷 健司				

授業の概要 企業価値を分析する上で必要となる概念や多角的な視点そして技法を習得し、実際にそれらを利用して企業評価を行う。また企業評価に関する代表的な実証論文を読むことで、企業評価研究が抱える課題を理解し、会計的視点からどのような貢献ができるのかを議論する。 / 検索キーワード 企業価値、企業評価、実証研究、財務分析

授業の一般目標 本講義では、アカウンティング、ファイナンス、マネジメントの3領域を融合した次のようなトピックを理解・議論する。(1) 経営戦略とファンダメンタル分析、(2) キャッシュフローと会計政策、(3) 会計情報と市場の効率性、(4) 資本構成と企業価値、(5) 配当政策と企業価値など。

授業の計画(全体) 企業評価に関する基本的なフレームワークを理解するために、ケースを利用して学習する。ケースについては、こちらで用意する。その後、特定の企業価値を実際に評価し、評価モデルの設定や将来予測の仮定に関する妥当性を議論する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 本講義の内容の説明
- 第 2 回 項目 企業評価分析のフレームワーク 内容 アカウンティング、マネジメント、ファイナンスの3つの視点について
- 第 3 回 項目 財務諸表分析 (1) 内容 財務比率の計算(クロスセクショナル分析への対応)
- 第 4 回 項目 財務諸表分析 (2) 内容 財務比率の計算(時系列分析への対応)
- 第 5 回 項目 財務諸表分析 (3) 内容 実際のケース分析
- 第 6 回 項目 企業価値 (1) 内容 オールソンモデル、DCF モデル、マルチプル
- 第 7 回 項目 企業価値 (2) 内容 企業価値と資本コスト
- 第 8 回 項目 企業価値 (3) 内容 企業価値と資本構成
- 第 9 回 項目 将来予測 (1) 内容 オールソンモデルによる評価方法と問題点
- 第 10 回 項目 将来予測 (2) 内容 DCF モデルによる評価方法と問題点
- 第 11 回 項目 将来予測 (3) 内容 マルチプルによる評価方法と問題点
- 第 12 回 項目 会計政策研究 (1) 内容 アクルーアルズ研究と企業価値
- 第 13 回 項目 会計政策研究 (2) 内容 保守主義と企業価値
- 第 14 回 項目 資本市場分析 (1) 内容 市場の効率性
- 第 15 回 項目 資本市場分析 (2) 内容 会計情報と資本市場

成績評価方法(総合) 試験は行いません。授業の取り組み姿勢や貢献度、レポートなどから総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：教科書はとくに指定しない。 / 参考書：講義中に適宜、紹介する。

メッセージ 実証研究および企業分析に興味のある方は是非受講してください。

開設科目	経営数理システム研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	渋谷綾子				

授業の概要 "システム"の分析においては、システムを入出力モデルや目的追求モデルとしてとらえることが多い。このようなとらえ方はシステムズアプローチとして主に工学的分野で成果をみたが、本講義では、社会科学分野でのシステムズアプローチの適用の可能性を探る。または、受講者の希望によってはビジネスゲームをもちいたシミュレーション学習を体験する。

授業の一般目標 システムズアプローチを学ぶ場合は、組織に関わる諸現象を数理的にとらえることを目標とする。たとえば、組織を入出力システムとみなしたときの、組織内システムの作用と外部(環境)との関係に注目し、組織と環境に対する洞察を深める。または、ビジネスゲームを選択した場合は、ビジネスゲームを通して経営意思決定の経験をつむ。そのことによって、経営全般を一つのシステムとして把握したうえで意思決定ができる経営者としての素養を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 価格、売上高、費用、在庫、仕入、広告効果、投資効果等を、それらの相互関係を把握した上で分析できる知識と理解力。組織内で発生する様々な現象が全体にどのように影響を与えるかを分析できる知識。組織外の要因を、組織が制御可能なものと制御できないものに分け、特に制御できない要因(環境)への組織の対応に関する知識。 **思考・判断の観点:** ある現象が影響を及ぼす範囲と程度について正しい思考と判断ができることを目指す。 **関心・意欲の観点:** 文章で提示された問題から数的モデルを作り出すことに関心があれば、難しい授業ではありません。しかし、例えば、利益を最大にするには、現在提示されている数値をどのように組み合わせるべきか、というようなことを考えるのがつらいと感じるのであれば、受講しても得るものではありません。ビジネスゲームに参加する場合はラウンドごとの締切に合わせて意思決定をしなくてはなりません。ルールに従いながら、強い戦力を発揮するにはどういったことが必要になってくるかに関心を持っていて、意欲的に取り組む姿勢を望みます。 **態度の観点:** 履修手続きをしたあとで、自分にはこの授業は必要ないと感じた場合、単位をあきらめて受講を放棄するか、最後まで頑張るかは、本人の意志を尊重しますが、緊張感のない態度で出席を続けることは、他の受講者へ悪影響を与えるので、避けてください。礼儀正しい態度での受講を切に願います。 **技能・表現の観点:** 積極的に思考し、発表し、議論する態度と、そのための学習、思考、準備を確実に実行できることが望ましい。 **その他の観点:** ビジネスゲームに参加する場合はチームでの意思決定を行うこととなります。チーム内のメンバーとどのように人間関係を築いていくか、ということもゲームの戦力に影響を与えます。

授業の計画(全体) 組織へのシステムズアプローチの試みとして 2004 年以降に提案されたモデル(Organizational cybernetics theory 等)の発展方向を探る。また、余裕があれば、ウィーナーのサイバネティクス、サイモンの組織論、アシュビーの研究などを概観する。ビジネスゲームに参加する場合は、ゲーム体験そのものから各自が何かを学び取ることとなります。

成績評価方法(総合) 授業時間内の活発さは、授業時間外の各自が自主的に行う学習が反映される。議論への参加、貢献度に重点を置き、総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: Applied General Systems Research on Organizations, S.Takahashi 他, Springer, 2004

連絡先・オフィスアワー shibuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室はC棟2階です。在室中(電気がついているとき)はいつでも入室可です。相談があるときは、あらかじめメールを送信しておくで確実です。

開設科目	経営数理計画研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	渋谷綾子				

授業の概要 制約条件と目的関数とで記述される数理計画問題のうち、特に線形計画問題について学習する。線形計画問題の解法そのものは比較的理解しやすいものなので、この講義では問題を定式化するまでの過程に重点を置く。/ 検索キーワード 数理計画法 (mathematical programming) 線形計画法 (linear programming) シナリオ法、分割解法、確率ネットワーク

授業の一般目標 アセット・アロケーションや為替相場での取引計画の解法のひとつに、問題をネットワーク図で表現したのち、数理計画問題として定式化する手法がある。1987年にMulveyらによって提案された確率ネットワークを用いると、問題を線形計画問題として解くことができる。本講義では、資産配分問題を例として、将来の資産運用環境を表現した複数のシナリオを確率ネットワークで表現し、さらに、線形計画問題として定式化する方法について研究する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：線形計画法に関する知識、シナリオ法の理解、分割解法の理解 英文で書かれたこの分野の論文を読みこなせること 思考・判断の観点：資産運用での資産の増減、取引による資産の移動、キャッシュフローの整合性などをネットワーク図にどのように反映させられるか、ロジックをグラフィカルに表現し、さらに定式化する柔軟な発想力を求める。 関心・意欲の観点：問題を数式で表現する意欲は絶対に必要です。数値、数値同士の関わりなどについて日ごろから興味を抱いていることが重要です。定式化する問題文は日本語の長文であることが多いので、日本語の読解力も必要です。一つの要因について、なるべく長時間考える習慣を身につけるとよいと思います。 態度の観点：考える糸口は、ある程度、自分の力で発見することになります(他人が - 教員であっても - 説明して理解させることは不可能です)。その糸口が、当初、みつからなかったとしても、短気をおこさず、礼儀正しい態度を保ってください。授業回数が進行してから「自分にこの授業は必要ない」と感じた場合は、受講を放棄してください。

授業の計画(全体) 数理計画法の概略、とくに線形計画法について理解したのち、資産配分問題に適用される例としてシナリオ法と確率ネットワークを用いたモデルを研究する。英文文献を読んで、英文によるモデルの説明に慣れる。また、実際に小規模なシナリオを作成して問題を解く経験をつむ。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数理計画問題について
- 第 2 回 項目 線形計画問題について
- 第 3 回 項目 資産配分問題と数理計画法
- 第 4 回 項目 シナリオについて
- 第 5 回 項目 シナリオについて
- 第 6 回 項目 確率ネットワークについて
- 第 7 回 項目 定式化について
- 第 8 回 項目 定式化について
- 第 9 回 項目 解法について
- 第 10 回 項目 線形計画問題の応用
- 第 11 回 項目 線形計画問題の応用
- 第 12 回 項目 英文文献研究 (STOCHASTIC NETWORK OPTIMIZATION MODELS FOR INVESTMENT PLANNING 等)
- 第 13 回 項目 英文文献研究など
- 第 14 回 項目 英文文献研究など
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 内容の量に比して授業回数が少ないので、授業時間外にも学習時間を確保すること。授業時に、準備状況や理解度が表れるので、それらを総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: STOCHASTIC NETWORK OPTIMIZATION MODELS FOR INVESTMENT PLANNING, (John M. MULVEY and Hercules VLADIMIROU, 1989) 他、必要な文献は授業時間内に入手方法を含めて指示します。

連絡先・オフィスアワー shibuya@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは授業中にお知らせします。

開設科目	現代マーケティングの基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 マーケティングとは、企業の対市場活動であり、市場競争の活動である。マーケティングの基本は、企業が、消費者のニーズを把握して、それに適合する商品・サービスを提供することである。具体的に言うと、ヒット商品は、どのようにしたら生まれるのか、どのようにしたら人の心を打つ広告を製作できるのか、価格をどのように設定するのか、販売ルートをどのように構築していくのかということが、マーケティングのメインとなるフォーカスである。最近では、マーケティングは、製造業者の分野に限定されるのではなくて、社会の様々な分野で、そのスキルの応用は有益であるということが言われた。そのため、地域産業、ひいては地方、地域間競争に打ち勝つために、どのようにマーケティング手法が応用可能であるかについても、考察していく予定である。

授業の一般目標 マーケティングの基本的文献を講読し、マーケティングの研究方法与諸問題に対する知識を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：マーケティングの基本的知識について、理解を深める。 思考・判断の観点：マーケティングの諸問題に関して、思考・判断ができる。 関心・意欲の観点：日常のマーケティング現象について、関心を持つ。 態度の観点：積極的に議論に参加する。 技能・表現の観点：説得力のあるプレゼンテーションができる。

授業の計画（全体） マーケティングに関する基本的文献を輪読し、報告とディスカッションを行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 需要創造
- 第 3 回 項目 製品政策（ 1 ）
- 第 4 回 項目 製品政策（ 2 ）
- 第 5 回 項目 価格政策
- 第 6 回 項目 販売促進政策
- 第 7 回 項目 流通チャネル政策
- 第 8 回 項目 消費者行動（ 1 ）
- 第 9 回 項目 消費者行動（ 2 ）
- 第 10 回 項目 市場調査（ 1 ）
- 第 11 回 項目 市場調査（ 2 ）
- 第 12 回 項目 市場調査（ 3 ）
- 第 13 回 項目 双方向マーケティング
- 第 14 回 項目 地域のマーケティング
- 第 15 回 項目 地方自治体のマーケティング

教科書・参考書 教科書：『現代マーケティング論』, 高嶋克義・桑原秀史, 有斐閣アルマ, 2008 年

開設科目	流通システムの応用研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤田健				

授業の概要 わが国の流通は、情報技術の革新，ロジスティクスやサプライチェーン概念の普及，製販戦略提携などによって、調達・生産・物流・販売の各所でめざましい変貌を遂げている。それに対応して、流通研究の研究対象や方法も大きく変化している。そこで本講義では、現代の流通・営業戦略を学び、流通研究における現代的な研究課題を理解する。 / 検索キーワード 流通，マーケティング・チャネル，情報技術，営業，物流，部門間関係，関係管理

授業の一般目標 1. 現代の流通・営業戦略の知識を習得する。 2. 流通研究における研究課題を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 現代の流通現象や流通理論を理解できるようになる。 **関心・意欲の観点：** 現代の流通現象や流通研究に関心を示し、積極的にディスカッションに参加する。

授業の計画（全体） 教科書の輪読をおこない、受講者とのディスカッションを通じて最新の流通研究を理解する。 1. イントロダクション 2. 流通・営業戦略の新視点 3. マーケティング・チャネルのマネジメント 4. 消費者起点の戦略的情報フロー管理 5. 顧客インターフェイス 6. 営業 7. ロジスティクス 8. 販売部門と生産部門のリンケージ 9. サプライヤー・マネジメント 10. 顧客関係マネジメント 11. 総括

成績評価方法（総合） 報告内容（40％），ディスカッションへの参加（30％），レポート（30％）で評価する。

教科書・参考書 教科書：流通・営業戦略，小林哲・南知恵子，有斐閣アルマ，2004年 / 参考書：インターネット・マーケティングの原理と戦略，ワード・ハンソン著；長谷川真実訳，日本経済新聞社，2001年；流通ビジネスモデル，宮下淳・箸本健二編著，中央経済社，2002年；サプライチェーン経営革命，福島美明，日本経済新聞社，1998年；営業が変わる，石井淳蔵，岩波書店，2004年

開設科目	人的資源管理の現代的課題研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	内田恭彦				

授業の概要 この講義は人的資源管理論の中でも特に戦略的人的資源管理論に絞り、その類型、背景理論をまず概観する。その上で日本的経営における人的資源管理上の今日の問題点を明らかにし、人材ポートフォリオ・マネジメント論を検討する。/ 検索キーワード 戦略的人的資源管理、人材ポートフォリオ論、資源ベースの企業観 (RBV)、ダイナミック・ケイパビリティ

授業の一般目標 1. 戦略的資源管理論の諸理論の理解 2. 理論と現実を基に自ら考えていく力の涵養
* 特に2番目を重視します。知識を持つだけでなく、知識を活用し一層知見を深めていけるようになることを第一の目標と考えています。

授業の計画(全体) 本講義は大きく3つから構成されている。第一にアメリカのSHRM論を概観し、戦略と人的資源管理の関係を検討する(戦略的資源管理の理論)。次いでこれらの理論の基礎となる理論を検討する(戦略的資源管理論の基礎理論)。その上で人材ポートフォリオ論の検討を行う(人材ポートフォリオ論の構築に向けて)。この際日本企業に適した人材ポートフォリオ論を検討し、構築していくことを意識的に行っていく。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インストラクション 内容 本講義の概要などについての説明
- 第 2 回 項目 戦略的人的資源管理の理論 1 内容 戦略的人的資源管理論の全体像と類型
- 第 3 回 項目 戦略的人的資源管理の理論 2 内容 ユニバーサリスティック・アプローチについて
- 第 4 回 項目 戦略的人的資源管理の理論 3 内容 コンティンジェンシー・アプローチについて
- 第 5 回 項目 戦略的人的資源管理の理論 4 内容 コンフィギュレーション・アプローチについて
- 第 6 回 項目 戦略的人的資源管理の基礎理論 1 内容 取引費用理論
- 第 7 回 項目 戦略的人的資源管理の基礎理論 2 内容 人的資本論
- 第 8 回 項目 戦略的人的資源管理の基礎理論 3 内容 RBV
- 第 9 回 項目 戦略的人的資源管理の基礎理論 3 内容 企業文化論
- 第 10 回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて 1 内容 人的資源アーキテクチャー論について
- 第 11 回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて 2 内容 雇用ポートフォリオ論について
- 第 12 回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて 3 内容 日本企業の競争優位の構築法 - RBVからの検討
- 第 13 回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて 4 内容 日本企業の競争優位の構築法 - ダイナミック・ケイパビリティ論からの検討
- 第 14 回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて 5 内容 中核人材と周辺人材
- 第 15 回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて 6 内容 日本型経営における人材ポートフォリオのあり方

成績評価方法(総合) 知識・理解、思考・判断、態度・価値観を総合的に判断し評価する。知識・理解においてはレポート発表を、思考・判断においては授業内での発言内容を、態度・価値観では出席状況や授業への参加態度を主に考慮する。

教科書・参考書 教科書：授業の中で論文を指定します。/ 参考書：戦略的資源管理論の実相 - アメリカSHRM論研究ノート, 岩出博, 泉文堂

メッセージ この講義は議論を重視します。皆さんの活発な意見のやり取りから新たな知見を生み出したと考えています。

開設科目	人的資源管理の変化と展望研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	内田 恭彦				

授業の概要 人的資源管理の様々なトピックに関し、最新の研究成果を輪読し、ディスカッションを行い、知識を深める

授業の一般目標 日本企業における人的資源管理と企業の競争優位の関係における様々な考え方を理解し、今後の人的資源管理の在り方を考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本企業の人的資源管理の諸特徴とその機能についての理解を深める 思考・判断の観点：今後の日本企業とその根幹をなす人的資源管理のあるべき方向についての自分なりの考えを持つ

授業の計画（全体） この授業では以下の教科書を読み、議論していく。『企業変革の人材マネジメント』若林直樹・松山一紀編著（2008年3月刊行予定）ナカニシヤ出版

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インストラクション 内容 発表とディスカッション 授業外指示 シラバスを読むこと
- 第 2 回 項目 企業変革の人材マネジメント 1 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 1 章を読むこと
- 第 3 回 項目 企業変革の人材マネジメント 2 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 2 章を読むこと
- 第 4 回 項目 企業変革の人材マネジメント 3 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 3 章を読むこと
- 第 5 回 項目 企業変革の人材マネジメント 5 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 5 章を読むこと
- 第 6 回 項目 企業変革の人材マネジメント 6 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 6 章を読むこと
- 第 7 回 項目 企業変革の人材マネジメント 7 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 7 章を読むこと
- 第 8 回 項目 企業変革の人材マネジメント 8 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 8 章を読むこと
- 第 9 回 項目 企業変革の人材マネジメント 9 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 9 章を読むこと
- 第 10 回 項目 企業変革の人材マネジメント 10 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 10 章を読むこと
- 第 11 回 項目 企業変革の人材マネジメント 11 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 11 章を読むこと
- 第 12 回 項目 企業変革の人材マネジメント 12 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 12 章を読むこと
- 第 13 回 項目 企業変革の人材マネジメント 13 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 13 章を読むこと
- 第 14 回 項目 企業変革の人材マネジメント 14 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 14 章を読むこと
- 第 15 回 項目 企業変革の人材マネジメント 15 章 内容 発表とディスカッション 授業外指示 企業変革の人材マネジメント 15 章を読むこと

成績評価方法（総合） 知識習得度合い、授業における報告および議論への参加度合い、事前準備状況などを総合的に判断する

教科書・参考書 教科書：企業変革の人材マネジメント, 若林直樹ほか, ナカニシヤ出版, 2008 年

メッセージ 深い洞察と積極的な議論への参加が求められます

連絡先・オフィスアワー y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	投資論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 ポートフォリオ理論やオプション理論など現代投資理論の専門知識の習得

授業の一般目標 投資に関する専門知識の習得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：現代投資理論の専門的知識の習得 思考・判断の観点：現実への適用 技能・表現の観点：最終的にレポート等で文章表現の修得

授業の計画（全体） 分担報告

成績評価方法（総合） 発表と出席

教科書・参考書 教科書：未定

開設科目	国際経営の基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 多国籍企業や国際経営に関する諸理論を学習する。

授業の一般目標 多国籍企業論および国際経営論の重要理論の習得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：既存理論の正しい理解と評価 思考・判断の観点：既存理論の問題点や限界の発見

授業の計画（全体） 1．多国籍企業論 2．国際経営論

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 バーノンのプロダクトサイクル 理論 (1)
- 第 2 回 項目 バーノンのプロダクトサイクル 理論 (2)
- 第 3 回 項目 ハイマーの対外 事業活動論 (1)
- 第 4 回 項目 ハイマーの対外 事業活動論 (2)
- 第 5 回 項目 フェアーフェザーの国際経営論 (1)
- 第 6 回 項目 フェアーフェザーの国際経営論 (1)
- 第 7 回 項目 ダニングの折衷 理論 (1)
- 第 8 回 項目 ダニングの折衷 理論 (2)
- 第 9 回 項目 多国籍企業の組織論 (1) : スト ッ プフォード&ウ ェルズ
- 第 10 回 項目 多国籍企業の組織論 (2) : パー ト レット&ゴシャ ール
- 第 11 回 項目 多国籍企業の組織論 (3) : ゴシャ ール
- 第 12 回 項目 グローバル戦略 論 : マイケルポ ーター
- 第 13 回 項目 異文化経営論 (1) : ホフステ ッ ド
- 第 14 回 項目 異文化経営論 (2) : ホフステ ッ ド
- 第 15 回 項目 グローバル企業 の戦略提携

成績評価方法（総合） 出席および授業中の発表で評価します

教科書・参考書 参考書：資料を適時配布します

連絡先・オフィスアワー arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経営史の基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川澄明				

授業の概要 企業の経営史の国際比較を行う。日本企業、欧米企業、アジア企業の経営とその歴史を取り上げ、経営戦略と歴史、組織とその歴史、技術発展史などを中心に、教材を選定し、それを中心に、討論を重視した授業を行う。受講者の修士論文の作成を前提にして、受講者の経営学的・経営史的基礎知識を深める。 / 検索キーワード 意欲的に議論に参加し、専門知識を学び取ろう。

授業の一般目標 修士論文の作成に繋がるような授業を行うので、受講者と相談の上で、テーマを選択する。目標は、修士論文の基礎となる経営学・経営史の基礎知識の修得に置く。受講者には、概要で示した授業内容に関心を持ち、意欲的に経営学や経営史の知識を習得することが求められる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経営学・経営史の専門知識の修得 **思考・判断の観点：** 学術的論文を作成するための思考力や研究上のアイデア想像力を養うこと。 **関心・意欲の観点：** 授業で取り上げる論題に対して、常に、積極的に関心を持ち、知識を深めようとする意欲が不可欠である。 **態度の観点：** 授業は、パッシブな態度ではなく、ポジティブ、アクティブな姿勢が求められる。 **技能・表現の観点：** 報告を行うことで、プレゼンテーション力を身に付けると同時に、論文の構想力を養うこと。 **その他の観点：** 授業に自分の研究と結びつけた強い関心と、学ぼうとする意欲が求められる。

授業の計画（全体） 受講者と相談の上、修士論文作成に役立つようなテーマで、授業を行う。

成績評価方法（総合） 受講態度を総合的に判断して評価する。

メッセージ 特定のテーマで修士論文を書くという明確な目標をもって授業に参加すること。

連絡先・オフィスアワー アポを取れば、随時。

開設科目	商品の経済環境研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 商品を調査、分析するための基礎となるような、修士のレベルで理解しておくべき基本的な知識を学ぶ。

授業の一般目標 商品を調査、分析するための基礎となるような、基本的な知識を理解する。

授業の計画(全体) (1) 基礎的文献を読み、報告してもらおう。(2) ジャーナル論文を読み、報告してもらおう。何を読むかは、相談して決める。

成績評価方法(総合) 宿題、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度、小テスト、定期試験等を総合して評価する。出席は、欠格条件である。

メッセージ 修士課程の学生が身に付けておくことが望ましい、基礎的な力を習得できるように授業を構成できるよう努力したいと思います。受講生の皆さんも、がんばってついてきて下さい。

開設科目	企業経営とリスク分析研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	石田成則				

授業の概要 リスク・マネジメントの概念と手法を整理したうえで、製造物責任や公害補償責任を取り上げ、それに対応する保険システムとリスク・マネジメント手法の具体的活用について学習する。

授業の一般目標 テキストの輪読により、リスク・マネジメント手法の現実と、ファイナンシャル・リスク・マネジメントの中核をなす保険システムの理解を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： リスクマネジメント手法の理解 思考・判断の観点： 不確実な将来を見越して複線的な物の見方を涵養する。 態度の観点： 討論に積極的に参加する。

授業の計画（全体） 教科書の輪読

成績評価方法（総合） レポートと日常点

教科書・参考書 教科書： 保険とリスクマネジメント，米山高生，東洋経済新報社，2005 年

開設科目	地域経済論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	齋藤英智				

授業の概要 地域経済に関連する諸理論を学び、地域経済の現代的課題について検討する。 / 検索キーワード 地域経済、都市経済

授業の一般目標 地域経済に関する理論を理解するとともに、地域経済学的アプローチによって地域の現代的課題を考察することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：地域経済に関する理論についての報告・議論ができる。 思考・判断の観点：理論と現状に基づく問題の所在を述べるができる。 関心・意欲の観点：疑問点を自ら積極的に調査・分析し、報告・議論ができる。

授業の計画（全体） 地域経済に関する経済理論の文献を輪読する。毎回分担報告者がレジュメを作成し報告する。また、報告者は予めその日の報告に関連するトピックを準備し、自ら考察を加えたものを準備する。その日の報告に基づき、全員が参加して地域政策について討論する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業計画の説明・報告担当者の決定
- 第 2 回 項目 地域の課題（1） 内容 報告・討論：都市
- 第 3 回 項目 地域の課題（2） 内容 報告・討論：農山漁村
- 第 4 回 項目 都市集積（1） 内容 報告・討論：都市の集中
- 第 5 回 項目 都市集積（2） 内容 報告・討論：規模の経済
- 第 6 回 項目 都市の成長と衰退（1） 内容 報告・討論：成長モデル
- 第 7 回 項目 都市の成長と衰退（2） 内容 報告・討論：衰退モデル
- 第 8 回 項目 立地（1） 内容 報告・討論：中心地理論
- 第 9 回 項目 立地（2） 内容 報告・討論：産業立地
- 第 10 回 項目 産業連関（1） 内容 報告・討論：産業連関分析
- 第 11 回 項目 産業連関（2） 内容 報告・討論：地域間産業連関
- 第 12 回 項目 空間的相互作用 内容 報告・討論：重力モデル
- 第 13 回 項目 地域政策（1） 内容 報告・討論：地域経済活性化への諸方策
- 第 14 回 項目 地域政策（2） 内容 報告・討論：地域の持続可能性
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 総合討論：地域の持続的発展

成績評価方法（総合） 出席：30 %、報告：50 %、参加姿勢・発言内容など：20 %により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は最初の授業内で指定する。

メッセージ 報告者が提供するトピックでは、資料の収集やデータ分析などを各自で行ってもらおう。ワード、エクセルなどのソフトを利用し、分析できることが望まれる。

連絡先・オフィスアワー hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 各学生の個人テーマに沿って、基本文献を輪読し、要点をレポートしてもらう。 / 検索キーワード 問題の解決方法は、多様であること。

授業の一般目標 論文を書くための、専門的基礎知識の習得。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門理論が正しく理解されているか。 思考・判断の観点：問題の複眼的見方ができているか。 関心・意欲の観点：専門書をよく読んで、理解し、報告しているか。

授業の計画（全体） 論文を書くに必要な専門知識の習得度合い。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 2 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 3 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 4 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 5 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 6 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 7 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 8 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 9 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 10 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 11 回 項目 の各人の論文テーマ基礎学習・レポート
- 第 12 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 13 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 14 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート
- 第 15 回 項目 各人の論文テーマの基礎学習・レポート

成績評価方法（総合） 研究報告とその内容、演習出席率。

メッセージ プロトタイプな思考から、脱却。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	内田 恭彦				

授業の概要 戦略的資源管理論もしくは知的資本経営論に関係し、ゼミ所属メンバー各人の関心のある論文（英語もしくは日本語）を読み、ディスカッションすることで、当該論文内容を理解・検討すると同時に、基本的な研究の進め方、論文の書き方、調査方法についての知識を深める。

授業の一般目標 経営学の研究者として、研究の行い方に関する基礎的知識を身につけること、および修士論文テーマを発見し、アプローチ法を定め、修士論文を仕上げるまでの具体的スケジュールを作り上げることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 戦略的資源管理論もしくは知的資本経営論に関する基礎知識の習得、 2 . 基本的な研究の進め方などに関する知識の習得 関心・意欲の観点： 積極的にゼミでの議論に参加し、経営現象や論文に関する深い洞察を得ることに寄与することができるようになること

授業の計画（全体） 事前学習として毎週 1 - 2 本の指定論文を読んだ上で、発表担当者が論文内容を発表し、全員で議論し 1) 内容理解、 2) 研究方法理解、 3) 参考点、 4) 問題点を明確にする。その後学問上および研究方法論上必要と思われる知識について共有する。

成績評価方法（総合） ゼミにおける発表内容、学習内容、研究（修士論文）への取り組みなどを総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書： 毎回論文が指定されます。

連絡先・オフィスアワー y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 各自の修士論文テーマに関連した既存研究のサーベイと発表

授業の一般目標 既存研究の整理とその問題点の発見

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 既存研究の理解 思考・判断の観点： 既存研究の問題点の発見
 関心・意欲の観点： 自ら設定した修士論文テーマへの研究意欲・関心の高揚

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 専門知識の取得

授業の一般目標 ファイナンスに関する知識の習得

教科書・参考書 教科書：未定

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本寛				

授業の概要 ネットワーク問題に関する基礎的な代数理論について考察する。 / 検索キーワード ネットワーク、行列

授業の一般目標 ネットワーク問題の定式化と基本的事項の習得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基礎的用語の理解 関心・意欲の観点：現実の問題との関連に興味を持つ。 技能・表現の観点：問題の定式化ができる。

授業の計画（全体） この演習 I A ではネットワークの基礎的事項を中心に取り上げる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の進め方、注意事項、参考書
- 第 2 回 項目 概要紹介 内容 ネットワーク問題
- 第 3 回 項目 数学的準備（ 1 ） 内容 グラフ
- 第 4 回 項目 数学的準備（ 2 ） 内容 ネットワーク
- 第 5 回 項目 数学的準備（ 3 ） 内容 行列
- 第 6 回 項目 数学的準備（ 4 ） 内容 代数的手法
- 第 7 回 項目 数学的準備（ 5 ）
- 第 8 回 項目 文献講読（ 1 ）
- 第 9 回 項目 文献講読（ 2 ）
- 第 10 回 項目 文献講読（ 3 ）
- 第 11 回 項目 文献講読（ 4 ）
- 第 12 回 項目 文献講読（ 5 ）
- 第 13 回 項目 発表討論
- 第 14 回 項目 発表討論
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 今後の計画

成績評価方法（総合） 出席、報告、レポートによる。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川澄明				

授業の概要 受講者の修士論文の作成を前提にして、受講者の経営学的基礎知識を深める。 / 検索キーワード 意欲的に議論に参加し、専門知識を学び取ろう。

授業の一般目標 修士論文の作成に繋がるような授業を行うので、受講者と相談の上で、テーマを選択する。目標は、修士論文の基礎となる経営学基礎知識の修得に置く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経営学の専門知識の修得 思考・判断の観点：学術的論文を作成するための思考力や研究上のアイデア想像力を養うこと。 関心・意欲の観点：授業で取り上げる論題に対して、常に、積極的に関心を持ち、知識を深めようとする意欲が不可欠である。 態度の観点：授業は、パッシブな態度ではなく、ポジティブ、アクティブな姿勢が求められる。 技能・表現の観点：報告を行うことで、プレゼンテーション力を身に付けると同時に、論文の構想力を養うこと。 その他の観点：授業に自分の研究と結びつけた強い関心と、学ぼうとする意欲が求められる。

授業の計画（全体） 受講者と相談の上、修士論文作成に役立つようなテーマで、授業を行う。

成績評価方法（総合） 受講態度を総合的に判断して評価する。

メッセージ 特定のテーマで修士論文を書くという明確な目標をもって授業に参加すること。

連絡先・オフィスアワー アポを取れば、随時。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	成富敬				

授業の概要 研究テーマに関連する専門的な知識を習得するとともに，文献の紹介や研究内容の発表をおこなう．

授業の一般目標 専門的な知識を習得し，関連文献の収集，研究についてのより深い議論ができる．

授業の計画（全体） 研究の進捗状況による．

成績評価方法（総合） 研究に取り組む姿勢，研究成果等により総合的に判断する．

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	渋谷綾子				

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	篠原淳				

授業の概要 企業会計に関する興味のあるテーマにつき調査・研究を行い修士論文作成に役立つ基礎力をつける / 検索キーワード 企業会計 税法 商法 会計基準

授業の一般目標 必要な文献調査と各文献の熟読による論点の理解

授業の計画(全体) 企業会計に関する興味のあるテーマにつき調査・研究を行い修士論文作成に役立つ基礎力をつける

成績評価方法(総合) 演習時の報告や討論に関する的確性により評価

教科書・参考書 教科書：適宜指示する / 参考書：適宜指示する

メッセージ 積極的取り組みを期待します。

連絡先・オフィスアワー あらかじめコンタクトをメールでとってください。 a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山下訓				

授業の概要 修士論文作成の基礎力を養うために、テキストを輪読したり、修士論文の中間発表を行う。

授業の一般目標 修士論文作成の基礎を固める。

授業の計画(全体) 受講生と相談して決めるが、第一に財務諸表をきちんと作成できること。第二に米国会計理論の基礎として BATIC を学ぶ。したがって、基礎力が求められる上、課題も多いので、そのつもりで参加すること。

成績評価方法(総合) 参加と、会計の基礎が出来ているかの確認によって評価する。

教科書・参考書 参考書：700 点突破 BATIC パーフェクト攻略 第 3 版, , 中央経済社, 2005 年; 上記の最新版。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 本演習では、マーケティングについての基本的枠組み、研究に必要な基本的知識を学習する。

授業の一般目標 マーケティングについての基本的知識・研究方法を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： マーケティングについての理解を深める。 思考・判断の観点： マーケティングに関する問題意識をクリヤーにする。 関心・意欲の観点： マーケティングの諸問題について、主体的に考える。 態度の観点： 課題に対して、積極的に取り組む。 技能・表現の観点： 説得力のあるプレゼンテーションができる。

授業の計画（全体） マーケティングに関する理論的研究を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 マーケティングの概要（ 1 ）
- 第 3 回 項目 マーケティングの概要（ 2 ）
- 第 4 回 項目 マーケティングの概要（ 3 ）
- 第 5 回 項目 マーケティングの概要（ 4 ）
- 第 6 回 項目 マーケティングの概要（ 5 ）
- 第 7 回 項目 製品政策（ 1 ）
- 第 8 回 項目 製品政策（ 2 ）
- 第 9 回 項目 流通チャネル政策（ 1 ）
- 第 10 回 項目 流通チャネル政策（ 2 ）
- 第 11 回 項目 販売促進政策（ 1 ）
- 第 12 回 項目 販売促進政策（ 2 ）
- 第 13 回 項目 価格政策（ 1 ）
- 第 14 回 項目 価格政策（ 2 ）
- 第 15 回 項目 研究報告

教科書・参考書 教科書： 消費行動, 武居 奈緒子, 晃洋書房, 2000 年

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中田範夫				

授業の概要 学生の研究テーマに従い、管理会計論や原価計算論の領域を研究する。

授業の一般目標 2年次の修士論文につながるような講義を行う。

授業の計画(全体) 修士論文のテーマにつながるような授業を行う。

成績評価方法(総合) 授業への出席と報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：学生と相談して決める。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 修士論文作成の指導を行う。

授業の一般目標 修士論文作成のために必要な知識を理解する。

授業の計画(全体) 毎回、修士論文のテーマに関することを報告してもらう。

成績評価方法(総合) 学年末に提出してもらうレポート 50% 授業における報告・レジュメ 50%

教科書・参考書 参考書：大学生のためのレポート・論文術, 小笠原喜康, 講談社, 2002 年

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	石田成則				

授業の概要 リスクマネジメントの手法について事例研究を通じて修得する。

授業の一般目標 効率的リスク管理手法に精通し、企業や金融機関においてリスクマネジャーとなりうる資質を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： リスクマネジメント手法の理解 思考・判断の観点： リスクマネジメント手法の事例に則した活用、リスク解析・シミュレーション手法の習得

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 特定の専門領域について、これまでに研究してきた成果を、論文としてまとめる。

授業の一般目標 修士論文を完成し、専門のプレゼンテーションができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：論文に関係する分野では、高度な理解に達し、議論できることを求める。 思考・判断の観点：正論といわれる、観点を議論ができること、加えて独自の思考展開をできることを求める。 関心・意欲の観点：重要文献を、よく読み、理解できることである。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 専門領域の限定
- 第 2 回 項目 研究報告
- 第 3 回 項目 研究報告
- 第 4 回 項目 研究報告
- 第 5 回 項目 研究報告
- 第 6 回 項目 専門領域の修正
- 第 7 回 項目 研究報告
- 第 8 回 項目 研究報告
- 第 9 回 項目 研究報告
- 第 10 回 項目 専門領域の修正
- 第 11 回 項目 研究報告
- 第 12 回 項目 研究報告
- 第 13 回 項目 研究報告
- 第 14 回 項目 研究報告
- 第 15 回 項目 研究報告

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古川澄明				

授業の概要 受講者の修士論文の作成を前提にして、受講者の経営学的基礎知識を深める。 / 検索キーワード 意欲的に議論に参加し、専門知識を学び取ろう。

授業の一般目標 修士論文の作成に繋がるような授業を行うので、受講者と相談の上で、テーマを選択する。目標は、修士論文の基礎となる経営学基礎知識の修得に置く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経営学の専門知識の修得 思考・判断の観点：学術的論文を作成するための思考力や研究上のアイデア想像力を養うこと。 関心・意欲の観点：授業で取り上げる論題に対して、常に、積極的に関心を持ち、知識を深めようとする意欲が不可欠である。 態度の観点：授業は、パッシブな態度ではなく、ポジティブ、アクティブな姿勢が求められる。 技能・表現の観点：報告を行うことで、プレゼンテーション力を身に付けると同時に、論文の構想力を養うこと。 その他の観点：授業に自分の研究と結びつけた強い関心と、学ぼうとする意欲が求められる。

授業の計画（全体） 受講者と相談の上、修士論文作成に役立つようなテーマで、授業を行う。

成績評価方法（総合） 受講態度を総合的に判断して評価する。

メッセージ 特定のテーマで修士論文を書くという明確な目標をもって授業に参加すること。

連絡先・オフィスアワー アポを取れば、随時。

開設科目	演習 IA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤田健				

授業の概要 流通・サプライチェーンマネジメント (SCM) 関係の基礎的な文献の輪読を行い，流通論を体系的に理解する。

授業の一般目標 1．流通論もしくは SCM 論の基礎的な知識を習得する。 2．流通論もしくは SCM 論を体系的に理解する。

授業の計画（全体） 基本的には文献の輪読を行う。報告者担当者がレジュメを作成して報告し，ディスカッションを行う。

成績評価方法（総合） 報告（40％），ディスカッション（60％）

教科書・参考書 教科書：輪読する文献は受講者の希望をもとに決定する。候補として、次のようなものがある。・高嶋克義『現代商業学』，有斐閣アルマ。・矢作敏行『現代流通』，有斐閣アルマ。・田村正紀『流通原理』，千倉書房。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 専門知識の習得

授業の一般目標 専門知識をいかして修士論文を書くための準備作業

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 各自の修士論文のテーマに関連した既存研究のサーベイと発表

授業の一般目標 既存研究の整理とその問題点の発見

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 既存研究の理解 思考・判断の観点： 既存研究の問題点や限界の発見 関心・意欲の観点： 自らの修士論文テーマに対する研究意欲・関心の高揚

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	内田 泰彦				

授業の概要 ゼミ生各人の研究テーマの進捗状況を報告し、周囲から研究上のアドバイスをもらうことを主とする。この時期は研究テーマに関する既存研究のレビューを行い、リサーチ・クエスションの設定と仮説構築、理論・量的調査・質的調査などの研究方法の絞込みとその実施計画を作り上げていくことを目標とする。

授業の一般目標 修士論文のテーマ、リサーチ・クエスション、仮説、研究方法などを明確にする。また既存研究レビューを進める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究テーマに関するこれまでの研究の状況を整理し、自らが行うべき具体的研究テーマを理解する 思考・判断の観点： 既存研究に対し、一人の研究者としてすこしでも評価できるようになる 関心・意欲の観点： 修士論文作成へ向けて具体的な研究を自ら推進できるようになる

授業の計画（全体） ゼミ参加者は報告担当日を決め、研究の進捗報告を行った上で、全員でディスカッションし、アドバイスを受ける。その内容を後日まとめ、またそのアドバイスを参考に研究を進めていく。報告担当でない人は関心のある研究論文を参加者に紹介し、内容についてディスカッションを行い知見を深める。このことを繰り返していく。

成績評価方法（総合） ゼミへの参加状況、発表内容、研究進捗状況などをもとに総合的に判断する。

連絡先・オフィスアワー y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山下訓				

授業の概要 修士論文作成の基礎力を養うために、テキストを輪読したり、修士論文の中間発表を行う。

授業の一般目標 修士論文作成の基礎を固める。

授業の計画(全体) 受講生と相談して決めるが、第一に財務諸表をきちんと作成できること。第二に米国会計理論の基礎として BATIC を学ぶ。したがって、基礎力が求められる上、課題も多いので、そのつもりで参加すること。

教科書・参考書 参考書：880 点突破 BATIC パーフェクト攻略 第 3 版, , 中央経済社, 2005 年; 上記の最新版。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	篠原淳				

授業の概要 修士論文作成のために必要な情報の提供ならびに論理的思考の訓練の訓練を継続して行いながら修士論文の内容を段階的に構築させる。 / 検索キーワード 企業会計 会計基準 税法 商法 時価

授業の計画(全体) 1. 修士論文のテーマの設定と基礎資料の収集 2. 論文の概略(主張したい点や章立て) 3. 論文の各部分で必要となる文献や理論面についても理解

成績評価方法(総合) 研究指導に基づいて計画的に論文作成に取り組んでいるかについて評価する。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。

メッセージ メール等を有効に活用し、演習時だけでなく逐次連絡をとりながら論文作成を円滑に進めて欲しい。

連絡先・オフィスアワー 訪問は連絡により調整してください。 a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中田範夫				

授業の概要 修士論文のテーマにつながるような授業を行う。

授業の一般目標 修士論文のテーマを確定すること。

授業の計画（全体） 修士論文のテーマの確定を授業の第一目標とする。

成績評価方法（総合） 授業への出席と報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書： 学生と相談して決める。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 本演習では、グローバル・ロジスティクスの生成・発展について、主として考察する。企業の世界戦略の中で、グローバル・ロジスティクスの果たす役割について、検討していく。さらに、個別テーマについて、研究経過を報告してもらい、論文作成を指導する。

授業の一般目標 自分の研究テーマについての問題意識を明確化する。長期トレンドを視野に入れて、現象を分析する能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：戦略物流、グローバル・ロジスティクスについて理解を深める。
 思考・判断の観点：戦略物流、グローバル・ロジスティクスに関する問題意識をクリヤーにする。 関心・意欲の観点：戦略物流、グローバル・ロジスティクスの諸問題について、主体的に考える。 態度の観点：戦略物流、グローバル・ロジスティクスの諸課題に積極的に取り組む。 技能・表現の観点：説得力のあるプレゼンテーションができる。

授業の計画（全体） ・戦略物流、グローバル・ロジスティクスに関する文献を輪読し、報告とディスカッションを行う。 ・個別テーマについて、研究の進捗状況を報告し、論文作成の指導をする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 流通部門形成の基本原則（ 1 ）
- 第 3 回 項目 流通部門形成の基本原則（ 2 ）
- 第 4 回 項目 流通部門形成の基本原則（ 3 ）
- 第 5 回 項目 戦略物流（ 1 ）
- 第 6 回 項目 戦略物流（ 2 ）
- 第 7 回 項目 戦略物流（ 3 ）
- 第 8 回 項目 グローバル・ロジスティクス（ 1 ）
- 第 9 回 項目 グローバル・ロジスティクス（ 2 ）
- 第 10 回 項目 グローバル・ロジスティクス（ 3 ）
- 第 11 回 項目 グローバル・ロジスティクス（ 4 ）
- 第 12 回 項目 グローバル・ロジスティクス（ 5 ）
- 第 13 回 項目 研究報告（ 1 ）
- 第 14 回 項目 研究報告（ 2 ）
- 第 15 回 項目 研究報告（ 3 ）

教科書・参考書 教科書： その都度指示する。 , ,

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 修士論文作成の指導を行う。

授業の一般目標 修士論文作成のために必要な知識を理解する。

授業の計画(全体) 毎回、修士論文のテーマに関することを報告してもらう。

成績評価方法(総合) 学年末に提出してもらうレポート 50% 授業における報告・レジュメ 50%

教科書・参考書 参考書：大学生のためのレポート・論文術, 小笠原喜康, 講談社, 2002 年

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	石田成則				

授業の概要 演習 I A に同じ。

授業の一般目標 演習 I A に同じ。

成績評価方法 (総合) 演習 I A に同じ。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤田健				

授業の概要 流通・サプライチェーンマネジメント (SCM) 関係の個別研究領域の文献を輪読する。

授業の一般目標 1 . 特定研究分野の研究課題を認識する。 2 . 特定研究分野の理論を理解する。

授業の計画 (全体) 基本的には文献の輪読を行う。報告者担当者がレジュメを作成して報告し , ディスカッションを行う。

成績評価方法 (総合) 報告 (40 %) , ディスカッション (60 %)

教科書・参考書 教科書 : 輪読する文献は受講者の希望をもとに決定する。候補として、次のようなものがある。・加藤司『日本的流通システムの動態』, 千倉書房, 2006 年。・アラン・ハリソン, レムコ・ファン フック『ロジスティクス経営と戦略』, ダイヤモンド社, 2005 年。・「Diamond ハーバードビジネス」 「流通研究」 「マーケティング・ジャーナル」誌などの掲載論文。

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本寛				

授業の概要 ネットワーク問題に関する代数的理論の応用について考察する。 / 検索キーワード ネットワーク、アルゴリズム

授業の一般目標 ネットワーク問題の解法やアルゴリズムについて学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 専門用語の理解 思考・判断の観点： 解法について考える。 技能・表現の観点： アルゴリズムの作成

授業の計画（全体） この演習 I B では応用面について考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 取り上げる問題、報告の仕方
- 第 2 回 項目 問題の検討（ 1 ）
- 第 3 回 項目 問題の検討（ 2 ）
- 第 4 回 項目 課題説明
- 第 5 回 項目 報告
- 第 6 回 項目 課題説明
- 第 7 回 項目 報告
- 第 8 回 項目 課題説明
- 第 9 回 項目 報告
- 第 10 回 項目 課題説明
- 第 11 回 項目 報告
- 第 12 回 項目 課題説明
- 第 13 回 項目 報告
- 第 14 回 項目 補足
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 結果の検討

成績評価方法（総合） 出席、報告、レポート

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	渋谷綾子				

開設科目	演習 IB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	成富敬				

授業の概要 研究テーマに関連する専門的な知識を習得するとともに，文献の紹介や研究内容の発表をおこなう．

授業の一般目標 専門的な知識を習得し，関連文献の収集，研究についてのより深い議論ができる．

授業の計画（全体） 研究の進捗状況による．

成績評価方法（総合） 研究に取り組む姿勢，研究成果等により総合的に判断する．

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	長谷川光圀				

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 特定領域の設定
- 第 2 回 項目 研究報告
- 第 3 回 項目 研究報告
- 第 4 回 項目 研究報告
- 第 5 回 項目 研究報告
- 第 6 回 項目 特定領域の再設定
- 第 7 回 項目 研究報告
- 第 8 回 項目 研究報告
- 第 9 回 項目 研究報告
- 第 10 回 項目 研究報告
- 第 11 回 項目 研究報告
- 第 12 回 項目 特定領域の再設定
- 第 13 回 項目 研究報告
- 第 14 回 項目 研究報告
- 第 15 回 項目 研究報告

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 各自の修士論文の発表と指導

授業の一般目標 修士論文の完成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 修士論文テーマに関する知識のさらなる習得 思考・判断の観点：
 既存データや学説、オリジナルデータをどのように評価するかについての深い考察 技能・表現の観点：
 学術論文にふさわしい文章表現

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 修士論文の作成

授業の一般目標 専門知識を生かして修士論文の作成

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	成富敬				

授業の概要 修士論文の作成を目標に、研究内容についての発表とディスカッションをおこなう。

授業の一般目標 修士論文を書くための材料を揃え、修士論文の大枠を構成する。

授業の計画(全体) 研究の進捗状況による。

成績評価方法(総合) 研究に取り組む姿勢、研究成果等により総合的に判断する。

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	篠原淳				

授業の概要 修士論文作成を実践的に学ぶ(トライアンドエラー) / 検索キーワード 企業会計 会計基準
税法 商法 時価

授業の一般目標 文献収集と資料の熟読による理解 論文作成

成績評価方法 (総合) 修士論文作成の基本をもとに骨子を固めて論文作成に入っていく。

教科書・参考書 教科書： 適宜指示する / 参考書： 適宜指示する

メッセージ 毎回自分の研究テーマに関する事項の理解を少しずつでも深める努力をしてください。

連絡先・オフィスアワー メールでコンタクトをとってください。

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山下訓				

授業の概要 修士論文の作成指導を行う。

授業の一般目標 修士論文を完成させる。

授業の計画(全体) 受講者と相談する。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	石田成則				

授業の概要 リスクマネジメントの応用研究

授業の一般目標 企業や金融機関のリスクマネージャーの資格取得を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： リスクマネジメントの応用事例の理解 思考・判断の観点： リスクマネジメントの応用事例の活用

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	長谷川光圀				

授業の一般目標 修士論文の完成：専門知識の習得と活用

授業の計画（全体） 年度研究計画と月次研究計画をたてさせ、それに従って指導する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 詳細研究報告
- 第 2 回 項目 詳細研究報告
- 第 3 回 項目 報告詳細研究
- 第 4 回 項目 詳細研究報告
- 第 5 回 項目 詳細研究報告
- 第 6 回 項目 詳細研究報告
- 第 7 回 項目 詳細研究報告
- 第 8 回 項目 詳細研究報告
- 第 9 回 項目 詳細研究報告
- 第 10 回 項目 詳細研究報告
- 第 11 回 項目 詳細研究報告
- 第 12 回 項目 詳細研究報告
- 第 13 回 項目 詳細研究報告
- 第 14 回 項目 詳細研究報告
- 第 15 回 項目 詳細研究報告

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 各自の修士論文の発表と指導

授業の一般目標 修士論文の完成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 修士論文テーマに関連した知識のさらなる習得 思考・判断の観点： 既存データや学説、オリジナルデータをどのように評価するかについての深い考察 その他の観点： 学術論文にふさわしい文章表現

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 修士論文の作成

授業の一般目標 専門知識を使って修士論文の作成

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	成富敬				

授業の概要 修士論文の作成を目標に、研究内容についての発表とディスカッションをおこなう。

授業の一般目標 修士論文を完成させる。

授業の計画(全体) 研究の進捗状況による。

成績評価方法(総合) 研究に取り組む姿勢, 研究成果等により総合的に判断する。

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	篠原淳				

授業の概要 修士論文の本格的作成 / 検索キーワード 企業会計 会計基準 税法 商法 時価

授業の一般目標 論理的思考による論文の組み立て

授業の計画(全体) 修士論文の作成

成績評価方法(総合) 修士論文の組み立てと論文作成の取り組みにより評価

教科書・参考書 教科書：適宜指示する / 参考書：適宜指示する

メッセージ 進捗状況を把握しながら無理なく論文を組み立てていきましょう。

連絡先・オフィスアワー メールでコンタクトをとってください。

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山下訓				

授業の概要 修士論文作成を指導する。

授業の一般目標 修士論文を完成させる。

授業の計画（全体） 受講者と相談して決める。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	石田成則				

授業の概要 演習 II A に同じ。

授業の一般目標 演習 II A に同じ。

成績評価方法 (総合) 演習 II A に同じ。

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中田範夫				

授業の概要 修士論文の作成を指導する。

授業の一般目標 修士論文のテーマに沿って、関連文献を読んだり、必要な場合には調査を行う。

授業の計画（全体） 学生のテーマに沿って、修士論文作成のための指導を行う。

成績評価方法（総合） 授業での報告で評価する。

開設科目	演習 IIA	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中田範夫				

授業の概要 修士論文の作成を指導する。

授業の一般目標 修士論文の完成を目標とする。

授業の計画(全体) 学生のテーマに沿って、修士論文の作成を指導する。

成績評価方法(総合) 経過報告、および修士論文で評価する。

開設科目	演習 IIB	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	データベース研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本寛				

授業の概要 データベースの数学的基礎理論について考察を行う。特に関係データベースのモデルに関する様々な演算やその基本的性質を調べる。

授業の一般目標 データベースに関する基礎的概念および関係モデルの演算および性質について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： データベースの関係モデルの概要を理解する。 思考・判断の観点： 関係モデルの演算を用いて基本的な処理を実現する。

授業の計画（全体） データベースの概要および関係データベースの議論で必要な集合に関する様々な演算とその性質を紹介した後、関係データベースの数学的モデルについて検討する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 データベースとは
- 第 2 回 項目 データベースの種類
- 第 3 回 項目 データベースの機能
- 第 4 回 項目 関係モデルの概要
- 第 5 回 項目 数学的準備
- 第 6 回 項目 集合
- 第 7 回 項目 集合の演算
- 第 8 回 項目 射影
- 第 9 回 項目 関係の行列表現
- 第 10 回 項目 関係の結合
- 第 11 回 項目 限定
- 第 12 回 項目 基本的性質
- 第 13 回 項目 商集合
- 第 14 回 項目 例題
- 第 15 回 項目 補足

成績評価方法（総合） 出席およびレポートによる。

教科書・参考書 教科書： 使用しない。

メッセージ 集合や論理について基礎的な知識があれば都合がよい。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	活動基準原価計算論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中田範夫				

授業の概要 活動基準原価計算は Kaplan と Cooper によって普及された新しい原価計算だと評価されている。そして、米国やヨーロッパ各国のみならず我が国でもその採用が広がってきている。伝統的原価計算との比較を意識した上で、何が新しい点なのかを明らかにする。

授業の一般目標 活動基準原価計算についての基本的な知識を獲得する。

授業の計画（全体） テキストを決めてそれを順番に報告してもらおう形で授業を進めていく。

成績評価方法（総合） 出席、授業での報告、および授業への参加度によって評価する。

教科書・参考書 教科書：後日指示する。

開設科目	情報処理システム研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	成富敬				

授業の概要 人間の様々な活動を支援する情報処理システムに関する知識や技能の習得をとおして、情報処理システムについて考察する。

授業の一般目標 情報処理システムに関する知識や技能を習得する。

成績評価方法 (総合) 出席と試験。

開設科目	医療経営分析研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	医療経営戦略研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	戦略的マーケティングの展開研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 1980 年代以降の市場の全体的成長の伸び悩みと企業間競争の激化に対応して、マーケティングの戦略のあり方を製品レベルで考えるのではなく、企業全体レベルで考えるようになってきた。これが、戦略的マーケティングという考え方である。この講義では、戦略的マーケティング台頭の背景、基本的性格、対象領域、戦略の内容を考えた上で、他の企業との関係において、マーケティングの諸要素をどのように戦略的に組み合わせればよいかについて、考察していきたい。

授業の一般目標 マーケティング戦略論に関する基本的文献を輪読し、報告と討論を通じて基本的知識、研究方法の修得することを目指す。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 マーケティングの考え方
- 第 3 回 項目 消費者行動とマーケティング戦略
- 第 4 回 項目 競争戦略
- 第 5 回 項目 新製品開発戦略
- 第 6 回 項目 マーケティング戦略のダイナミクス
- 第 7 回 項目 製品政策
- 第 8 回 項目 価格政策
- 第 9 回 項目 プロモーション政策
- 第 10 回 項目 流通チャネル政策
- 第 11 回 項目 サービス・マーケティング
- 第 12 回 項目 ビジネス・戦略の実践
- 第 13 回 項目 SWOT 分析
- 第 14 回 項目 PPM 分析
- 第 15 回 項目 戦略ドメイン

教科書・参考書 参考書：現代製品戦略論：現代マーケティングにおける製品戦略の形成と展開，米谷雅之著，千倉書房，2001 年

開設科目	コーポレートファイナンス研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

教科書・参考書 教科書：現代ファイナンス論, ボディ・マートン, ピアソン, 2002 年

開設科目	経営戦略の研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 この講義は、企業の戦略について、基本的な諸原則と原理を説明し、個々の戦略事例の問題を幅広く取上げる。このことから、企業戦略の包括的理解と応用能力を教授する。/ 検索キーワード トップ組織と意思決定、戦略と状況、原則と原理、コストと便益、組織ネットワーク

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： トップマネジャーの思考を理解し、応用する。 思考・判断の観点： 個別問題でも、全体思考で考え、判断できるようにする。 態度の観点： 自分の意見を、積極的に述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業戦略について
- 第 2 回 項目 戦略と意思決定
- 第 3 回 項目 拡張戦略
- 第 4 回 項目 規模の経済性原則
- 第 5 回 項目 個別事例の紹介：製造業のケース
- 第 6 回 項目 個別事例の紹介：流通業のケース
- 第 7 回 項目 個別事例の紹介：保険業のケース
- 第 8 回 項目 範囲の経済性原則
- 第 9 回 項目 個別事例の紹介：多角化企業
- 第 10 回 項目 個別事例の紹介：流通業
- 第 11 回 項目 統合の経済性原則
- 第 12 回 項目 個別事例の紹介：合併
- 第 13 回 項目 個別事例の紹介：買収
- 第 14 回 項目 組織ネットワーク戦略
- 第 15 回 項目 価値連鎖の統合戦略

メッセージ 経営学の知識が、最初から必要とする。従って、経営学の基本文献を精読しておくことが、望ましい。

開設科目	国際経営戦略研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	稲葉和也				

授業の概要 今日企業を取り巻く環境はグローバルに大きく変化しており、過去の企業行動の原理や行動様式の変革が迫られている。将来が予測できない環境の元でどのように対処すればよいのかを考えるためには国際経営戦略という指針が必要であり、経営戦略的な思考を受講者が身につける必要がある。国際経営戦略は「国際的な活動を行う企業が有する経営資源と企業を取り巻く環境との間に、企業目的の実現にとって最も有利な適合関係を創り出すための手段選択の原理」と定義することができる。本講義では、(1) 企業のパフォーマンス測定に関する財務理論、(2) 取引費用理論、(3) プリンシパル・エージェント理論、(4) ポジショニング理論、(5) 内部資源を重視するRBV(リソース・ベースト・ビュー)、(6) ミンツバークに代表される創発戦略、(7) リアルオプション理論等の経営戦略理論を取り上げ、国際競争戦略を研究する上での基盤としたい。企業戦略に関するこれらの理論や研究成果を受講者が習得し、国際的に応用・研究できる力を身につける。/ 検索キーワード 国際経営戦略、製品ライフサイクル、トランスナショナル戦略、M & A戦略、フリー・キャッシュフロー、株式公開買付(TOB)

授業の一般目標 この科目を受講し、以下のような実力が身に付くと、この科目の目指す学習目標に到達したと考えられる。(1) 企業経営の外部環境と内部の経営資源について理論的に要約し、統合して考えることができる。(2) 企業戦略論で取り上げるいくつかの理論について理解し、説明できる。(3) 国際経営戦略を策定し、実行することを意識して、研究に臨むことができる。

授業の計画(全体) 講義では、教科書に基づきながら具体的な事例をあげて企業戦略について講義形式で進める。講義者には毎回1章ずつ割り振って全体で報告してもらう。これは最初大変かもしれないが、経営戦略論のテキストを自分で読んで理解し、レジュメを作成して聞き手に分かるように報告することが一番内容を習得する上で近道である。指定された教科書(上、中、下巻の3冊)を事前に購入し、講義日の該当箇所を予習して欲しい。学習の仕方・教科書の該当箇所は報告者以外も必ず予習しておくこと・毎日現実に起こっている国際経営に関するニュースや記事に目を配り、理論と結びつけて考えること。講義中に理論の具体例として尋ねることがある。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 国際経営戦略とは何か 内容 戦略の定義 戦略と企業ミッション 創発戦略 戦略と企業経営の環境条件
- 第 2 回 項目 パフォーマンスとは何か 内容 戦略の定義とパフォーマンスとの関係 パフォーマンス概念の定義 企業パフォーマンスの測定
- 第 3 回 項目 脅威の分析 内容 SCPモデル 脅威を分析する5つの競争要因モデル 5つの競争要因と業界平均のパフォーマンス 5つの競争要因モデルの適用事例 国際環境における脅威
- 第 4 回 項目 機会の分析 内容 業界構造と機会 戦略グループによる脅威と機会の分析 脅威と機会の分析におけるSCPモデルの限界
- 第 5 回 項目 企業の強みと弱み 内容 企業の強み・弱みに関するこれまでの研究 組織の強みと弱みの分析 VRIOフレームワークの適用事例 リソース・ベースト・ビューの意義 VRIOフレームワークの限界
- 第 6 回 項目 垂直統合 内容 垂直統合の定義 垂直統合の経済価値 垂直統合と持続的競争優位 垂直統合戦略のための組織
- 第 7 回 項目 コスト・リーダーシップ 内容 コスト・リーダーシップの定義 コスト・リーダーシップの経済価値 コスト・リーダーシップと持続的競争優位 コスト・リーダーシップ実行のための組織
- 第 8 回 項目 製品差別化 内容 製品差別化の定義 製品差別化の経済価値 製品差別化と持続的競争優位 製品差別化実行のための組織 製品差別化とコスト・リーダーシップの実行
- 第 9 回 項目 柔軟性 内容 戦略の選択におけるリスクと不確実性の概念 柔軟性とオプションの定義 柔軟性の持つ経済価値 柔軟性と持続的競争優位 柔軟性戦略のための組織

- 第 10 回 項目 暗黙的談合 内容 協調問題 談合の定義 談合の経済価値 暗黙的談合と持続的競争優位 暗黙的談合実行のための組織体制
- 第 11 回 項目 戦略的提携 内容 戦略的提携の種類 戦略的提携の経済価値 戦略的提携と持続的競争優位 戦略的提携における組織
- 第 12 回 項目 多角化戦略 内容 多角化の種類 多角化の経済価値 多角化と持続的競争優位
- 第 13 回 項目 多角化戦略の組織体制 内容 エージェンシー・コスト 組織構造 マネジメント・コントロール・システム 報酬政策
- 第 14 回 項目 合併買収 内容 M & A 戦略の経済価値 M & A と持続的競争優位 M & A を実行する際の組織体制
- 第 15 回 項目 国際経営戦略 内容 国際経営戦略の経済価値 国際経営戦略と持続的競争優位 国際経営戦略における組織体制

成績評価方法 (総合) 講義への出席、報告、期末試験あるいは期末レポートの結果を基に成績評価を行う。
 それぞれの占める比率は、・ 報告 40% ・ 期末試験あるいは期末レポート 40% ・ クラスへの
 貢献度 (ディスカッションへの参加など) 20%

教科書・参考書 教科書：『企業戦略論【上】基本編 - 競争優位の構築と持続 - 』, ジェイ・B・バーニー,
 ダイヤモンド社, 2003 年; 『企業戦略論【中】事業戦略編 - 競争優位の構築と持続 - 』, ジェイ・B・
 バーニー, ダイヤモンド社, 2003 年; 『企業戦略論【下】全社戦略編 - 競争優位の構築と持続 - 』, ジェ
 イ・B・バーニー, ダイヤモンド社, 2003 年; 『国際経営講義: 多国籍企業とグローバル資本主義』, ジェ
 フリー・ジョーンズ, 株式会社有斐閣, 2007 年

メッセージ わからないことがありましたら遠慮無く聞きに来てください。

連絡先・オフィスアワー e-mail: inaba@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	新事業創造論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有村貞則				